

# 令和3年度 事業報告

目 次	
1 廣望会・役員会開催状況	P 1
2 財産取得	P 4
3 借入金と償還金の状況	P 4
4 クリーニング工房 CoCo の状況	P 6
5 アトリエ CoCo の状況	P 1 4
6 キッチン CoCo の状況	P 3 4
7 CoCo JAVJAV・Bakery Cafe CoCo の状況	P 5 2
8 スタジオ CoCo ・CoCo レスト の状況	P 6 3
9 アートカフェ CoCo の状況	P 8 8
10 地域生活支援センターCoCo の状況	P 9 7

令和4年6月9日

## 社会福祉法人 廣望会

多機能型障がい福祉サービス事業所	クリーニング工房 CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	ア ト リ エ CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	キ ッ チ ン CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	CoCo JAVJAV
	Bakery Café CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	スタジオ CoCo
	CoCo レスト
生活介護 フリースペース	アートカフェ CoCo
共同生活援助・短期入所・相談支援・居宅介護	地域生活支援センターCoCo ながの
共同生活援助・短期入所	地域生活支援センターCoCo ちくま

## 社会福祉法人 廣望会

お陰様で本年度法人設立 23 年となりましたが、一昨年度より引き続きコロナ禍における事業所運営の難しさの中、非常なる緊張感とともに過ごさざるを得なかった 1 年でありました。就労支援においても継続的なクリーニングの大幅な減収・一時的なカフェの閉店、下請け受注・施設外就労の減少と、利用者の皆様の工賃にも直接影響する大変深刻な状況ではありますが、一昨年度のような減額をせずに出来得る限り工賃を支給しました。「仕事がない」ことの厳しさ・辛さ、イベント等人が集まる楽しみを奪われてしまった中で、生き生きと元気に日々を送ることが出来るよう、職員も所員も一緒になって日々の過ごし方を工夫してきました。そんな厳しい状況下ではありましたが、多くの皆様の大きな協力支援を頂き、8 月に長野市温湯温泉湯～ぱれあ内の食堂「ぱれあ CoCo 食堂」をオープンし、地域の中で利用者さんの働き・活躍できる場を拡大しました。また、須坂市の「アートカフェ CoCo」の 2 階に NLS グループコーポレーションの協力を受け、10 月に障がい者の常設アート展示場「ニューパラアートギャラリー」をオープンしました。多くの皆様に障がいのあるアーティストたちのアートの世界を身近にご鑑賞いただけるよう、そして障がいのある人たちと社会とが繋がる拠点となるよう努めるとともに、そのアート作品の販売・レンタル・グッズ販売を行い、多様な障がいのある方々の工賃へと還元してまいりました。

そして、社会情勢・生活環境の変化激しい時代・コロナ禍において、福祉ニーズの多様化、障がいの多様化に伴ってのサービス提供の在り方の難しさを改めて実感するところですが、こんな時だからこそ相談支援及び誰もが拠り所となる居場所を創り、その人らしいその人が望む地域生活の一助となるよう努めて参りました。また、地域の中で支えて頂いていることへの感謝の気持ちを込めて、地域の中で障がいのある方たちと一緒に当法人が出来ることを真摯に考え進めて参りました。そして、障がいのある人もない人も・・・誰もが地域の中で笑顔で「働く」「暮らす」を当たり前を実現できる地域づくりの一端を担うべく、今後においても進めて参りたいと思います。

### 廣望会の役員会等開催状況

#### 【監事監査】

令和 3 年 5 月 27 日 令和 2 年度の監事監査

#### 【理事会・評議員会】

令和 3 年 6 月 14 日 第 91 回理事会

(1) 令和 2 年度事業報告、決算報告、監事監査報告について

(2) 定款変更について(基本財産の追加)

CoCo レスト建物

CoCo レスト土地

- (3)アートカフェ CoCo 外壁及び屋根の工事について
- (4)アートカフェ CoCo 隣接土地の取得について
- (5)賃金規程の改定について
- (6)第 13 期役員(理事・監事)の候補者名簿について
- (7)評議員会を決議省略の方法で行う件

令和 2 年度に関する定時評議員会

第 9 期評議員の選任後初回の評議員会

令和 3 年 6 月 14 日 第 55 回評議員会

- (1)令和 2 年度事業報告、決算報告、監事監査報告について
- (2)定款変更について(基本財産の追加)

CoCo レスト建物

CoCo レスト土地

- (3)アートカフェ CoCo 外壁及び屋根の工事について
- (4)アートカフェ CoCo 隣接土地の取得について
- (5)賃金規程の改定について

令和 3 年 6 月 14 日 第 56 回評議員会

- (1)理事・監事の選任について

令和 3 年 6 月 28 日 第 92 回理事会

- (1)理事長の選任について
- (2)常務理事の選任について

令和 4 年 1 月 24 日 第 93 回理事会

- (1)令和 3 年度補正予算について
- (2)一般指導監査の結果について  
定款施行細則並びに定款施行細則別表の改定について
- (3)アトリエ CoCo(就労継続支援 B 型)運営規程の改訂について
- (4)障がい福祉サービス事業所「CoCo 金沢(仮称)」設置計画について

設置計画・事業計画

予算

運営規程

令和 4 年 3 月 23 日 第 94 回理事会

- (1)令和 4 年度事業計画および予算について
- (2)育児・介護休業規程の改定について
- (3)福祉・介護職員処遇改善規程の改定について
- (4)運営規程の変更について

虐待防止のための措置及び身体拘束等の適正化の規定の追加について

地域生活支援センターCoCo ちくま(短期入所)の運営規程の変更について

## 【評議員選任・解任委員会】

令和3年6月14日 第9期評議員の選任

### 【職員総会・研修】

令和3年3月 令和3年度新年度会及び入所式 法人全職員出席  
理事長の新年度に向けての訓示  
法人新年度計画発表  
新入職員紹介  
辞令交付  
永年勤続者表彰 精励職員理事長賞授与  
情報交換会・懇親会  
(コロナウイルス感染症拡大のため中止)

令和3年12月 法人全職員出席(パート等も含む)  
《研修会》 《総会》  
(コロナ禍のため中止)

### 【諸会議・その他】

令和3年3月 NLSグループ合同による「新年度会・新入職員入所式」

#### コロナ禍のため中止

- \* 毎月1回経営会議(月次報告含む) 出席者: 理事長 参与 事務局長 各事業所長  
法人の経営状況、各事業・福祉サービスの運営状況について協議を行った。
- \* 毎月1回会計月次報告検討会  
出席者: 会計事務所 参与 事務局長 各事業所長 事務担当  
会計事務所より月次の報告を受け、各事業の経営状況について確認、協議を行った。
- \* 各事業所にての定期的な職員会議の開催  
経営会議及び管理職会議の内容の周知、作業・生活支援上の課題検討、ケース検討・就労事業検討等を行った。  
ほか、毎日職員打合せを行い様々な気付き・情報をタイムリーに共有し検討をし、チーム支援を行った。
- \* 各種団体の諸会議及び研修等への参加  
・知的障がい福祉協会・セルフセンター協議会・県社協・県・長野市自立支援協議会・千曲坂城自立支援協議会等の研修及び部会活動等に各事業所より積極的に参加をした。(zoom等)

### 【社会貢献事業】

- \* 地域の小学校との交流会「み～んなともだちプロジェクト」(福祉教育の実践・長野市)
- \* 引きこもりの子供たちや大人たちの活動の場の提供(フリースペース・須坂市・千曲市)
- \* 荒廃農地の活用(長野市)
- \* 長野中央ライオンズクラブとの協力による生活困窮の子供たち・者への支援(フードドライブ・長野市(コロナ禍のため中止))

- \* 長野市生活困窮者自立支援事業への支援協力( プチバイト事業/認定就労訓練事業所登録・長野市 )
- \* 緊急ショートステイの提供 ( 長野市・千曲市・坂城町 )
- \* 長野県知的障がい福祉協会の活動への積極的参加協力
- \* 長野市及び須坂市、千曲市・坂城町の自立支援協議会への積極的参加協力
- \* 長野市住民自治協議会積極的参加協力
- \* 長野市場がの市教育センター運営委員会出席
- \* ながのアビリンピック運営委員会出席
- \* 長野市社会福祉審議会の地域福祉専門分科会出席
- \* 長野市ひきこもり支援ネットワーク会議出席
- \* 長野県障がい者雇用フォーラム会議出席
- \* ほか、地域の行事活動への積極的参加協力

### 廣望会並びに施設に関わる財産取得

令和 3年 6月	クッキング工房C o C o	連続洗濯機改修工事
	総事業費	3,578,960円
令和 3年 6月	アトリエC o C o	洗濯機用タワ改修
	総事業費	385,000円
令和 3年 7月	アートカフェC o C o	土地購入
	総事業費	8,330,000円
令和 3年 8月	クッキング工房C o C o	洗濯機^\t交換
	総事業費	836,000円
令和 3年 8月	アトリエC o C o	小屋(農作業用)増築
	総事業費	792,000円
令和 3年 9月	アートカフェC o C o	屋根・外壁塗装工事
	総事業費	7,612,200円
令和 3年 9月	アートカフェC o C o	2階改装工事
	総事業費	3,756,000円
令和 3年 9月	アートカフェC o C o	コンテナハウス
	総事業費	3,000,000円
令和 3年 11月	アトリエC o C o	軽自動車取得
	総事業費	46,680円

### 借入金と償還金の状況

令和 3年 7月	福祉医療機構へ償還	840,000円
----------	-----------	----------

	” 利息	23,520円
令和 4年 1月	福祉医療機構 利息 (アトリエ CoCo 建設資金借入金)	17,640円
毎 月	福祉医療機構へ返済(年額) 福祉医療機構借入金利息(年額) (地域センター CoCo ちくま 三本木建設時借入金)	2,292,000円 83,442円
毎 月	八十二銀行借入へ返済(年額) 八十二銀行借入金利息(年額) (地域センター CoCo ちくま 三本木建設時借入金)	1,152,000円 166,370円
毎 月	福祉医療機構へ返済(年額) 福祉医療機構借入金利息(年額) (アートカフェ 建設時借入金)	1,548,000円 95,487円
毎 月	八十二銀行借入へ返済(年額) 八十二銀行借入金利息(年額) (スタジオ CoCo 送迎バス購入時借入金)	876,000円 22,711円
毎 月	八十二銀行借入へ返済(年額) 八十二銀行借入金利息(年額) (スタジオ CoCo 機械装置 I R 装置設置時借入金)	644,000円 2,374円
毎 月	八十二銀行借入へ返済(年額) 八十二銀行借入金利息(年額) (スタジオ CoCo 脱水機設置時借入金)	1,500,000円 132,052円
毎 月	八十二銀行借入へ返済(3年据置返済) 八十二銀行借入金利息(年額) (CoCo レスト建設資金)	0円 340,097円
毎 月	福祉医療機構(5年据置返済) 福祉医療機構借入金利息(年額) (運転資金)	0円 30,000円

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業  
多機能型障がい福祉サービス事業所

## ク リ ー ニ ン グ 工 房 Co Co

国の方針と感染者の増減が、仕事量に大きく影響を及ぼす一年でありました。クリーニング工房 CoCo に限らずですが、予想のつかない仕事量の増減は、日々の日課の中にも影響を及ぼすものでした。日々の変化が苦手な利用者の方々が、福祉サービス事業所として、毎日通所できる施設をどの様に運営していくか頭を悩ます日々でした。

昨年同様に、雇用調整助成金の制度を利用して、給与面で極端な減収にならないようにして、なおかつ魅力ある日課にするためにはどのようにするのが大きな課題となりました。

また、変化のある日課を良い機会と捉えて、支援員の担当部署を変えたり、近隣の清掃活動や、地域の体育館で運動を取り入れ、普段と違った利用者の方々との関わりを持つことで、支援力の向上にも努めてきました。

一年を通して、利用者の方々が一人も感染することなく、休まずに通所して頂いたことには本当に感謝しています。

安定した仕事が確保できない中、様々な面でご尽力いただいた関係する多くの方々に感謝するとともに、利用者の方々と支援員の力を十分に発揮できるようにしていきたいと思っています。

### 就労継続支援A型

#### 1 事業の開始

平成 10 年 8 月 1 日 知的障がい者福祉工場操業開始

平成 19 年 4 月 1 日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる。

平成 30 年 5 月 1 日 定員を 20 名から 24 名に変更する。

令和 2 年 4 月 1 日 定員を 24 名から 25 名に変更する。

#### 2 利用者の推移

令和 3 年 3 月 31 日 24 名

令和 3 年 5 月 30 日 1 名退所 23 名

令和 4 年 3 月 31 日 現在 23 名

#### 3 利用者の内訳

出身市町分布

長野市 6 名 千曲市 10 名 上田市 3 名 坂城町 3 名 築北村 1 名

性別 男性 17 名 女性 6 名

年齢

21 歳～49 歳 平均年齢 36 歳

20 代・・・7 名 30 代・・・7 名 40 代・・・9 名

## 障がい種別

全員知的障がい者療育手帳・・・ B1 9名 B2 13名 A1 1名

## その他

男性17名中利用者4名、女性5名中利用者2名がCoCoホーム千曲（当法人運営ケアホーム）より通勤

## 4 勤務体制

始業時刻... 8 : 40 終業時刻... 17 : 10

休憩... 昼休み（50分）3時休み（20分） 実労働時間... 7時間20分

・年間休日90日... 繁忙期及び納期の変更等のため、1年単位の変形労働時間制で運営をしている。原則として木曜日・日曜日は休みとした。（希望者は残業も担っている）

## 5 利用者の通勤方法

（1）通勤支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 12名

（2）徒歩及び自転車 7名

（3）公共の路線バスおよび家族の送迎 4名

## 6 通所状況

勤務実態（出勤率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
97.4%	98.0%	93.2%	93.8%	94.2%	92.9%	92.2%	93.6%	93.3%

1月	2月	3月	年平均
89.4%	92.9%	92.6%	93.6%

全体の通所率は前年度平均とほぼ同様。

## 7 利用者の給与

給与は最低賃金を確保するよう努力しているが、労働実態に合わせて労働基準監督署の承認を得て最低賃金の適応除外を受けている方が9名いる。通勤費は実質全額支給、有給休暇付与、社会保険・労働保険全員加入。雇用調整助成金の制度を使用。

年収の状況

424,800円～1,000,000円	6名
1,000,001円～1,300,000円	3名
1,300,001円～1,400,000円	1名
1,400,001円～1,500,000円	1名
1,500,001円～1,600,000円	12名

平均年収 1,292,000円

月額平均 108,000円

（23名 障害者基礎年金受給...2級23名 年間822,250円）

## 8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・所



長との個別面談にて「就労継続A型支援計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。  
6か月ごとのモニタリングを実施して見直しをした。

## 9 利用者の作業内容

洗い場 3名 シーツローラー 4名 浴衣ローラー 1名  
多種ローラー 9名 タオルたたみ 6名

A型利用者は洗い場、ローラーでの作業が主である。中には体力等に応じ軽作業のタオルたたみを担う方もいる。

利用者は出勤率にもあるように、真面目に日々勤務をして自分の役割を果たしている。ただし、中には能力後退が顕著であり、限られた作業種にしか従事できない方が複数人見受けられる。

## 10 職員の指導態勢 総員 8名（令和4年3月31日）

所長 サービス管理責任者

支援員 3名（パート1名） 職業支援員 2名（パート1名） 配送 1名

職業支援員は、個別担当を兼務する支援員とともに各作業部署に配置し、利用者の作業指導を始め利用者に無理な作業（出荷に直接関わる作業など）や残業と次の日の段取り、機械メンテナンス等の作業をしている。

## 11 職員の処遇

服務規程及び賃金規定により処遇している。

障がい者の人権擁護については、平成24年10月の障がい者虐待防止法施行にあたり、特に職員としてあるべき利用者対応・指導方法について、個別指導及び相談に心がけた。

職員研修については、本年度の実績は下記のように実施した。

### [研修実績]

所内研修 工場内における危機管理・安全管理と工場運営について  
障がい者の人権擁護について

職員研修 長野県サービス管理責任者更新研修  
クリーニング師研修 その他

主催・実施主体	内容	出席者
長野県知的障がい福祉協会	長野県知的障がい福祉研究大会	2名
その他	安全運転講習会	1名

## 12 生産活動

取り扱い業務 ホテル・旅館寝具等のクリーニング

シーツ 掛けカバー 枕カバー クロス類 ナプキン類 浴衣 ガウン  
タオル類 一般クリーニングの受付

協力顧客 (株)戸上リネンサプライ 長野リネンサプライ(株) 信州リネンサプライ(株)

(有)東京洗染 上田市 坂城町 千曲市 労協ながの(つるの湯・福祉健康プラザ) 千曲市高齢福祉課 千曲市福祉課 千曲市子育て支援課 (千曲市内保育園4施設)  
千曲坂城消防本部 ともいきライフ月影 山崎建設(株)  
(白鳥園) 坂城町保育園・児童館

生産状況 生産トン数は前年度より約14%増となっている。

### 13 健康管理

利用者の特性から健康管理には日々のきめ細やかな対応が必要なため配慮をしている。(職員も同じ)

日々の配慮

出勤前の家庭での検温・健康観察

施設入場時の消毒ルームの設置・検温・指手消毒・健康観察

作業時の巡回指導と職員の直接指導

特定指導、相談

感染症予防のための「手洗い・うがい・消毒」励行のための声かけを常時実施

熱中症、脱水症状の注意喚起と水分補給の呼びかけを常時実施

特定管理

- ・毎月2回の非常勤安里みどり看護師による健康相談

事業合計 延べ100人実施

健康相談時に体重測定、及び血圧測定、必要に応じて体温測定を実施し、経過的に記録をして健康管理に努めている。

生活習慣の相談が主である。また、持病のある方や、体調を崩した方に対しては、健康の維持についてのアドバイス等いただいた。

健康相談では、いつもと違う雰囲気の中で色々なことを相談することができている。普段ご自分のことを伝えることが苦手で、訴えが少ない方も看護師にいろいろと相談ができていた。

- ・健康診断

日本労働福祉協会長野県支部による健康診断 令和3年6月2日(水)

- ・安里嘱託医師による健康診断 令和4年2月16日(水)

家庭連絡 必要に応じて随時行う。病院へのつなぎも行う。

保健講話

安里嘱託医師による健康診断 令和4年2月16日(水)

講話についてはプリント配布

うつらない、うつさない、ひろげない予防方法。

インフルエンザの予防接種実施 令和3年11月10日(水)

### 14 安全・衛生管理

安全管理

日常、機械操作および安全確認を行っている。工場内の機械設備 安全・危機管理に努める、機械設備の保守点検、管理業務の見直し、危険個所に事故防止のためのガード等設置、作業標準手順書の整備、危険区域、部位に注意喚起表示の設置、機械修理時の標記、動作確認等を行っている。

日常的には、管理者の指示のもとに安全・衛生思想の普及や労災事故防止のための点検等を随時行うとともに、事故防止についての声掛けを継続的に行っている。

この他、衛生管理、危険防止として日々施設内外の整備に努めるため、朝礼終了後から作業開始までの時間を利用して、各部署毎に清掃に取り組んだ。

防災訓練

防災計画により、防災訓練を年度内2回実施した。

令和2年 12月22日(水) 消火・通報・避難誘導訓練

令和4年 3月 18日(金) 消火・通報・避難誘導訓練

避難誘導訓練においては消防署員より「非常によく訓練されている」と評価がある。

## 15 委託給食

常時利用者 20名

昼食数 年間266日 合計5,320食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見の吸収(随時)

誕生日メニューの実施

給食検討会の実施(キッチンCOCO:栄養士・調理員・所長・給食担当)

## 16 QOL活動の実施状況 - 就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様 -

工場稼働日におけるカルチャー教室の実施

・塗り絵・雑巾づくり・貼り絵・楽器練習

・季節に応じたミニ行事 「鏡開き」「節分豆まき」

諸行事の実施および参加

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

生活相談支援 随時或は特定して実施 健康上の問題 仲間関係

経済生活面等 ケースによっては圏域のコーディネーター、

関係機関とケア会議を行った。

家族会の運営 家族会総会・家族のつどいは書面にて実施

## 17 地域への開放状況

千曲市及び周辺市町

・若宮区及び芝原区には区費を納入し区民としての交際をしている。

・千曲・坂城自立支援協議会

運営委員会 就労・事業所連絡会 さんさんネット部会 地域支援部会

ケアマネジメント部会 全体会 にZOOM参加

同業者関係

環境衛生同業組合に加入、情報を得ている。

## 現場実習の受入れ

- ・ 稲荷山養護学校、千曲坂城相談機関センターから体験実習や就職をめざしての実習の受け入れ
- ・ 施設研修のための見学受入れ（学校、PTA、県内外の施設、企業等）  
県及び北信の知的障がい福祉協会の一員として、各会合に ZOOM 参加した

## 就労継続支援 B 型

### 1 事業の開始

- 平成 14 年 4 月 1 日 障害者等共同作業訓練事業を開始する  
平成 15 年 4 月 1 日 補助金認可され、新たにスタート  
平成 19 年 4 月 1 日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる  
(就労継続支援 A 型事業・就労移行支援事業)  
平成 21 年 4 月 1 日 就労継続支援 B 型事業開始 定員 10 名  
平成 25 年 12 月 1 日 定員を 10 名から 8 名に変更する。  
平成 30 年 5 月 1 日 定員を 8 名から 10 名に変更する。  
令和 2 年 4 月 1 日 定員を 10 名から 15 名に変更する。

### 2 (利用者の状況)

- 令和 3 年 4 月 1 日 15 名  
令和 3 年 6 月 1 日 1 名入所  
令和 3 年 7 月 31 日 1 名退所  
令和 3 年 9 月 30 日 1 名退所  
令和 4 年 2 月 28 日 1 名退所  
令和 2 年度における総在籍者数 13 名

### 3 利用者の内訳

- 出身市町分布 千曲市 9 名 上田市 1 名 長野市 2 名 坂城町 1 名  
性別 男性 10 名 女性 3 名  
障害種別 知的障がい者 12 名 (A 1...1 名 B 1...6 名 B 2...5 名)  
身体障がい者 1 名  
年齢 19 歳 ~ 60 歳 平均年齢 38.6 歳  
10 代...1 名 20 代...2 名 30 代...5 名 40 代...1 名 50 代...3 名  
60 代...1 名

### 4 作業訓練内容

- 事業運営日数 266 日 (基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所)  
日 課 8:40~17:10 昼休み 50 分 3 時休み 20 分  
(基本的には本人希望と体調・体力、家庭環境等状況を見ながら、ご本人にとって無理のない状況で行っている。家族の介護、家事を担っている利用者等もいる)  
作業訓練内容 タオル・ガウン・パジャマ・作務衣・ジャージ等のたたみ作業

公共温泉施設のマットのクリーニング（回収と配達も）

シーツ等投入補助 洗い場仕分け補助

- 状 況
- ・ひとりひとり状況が異なるなかで通所状況も様々である。
  - ・安定的な作業をする方が多数いる一方で、中には、作業の力の停滞が顕著に見られる方もいる。障がい特性や、心理的な部分で支援方法に苦慮する場面もあり、必要に応じて家庭や相談機関との連携を図っている。
  - ・13名のうち発達障害・自閉的傾向の方が4割の人数である。障がい特性や個性に合わせ専門的な知識や支援方法が必要であり、職員の支援技術の研さん習得が引き続き課題である。

## 5 利用者の通所方法

(1) 通所支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 2名

(2) 徒歩及び自転車 11名

事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている

## 6 利用者の通所状況

(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
98.7%	95.4%	97.2%	94.3%	91.2%	96.8%	92.1%	89.4%	89.6%
1月	2月	3月	年平均					
93.5%	98.2%	91.6%	94.0%					

## 7 利用者の工賃支給

月	平均工賃額	月	平均工賃額
4月	18,000円	10月	21,000円
5月	17,800円	11月	20,000円
6月	20,000円	12月	21,000円
7月	20,000円	1月	18,000円
8月	21,000円	2月	14,000円
9月	19,000円	3月	16,000円
平均月額 18,800円			

## 8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・施設長との個別面談にて「就労継続支援B型計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。

6か月ごとのモニタリングを行い見直した。

## 9 職員の指導体制

所長 サービス管理責任者1名

支援員 4名（うち1名目標工賃達成指導員）

## 10 健康管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業と同様

## 11 給食の提供

希望者には給食を提供した（1食260円） 10名 2,660食

利用者の希望・意見の吸収（随時）

誕生日メニューの実施（利用者の誕生日近くに本人の希望メニューによる）

選択メニューの実施（今年度は特に希望を反映）

給食検討会の実施（キッチンCoco：栄養士・調理員・所長・給食担当）

## 12 QOL活動の実施状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業と同様

## 13 地域への開放状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業と同様

**第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業**  
**多機能型（ 就労継続B型 生活介護）**

**アトリエ CoCo**

お陰様で本年度17年目を迎えました。本年度は引き続きコロナウイルス感染症対策に追われ、ウイズコロナといった新しい生活様式を模索しながら過ごした1年でありました。オープンイベント、一泊旅行、土曜日課のQOL活動（調理実習・外出活動）、ステージ発表、地域交流（わかほ福祉まつり・若穂文化祭等）、生活の楽しみが奪われてしまいましたが、リモートによる北海道旅行の実施（映像による名所の旅＋北海道海鮮丼＋スタンプラリー＋北海道のお土産注文）や保科小学校とのお手紙による交流や3密を避けた内部のみの季節折々のイベントなどを実施しました。また昨年度に引き続きホテル等のタオル類のクリーニング作業の激減、企業への施設外就労の休止、自主製品（野菜類等）の販売会の中止等厳しい状況でしたが、何とか所員の皆さんの糧である工賃は減額をせずに支給させて頂きました。

また、地元若穂に在する長野市温湯温泉湯～ぱれあの支配人より食堂部分を担って貰えないかとお声がけ頂き、施設外就労の場として「ぱれあCoCo食堂」をオープンし、利用者さんの新たな活躍の場を拓けました。

所員の皆さんは体調を壊すことなく、風邪もひかずに素晴らしい通所率であったことは大変喜ばしいことでありました。アトリエCoCoに行きたいと元気に通所される皆さんと一年間何とか無事に過ごすことが出来たのも、ご家族の皆様他、多くのご協力・ご支援をいただいた皆様のお蔭と感謝申し上げます。

ほか、生活困窮者のための就職活動応援のため「まいさぼ長野」よりの依頼によって「生活困窮者就労訓練事業」を受け入れ、社会貢献として生活困窮者への支援も含め、より良い地域社会を築き上げていくために、このコロナ禍の中においても新しい生活様式を模索しながら、私たちは障害福祉サービスを提供する事業者として地域の中で何を成すべきかを考え、今後も地域の皆様と様々なるチャレンジをしていこうと考えています。

**就労継続支援B型事業**

**利用者の推移**

令和3年12月13日	新規入所	...在籍者数	39名	
			総在籍者数	39名

**生活介護事業**

**利用者の推移**

令和3年4月1日	稲荷山養護学校卒業生受入	...在籍者数	23名	
			総在籍数	23名

**就労継続支援B型事業**

**1 所員の内訳**

## 出身市町村別

長野市 28 名 信濃町 2 名 須坂市 3 名 飯山市 1 名 小川村 1 名 筑北村 1 名  
千曲市 2 名 高山村 1 名

性 別 男 28 名 女 11 名

平均年齢 39 歳（令和 4 年 3 月 1 日現在）

障がい種別 知的障がい 35 名 精神障がい 3 名

## 2 通所方法

送迎バス利用 長野駅より 12 名 大豆島東団地より 7 名 信濃川田駅より 2 名  
川中島駅より 2 名

家族の送迎 2 名

バイクまたは車（本人運転による） 3 名

徒歩 9 名

路線バス 2 名

## 3 日課について

8 : 5 0	通所 着替え
9 : 0 0 ~ 9 : 1 0	朝会 ラジオ体操
9 : 1 5 ~ 1 0 : 3 0	作業
1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 0 0	作業
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0	昼食 休憩
1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	作業
1 4 : 3 0 ~ 1 4 : 5 0	休憩
1 4 : 5 0 ~ 1 5 : 3 5	作業
1 5 : 3 5 ~ 1 5 : 4 5	掃除
1 5 : 4 5 ~ 1 6 : 0 0	着替え 帰りの会

土曜日は、活動内容によってさまざまに設定する。自由通所日（作業）の場合は 1 0 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0 まで。Q L 活動の場合は、活動内容によってその都度設定。

毎週木曜日の午後はカルチャー活動

## 4 通所状況

通所実態（通所率）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
78,0%	69,5%	79,9%	73,8%	71,4%	75,5%	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
73,6%	71,8%	69,6%	64,5%	66,9%	72,1%	71,0%

毎週土曜日及び祝日は自由通所日（Q L 活動日以外）としているが、通所率は低い。

月 2 回ほど土曜日に実施している Q L 活動は、今年度もコロナ感染症の影響で取り組めなかった。



精神障がいのある数名は通所率が低い、その他の所員は概ね元気に安定的に通所した。

## 5 個別支援計画について

所員に対して、日々支援を行うにあたって、最も大切となってくるのが個別支援計画である。計画を立てるにあたり、事前にご本人やご家族、関係機関等とのケア会議を開き、アセスメントを行い、ご本人のこれまでの歩みや、得意なことや苦手に行っていること、日々の行動や日常生活などで配慮することなどを確認し、個別支援計画を立てる。個人個人のニーズは様々であり、出来上がってくる個別支援計画もそれぞれ違う。この個別支援計画が重要な要素、手段となって支援が展開されていく。

## 6 就労活動について

### 《 平均工賃 》

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	22,768 円	10月	20,906 円
5月	20,203 円	11月	20,753 円
6月	23,273 円	12月	26,338 円
7月	26,842 円	1月	18,757 円
8月	20,567 円	2月	18,162 円
9月	21,890 円	3月	25,721 円
平均工賃額 22,183 円			

工賃については、昨年については、コロナ禍のため、大幅に下がったが、今年度については、100%戻っていないものの、減額支給の月はなかった。

### 【 クリーニングチーム 】

売上目標額... ¥20,000,000

売上実績額... ¥24,848,370 (対目標額 124%)

「皆で協力、クレームゼロ・事故ゼロ・残業ゼロ！コロナに負けず結束、工賃アップ！」

#### 【評価及び課題】

##### < 評価 >

- ・今年度もコロナ禍の1年であったが、昨年度と比較すると修学旅行や東京五輪の開催によってホテル等の稼働はやや上がり、売り上げを伸ばすことが出来た。今後も厳しい状況であることが予想されるが、その中でも経費削減に努めるなどして更に売り上げを伸ばしたい。また今年度は溜まっていた染み抜きや不良タオルの整理をこまめに行い、作業室内、洗い場前の整理整頓を心がけた。今後も作業場の清潔を意識し、気持ちよく仕事に向かえる環境を整えることで作業効率、生産性の向上に繋げていきたい。作業だけではなく、四季折々の景色を楽しむレクリエーションを考えながら、メリハリを持って作業に当たれるよう考えていく。

##### < 課題 >

- ・コロナ禍に加え、重油の値上がりに関しても頭を悩ませた1年であり、いかにして効率の良い仕事をするか常に考えていく必要がある。機械の稼働を集中させる、優先順位を考える、機械

のオンオフなど日常の中で経費削減に対する意識を皆で共有していくことも重要である。

- ・機械修理に関しても、日々のメンテナンス(フィルター清掃、機械への注油、薬剤管理)を怠ることなく異変にいち早く気づき早急に対応する意識も忘れずに持ち続けていく。

<来年度に向けて>

- ・今後もコロナウイルス等、世の中の状況に左右されることが予想されるが、関係各所と連携し新規の客先または自社営業の可能性を探る。

### 【 農作業チーム 】

目標売上額...2,300,000 円

売上げ実績...2,062,225 円 (対目標額 89%)

「頑張れ！楽しめ！新たな取り組み！進め次のステップへ」

<作業内容>

- ・新規に借りる畑でのジュース用トマトの栽培。
- ・年間通じて計画している野菜の栽培
- ・畑管理(育苗、野菜の周囲や畝の中の草取り、石取り、草刈り)
- ・収穫・袋詰め等の出荷準備
- ・きのこキャップ(年間通して軽作業より)
- ・花束の販売(仕入れ)
- ・ベーカリーカフェ CoCo・キッチン CoCo 等への配達
- ・その他

<評価・課題>

- ・昨年同様コロナ禍の為、イベントがなかなか出来なかった、無かったことで売上が伸びなかった。目標売上額をクリア出来なかった。
- ・新たな試みを図った。ジュース用トマトの栽培
- ・以前からの継続で、堆肥を重点的に沢山入れる事、雑草対策として野菜に応じてマルチシートを使用した事で出来の良い美味しい野菜を沢山作る事が出来た。
- ・収穫した野菜は売り切るようにし在庫や破棄を減らすこと、市場も有効活用し売る事が出来た。
- ・家庭通知を行い宣伝、営業することで、所員の家庭からも沢山注文を頂けた。
- ・小豆に関して、例年の反省を活かし雑草処理の対応をし、前年以上の収穫量が増えた。
- ・堆肥取りのチームワークが良くなり、所員それぞれが役割をよく理解し、以前よりも時間を短縮して作業を行うことが出来てきている。
- ・各々が自分のやりやすいやり方を考えながら行うことが少しずつ出来てきた。
- ・新たな作業をするにあたり、各々の能力の把握を再度見直す。
- ・冬場の作業で長野市農業公社から枝拾いの体験会に参加し、今後の作業に取り入れる事が出来そうだった。
- ・B級品大豆・黒豆をアトリエ、ベーカリー、ぱれあ CoCo 食堂で使ってもらえた。

<今後について>

- ・R4年度から小麦の栽培を開始する。
- ・今まで借りていた農地を返す。
- ・小麦の栽培に際して、借りる畑が増えるため、農地の整理を図る。

- ・野菜の卸先の要望に応え、新たな品種(ラズベリー・ブラックベリー・チャービルミント)・再開する品種(ブルーベリー・トウモロコシ)を栽培する。
- ・農作業班の使える車両を1台増やして欲しい。  
現在軽トラックとステップワゴンを使っているが、年々職員及び所員の人数が増えている。(職員5名所員8名 計12人)乗れたとしても10人までの為、行けない人がいることになり他班にも迷惑をかけてしまう。また車両の確保も前もって行わないといけない。
- ・冬場の作業場の確保。前年度使っていた場所が地域生活の方に使われてしまった為
- ・前年に引き続き、時期によって作業が重なってしまい、また人員不足等で雑草の処理が追い付かず、収穫量が減ってしまう事がある。マルチシートを有効活用し、出来るだけシートを敷いて対応をしていく。
- ・所員それぞれの特性を活かし、バランス良く作業が出来るように個々の特化した面を見つけ、更なるスキルアップを目指していく。
- ・雨の日や冬場に出来る作業として、軽作業からきのこキャップの作業を分けてもらえることになり継続していく。新たな作業の模索
- ・熱中症対策として、休憩を細かく取り、こまめな水分補給や塩分のある飴の支給等行っていく。
- ・キッチン CoCo、ベーカリーカフェ CoCo、ぱれあ CoCo 食堂との打合せを行い、なるべく希望に応えていけるようにしていく。
- ・出張販売新規の場所模索

## 【 移動販売チーム 】

<販売活動報告>

野菜販売全体を見れば売上は上がったが、目標以上には程遠い状況。

・野菜売上...943,340円 (前年比(2月まで)+76,152円)

### 水曜日...市役所・ふれあい福祉センター他

今年度は昨年度から続くコロナウイルスの影響で人通りが少なく集客することが厳しい状況が続いた。昨年度同様、早い段階から販売をスタートする事が出来た。今年度は、警戒レベルが5で高く12月まで販売を実施。売上は中々伸びなかった。

### 金曜日...長野合同庁舎・長野市社会福祉事務所他

長野合同庁舎での販売をしていたが、売上が低迷していたため取り止めた。

新たに長野市社会福祉事務所で販売を開始した。合同庁舎から異動された方や新規の方を獲得した。新鮮な野菜を楽しみにしてくれている常連さん達はいるが、タイミングによって外へ出払ってしまっていたり、同じ野菜が続くと飽きてしまったり...そういったことが理由として考えられる。接客を通じてニーズを聞いていければと思う。

### JAVJAV

市役所等での売れ行き次第だが、不定期で販売させてもらっている。

来るのを待っていてくれる所員さんもいる為、今後も継続して行こうと思う。

### アトリエ内販売(家庭通知等)

家庭通知での宣伝や、送迎で来た親御さんへの声掛け等で、売上アップへと繋げる事が出来た。来年度も引き続き、宣伝・声掛けを続けていく。

## キッチン CoCo

・売上...398,953円 (前年比(2月まで)-114,150円)

今年度は、昨年度よりも売上げが落ちてしまった。連絡等は密にしていたがなかなかニーズに合うことができなかった。来年度は、ニーズに応えられるようにしていきたい。

## ベーカリーカフェ CoCo

・売上...126,513円 (前年比(2月まで)-70,374円)

今年度は再度関係を立て直し、頻繁に声を掛けることで多くの野菜を使用してもらえることが出来たが、売上は落ちてしまった。次年度も継続して声を掛けていく。

## ぱれあ CoCo 食堂

・売上...150,926円 野菜販売厨房含む(前年比なし)

今年度から開始。ゆーぱれあに店頭販売に持って行った野菜も使って頂いたりしたことで、かなり売上の面で貢献して頂けた。

## イベント販売

・イベント販売売上...63,500円 (前年比+63,500円)

with コロナでイベントでの販売がいくつかできたが、まだまだコロナ前の状況にはなく、売上げもわずかなものだった。

## 【 喫茶サロンチーム 】

売上実績...196,400円 (対目標額 78%)

- ・所員4名・職員3名で、毎日所員1~2名・職員1名体制の当番制で行った。
- ・毎日平均10名弱程度のお客さんが来てくれた。最も少ない時は1日4名、多いときには15名ほどの利用があった。
- ・4月から9月までは、冷たい飲み物のみの提供で、定番のメニューの他にも楽しみメニューを毎日出した。楽しみメニューは大変人気があった。
- ・10月から3月までは、冷たい飲み物のほかに、温かい飲み物も提供した。
- ・今までメニューになかったお汁粉を提供したところ、かなりたくさんのお客さんが、お汁粉目当てに来てくれた。おかげでその月の売上げが伸びた。
- ・お菓子も定期的に種類を変えたりして、メニューに飽きがこないように工夫をした。
- ・以前はココア等の粉などを引き出しに入れていたが、粉を食べてしまう利用者があるので、現在は食べられるものを全て冷蔵庫で保管をしている。

### < 今後の課題 >

- ・ふざけた態度で当番を行っている所員もいるので、仕事としてやっているという自覚を持たせるように支援を行っていく。
- ・みなさん当番を何年か続けて行っているため、以前よりスムーズに仕事がこなせるようになってきたので、馴れ合いにならないように気を付けていきたい。
- ・お客さんに対してもう少し声掛けが出来るようにしていきたい。  
「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」など
- ・色々なアイデアを出し合って、季節感を出したりするなど喫茶サロンの雰囲気をもっとよくつくる空間となるようにし、毎日安定してたくさんのお客さんが来てくれるように頑張る。

- ・常に喫茶サロンがきれいな状態になるように掃除を徹底する。
- ・常連のお客さんが固定されているので、新しく来てくれるお客さんを増やせるような工夫を考える。
- ・毎年講習会を受けているので、学んだことを生かせるように支援をしていく。

< 売上実績 >

R 3.4	17,100	R 3.11	13,000
R 3.5	12,200	R 3.12	20,400
R 3.6	16,700	R 4.1	15,800
R 3.7	14,300	R 4.2	19,500
R 3.8	16,600	R 4.3	20,500
R 3.9	16,200	合計	196,400
R 3.10	14,100		

昨年同様、コロナの影響でイベント関係が全て中止となり、売り上げが大幅に減少している。

今年もしばらくはイベントの開催は見込めないので、日々の集客に努めたい。

日によって客数は違うが、毎日を平均して 10 人の客数を確保したい。

次年度の売上目標は、1 か月平均 2 万円、年間で 24 万円を目指す

#### 【 所外就労チーム 】

**売上実績 (R3 年度) ...¥7,49,223-**

**長野リネンサプライ(須坂工場)**

**売上実績 (R3 年度) ...¥2,132,460- +¥532,460**

作業について

実施内容

所員参加人数 < 3 月第 4 週実績 >

月	火	水	木	金
5	4	4	5	4

- ・アトリエ専用の作業場で、ラバーシーツの検品・仕分け・たたみ作業を行なった。
- ・アトリエ CoCo 職員を常時 1 名配置し、作業に集中し品質の安定を保つこと、スピードアップを指導した。

運営面

- ・ラバーたたみを終了次第、工場 2 階にてタオルたたみを行った。

評価、課題

- ・ラバーシーツのたたみ直しは、相当な時間のロスなので、たたみ直しの少ない方法を繰り返し教えていく。

**エア・ウォーター**

**売上実績 (R3 年度) ...¥1,095,957 + ¥345,957-**

実施内容

所員参加人数 < 3 月第 2 週実績 > (月・水・金のみ実施)

月	火	水	木	金
3		2		3

- ・中国からの材料が入らず、途中中断をはさみながら実施した。

運営面において

- ・机に向かい個人で作業する作業であり、集団での共同作業の多いクリーニングに馴染めない障がい特性を持った参加者が実力を発揮でき全体の作業量が増えた。

評価、課題

- ・従業員さんからの励ましや声掛けにより、一層の作業意欲に繋がりました。

今後に向けて

- ・予告なく作業が切れることも今後予想されるため、切れた時の作業の回しを考えていきたい。

### ケアプラザ若穂

**売上実績 (R3 年度) ¥323,400 + ¥5,400**

所員参加人数 < 3月第4週実績 > (月・火・金のみ実施)

月	火	水	木	金
4	5			4

- ・浴室清掃、シーツ交換作業。限られた時間内に作業が完了できている。

運営面

- ・訪問時に全員で元気な挨拶ができ施設の方に暖かく受け入れていただいている。
- ・シーツ交換が出来る所員が限られており、風邪等で複数名欠席すると施設職員の方にお手伝いいただくことがあった。

評価、課題

- ・分担場所を集中して責任をもって行うことができた。
- ・挨拶を徹底した。事務所だけではなく、職員や利用者さんにも挨拶ができるようになってきた。今後も続けていきたい。
- ・目標時間を決めて、そこに向かってみんなで協力して終わるようにしている。
- ・私語を控え、作業に集中するよう促している。時々私語が増えてしまう人もいるので、今後も集中できるようにしていきたい。

### 公民館清掃

**売上実績 (R3 年度) ...¥316,800 + ¥0**

実施内容

所員参加人数 < 3月第2週実績 > (月・水・木 実施)

月	火	水	木	金
3	4			3

- ・保科(月曜) 綿内(火曜) 川田(金曜)の各公民館の、広間、料理教室、トイレ、廊下、階段、下駄箱の清掃業務。
- ・主に、ほうきの後みんなで水モップまたは、ぞうきんに分かれる。

運営面において

- ・週三回で午前中だけの作業。
- ・3名の所員のチームを組み、職員一人が付き添った。
- ・時間の制約を受けないので休む人が出てもカバーしやすい作業であった。

評価、課題

- ・冬は水モップが出来ないので時間が余る。そのため窓拭き等見付け掃除をして夏にできなかったところを隅々まで掃除することが出来た。
- ・地域の若穂公民館をきれいにしていくと言う気持ちを持ち、チームとして取り組めた。

#### 川田駅・綿内駅トイレ清掃

売上実績 (R3 年度) ...¥315,150- + ¥0

実施内容

所員参加人数 (火・水・金 実施)

月	火	水	木	金
	4	3		4

- ・川田駅・綿内駅トイレ・・・女子トイレ、身障者用トイレの清掃業務
- ・ボランティアで、トイレ・駅の周りのゴミ拾いをしています。

運営面において

- ・週3回で午前中1時間での作業
- ・3～4名の所員のチームを組み、職員1人が付き添った。

評価、課題

- ・それぞれ分担して、便座のブラシ、トイレ内の掃き掃除、洗面台、ゴミ拾いに分かれて責任を持って行うことができた。
- ・駅を使う方に大きな声で挨拶ができた。今後も続けていきたい。

#### 【佐川急便】

売上実績 (R3 年度) ...679,766 + ¥229,766-

今年度より、仕事のある日のみ佐川へ出向き、それ以外の日は、軽作業チームの板の作業をチームで取り組んだ。板の入荷は多く、佐川所外の委託代より工賃を稼いだ

今後についても佐川急便の作業量が増えることは見込めないため、佐川チームとして引き続き板作業を行い、新規の作業を探して行きたい。

#### 【ぱれあ CoCo 食堂】新規事業

売り上げ実績 (R3 年度) ...¥2,633,863

実施内容

所員参加人数 (月・火・金 実施<土・日もオープンはしているが所員の實習はなし>)

月	火	水	木	金
1	1			1

- ・綿内湯～ぱれあ内の食堂スペースをお借りして令和3年8月にオープンし、所外實習の位置づけで、所員も一緒に業務に当たった。
- ・コロナ禍の影響を受けてはいるものの、今後の展開次第では、時間の拡大や売り上げアップを図りたい

## 7 イベントについて

新型コロナウイルス感染拡大で、オープンイベント及び CoCo 家族旅行は実施できなかった。比較的感染状況が落ち着いていた 10 月にリモート北海道旅行を、12 月クリスマス会を企画した。所員の皆さんのモチベーションを下げない工夫が必要となった

## 8 QOL 活動について

イベント同様に一回も企画できずに終わった。

## 9 カルチャー

毎週木曜日の午後に、スポーツカルチャー、音楽カルチャー、アートカルチャーに分かれて実施。

カルチャーの時間に年 4 回大掃除を、年 2 回防災訓練を行った。

### スポーツカルチャー

主として南長野運動公園体育館を借り、好きなスポーツを行った。年度当初は新型コロナウイルス感染拡大を受けて、緊急事態宣言が終わるまでは、ドライブなどで凌いだ。

### 音楽カルチャー

昨年度に引き続き外部講師を招き、アート活動を行った。その作品が 10 月・11 月・2 月の展覧会に出品することができ、所員のモチベーションも上がった。

### アートカルチャー

それぞれ課題を決め集中して活動ができた。塗り絵の作品が多かった。

## 10 保健衛生について

立岩囑託医の指導の下に、年間計画に沿って実施した。

### 健康相談について

日時	:	毎週(火) 13:00 ~ 16:30 に一人 10 分程
実施者	:	囑託看護師 : 斎藤先生
実施内容	:	体重測定、血圧測定、健康相談
相談者数	:	毎回 24 ~ 27 名程受診。 生活介護の方...毎回 就 B の方 月 1 回.....約 10 名 3 ~ 6 ヶ月に 1 回.....約 30 名

### まとめ

- ・職員に話している事とは別に自分の思いや出来ごとを、健康相談の時間に相談をするという方が多い。家庭や仕事や趣味や休日の出来ごと等。健康相談で、先生と関わる事を楽しみにしている所員さんも多い。
- ・健康相談の結果は、職員の朝会で周知し、緊急の場合は、担当職員と個別に話をしたり、地域生活支援センターや給食係にも相談し、全員で共有した。
- ・健康状態が思わしくない場合は、担当職員から結果を家庭へ報告してもらった。主に通院依頼や血圧や体重が基準値を大幅に上回っている方へ連絡した。肥満については、アトリエだけでなく家庭でも気を配っていただく必要がある。間食や食事の量、運動についての注意点をプリントし配布させて頂いた。



・体重が増え続けている方が、何名かいらっしやった。

#### < 斎藤看護師より >

- ・体重増加に苦勞されている方が目立つ。体重記録表を本人と見て、少しの変化にも声をかけている。
- ・一方、体重チェックで落ち込む方がいるので、サラッとした対応を心がけている。コミュニケーションのひとつとして健康相談があるのだと思う。
- ・精神疾患がある人は4~5月に落ち込む時期なので、注意深く相談をしている。
- ・コロナ感染防止のマスクは、その都度正確に付けるように話しているが、どうしても付けない方、鼻が出てしまう方がいる。
- ・血圧が高い方には生活面についてお聞きし、塩分等に注意するよう話すとともに通院を勧めた。

#### AED 講習会

日時 : 5月24日(月) 16:15 ~ 17:00  
実施機関 : セコム上信越株式会社  
実施内容 : 心肺蘇生とAED使用の流れについて

#### 健康講話

日時 : 7月1日(木) 15:35 ~ 15:50  
実施内容 : 夏に向けての注意点について  
\* コロナ感染拡大で冬場の健康講話は延期

#### 健康診断について

##### < 1回目 >

日時 : 7月1日(木) 13:30 ~ 17:00  
7月15日(木) 13:30 ~ 17:00  
実施機関 : 特定非営利活動法人 メディカルチェック  
実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、聴力検査、  
(血液検査、胸部レントゲン、心電図) 医師による問診

##### < 2回目 >

日時 : 9月3日(金) 14:00 ~ 16:00  
9月6日(月) 14:00 ~ 16:00  
実施者 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師  
実施内容 : 問診及び聴診

#### インフルエンザ予防接種

##### < 一回目 >

日時 : 11月2日(水) 13:30 ~ 14:30  
実施機関 : 立岩内科小児科医院 (立岩先生 + 看護師さんの2名)  
実施内容 : 予防接種  
実施人数 : 109名 (所員 + 職員 + 他事業所)

##### < 二回目 >

日時 : 11月9日(火) 14:00 ~ 14:30

(実施機関・内容については同上)

実施人数 : 19名(所員+職員+他事業所)

#### まとめ(以上、保健行事について)

- ・今年度もコロナ流行があったが、一連の保健行事はほぼ例年の日程で推進できた。
- ・独自の行動指針を掲げ家庭通知を出し家庭にも協力してもらった。
- ・健康診断事業者は立岩先生のお計らいで昨年からメディカルチェック様に変更、事前の打ち合わせも細かくできスムーズに実施できた。
- ・インフルエンザ問診票...何点か直前に記入不備に気付く。事前にチェックが必要。

#### その他の活動について

- ・コロナウイルス対策(次亜塩素酸ミスト等設置、ドアノブ・手指消毒、1時間毎の換気、所員・職員の検温、パーテーション設置、健康観察等)
- ・毎日特に給食前の手洗い・うがい・消毒の実施。マスク着用の励行。
- ・医薬品の管理・補充・整理整頓。ノロ処理セットの用意と管理。
- ・月末の金曜日に歯ブラシ・コップ・上履きを持ち帰るよう呼びかけ。
- ・AEDの管理。

#### まとめ(その他活動について)

- ・コロナウイルス対策は、3密を避ける・換気の徹底等対策を取りながら重点的に行っていく。今後も国の方針を注視しつつ、これからも障害者施設として適切な措置を取るようになっていく。
- ・健康チェック表を配布し、毎朝検温と咳・鼻水等体調の観察をして頂くよう、家庭やホームとも連携を取っていく。
- ・手洗い、うがい、消毒は、給食前に毎日実施できた。
- ・夏場や冬場の着替えや入浴について、定期的に声かけをし、清潔を保つようにしていく。
- ・コップ・歯ブラシ、上履きを月末の金曜日に持ち帰るようにした。お家の方にとっては、交換時期や臭いの確認等、使い方を把握できたのではないかと思う。

### 11 給食について

#### 保健衛生に関することについて

- ・コロナ対策として、食べる向きに向かい合わないよう、給食当番がイスを片付けてみんなで前を向いて食べた。食べているときは極力話さないよう気を付けた。手すり等の消毒を毎日2回担当者が行っている。
- ・食事前のうがい・手洗い・消毒を徹底した。
- ・来客などもあるので、食べた後すぐに掃き掃除・テーブル拭きをしている。
- ・熱中症・インフルエンザ・ノロウイルス、食中毒等について、保健衛生係と連携して注意・予防を呼びかけた。

#### ご飯の量について

- ・本人の希望を優先して、ご飯の量を変更した人が何人かいた。  
変更し様子を見て、ご飯の量を元に戻した人も何人かいた。

#### 係の活動について

- ・喫食記録については、数のミスを防ぐため二重チェックし厨房に伝える。

- ・毎日の食数を早めに把握するために喫食表を全員に記入してもらおう。
- ・喫食表を見て、2日先の喫食数を毎日キッチンにFAXで報告する。
- ・給食のことで気づいたことなどがあれば、早急にキッチンへ伝える。
- ・所外の弁当の数を毎日（木曜以外）FAXで報告する。

#### アレルギー対策について

- ・食品アレルギーによる事故を防ぐために、給食アンケートにて「食物アレルギー」の項目を作り、身体に影響が出る食材や、その症状、度合い、医師からの指示等の確認項目を入れ込む。必ず親御さんに確認してもらい、皆で情報共有を図る。（好き嫌いとはアレルギーを混同している所員さんも多い。アレルギーとはしっかり区別を付けていく）
- ・実習生の受け入れの際にも、必ず先生に「食物アレルギー」の有無や症状、程度について確認をとり、情報共有を図っていく。

#### 改善した点

- ・豚肉が硬いという意見が非常に多いので、キッチンで茹でるのではなく、各事業所で調理するようにした。
- ・彩りが良くない日が多かったので、見た目にも気を使っている。
- ・日によって量にばらつきがある日があったので、毎日同じくらいの量になるようにした。
- ・なるべくアトリエの野菜を多く使うようにした。
- ・冷凍食品をなるべく使わず、手作りのものを提供するようにした。
- ・血圧の高い人は、みそ汁を薄味にして提供している。

#### 来年度からの課題

- ・アトリエの野菜を豊富に使用し、手作りの給食を心掛ける。
- ・引き続きキッチンと農作業班との打ち合わせを行い、キッチンが必要としている野菜や農作業班がキッチンへ提供したい野菜等の情報を共有していく。

## 12 防災安全について

### 実施内容・時期

- ・自衛消防団の編成及び調整（4月に見直し及び変更）
- ・職員緊急連絡網の作成（4月に見直し及び変更）
- ・避難訓練の実施（5月27日・11月24日）
- ・若穂消防署の方と打ち合わせ。消防計画作成（変更）届出書の提出。（5月）
- ・消防立ち入り検査の対応
- ・消防点検の実施：（毎月実施）
- ・総合点検：（年2回実施）丸登電業に依頼。

### 評価・課題

#### < 避難訓練 >

- ・緊張感のある避難誘導ができた。職員による大きな声での呼びかけもできていた。ほとんどの所員がスムーズに行動できた。
- ・避難時間が3分代で速やかに避難が行なえた。多くの所員が予定どおりの行動が出来ている。

< 消防点検 >

- ・避難口、避難経路、消火設備（消火器含む）の場所は、その都度確認して安全を確認していただけるようにしたい。今後も継続していく。また、係だけでなく、各作業担当場所で気付いたことがあれば、対応していただけるように確認等行っていきたい。

13 地域との協働について

今年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大により、今まで当たり前に行っていたことが、全くできない年となってしまった。

体験実習等は必要最小限の件数で行ったに過ぎなかった

長野養護学校...2名 信大附属中学校...2名

地域諸団体と連携も全く行うことができなかった。

保科小学校との交流会についても同様であったが、比較的感染が落ち着いていた時期に、2年生の見学を受け入れた

14 職員研修について

毎朝の打ち合わせ会、職員会議・ケア会議(週1回)を行い、日常の気づきを共有し、自己の支援の振り返りにつとめた。昨年に引き続き、ワークを多く取り入れ、参加者の声を多く拾えた。作業チームのストレングスや5ピクチャーズを行い、売上目標や振り返りができた。また、日常業務の知識及び技術の研鑽につとめた。

全員参加の職員会議を月初めに行うことで、今までにない気づきも生まれた。

また、障がい者虐待防止の研修も行った。

外部の研修はほとんどがリモート研修となった。

主催・実施主体	研修名	出席者
社会就労センター関係	長野県セルフブロック会議	1名
	福祉就労強化事業「工賃アップ基礎セミナー」	1名
	福祉就労強化事業工賃ステップアップセミナー	1名
長野県知的障がい者福祉協会関係	知障協代表者会	1名
	会計研修	2名
	県知障協総会	1名
	知障協施設長会研修	1名
	知障協事務部会	1名
	日中活動支援部会(2回)	3名
	自閉症セミナー	1名
長野市自立支援協議会関係	県知障協新任職員研修	1名
	長野市障害ふくしネット しごと部会(毎月)	1名
	長野市ふくしネット運営部会(毎月)	1名
	長野市障害者虐待防止・権利擁護研修会	2名

長野県・県社協関係	苦情対応システム研修会	1名
	虐待防止・権利擁護研修会	2名
その他	中小企業家同友会	1名
	感染症予防講習会	1名
	サービス管理責任者更新研修	1名
	安全運転管理者講習	1名

## 15 CoCo 家族会ながのについて

事務局をアトリエ CoCo 内におき、運営を補佐した。

家族会についても他の取り組み同様、コロナ禍で全く取り組むことができなかった

## 16 職員体制について

所長 1名 サービス管理責任者 1名 目標工賃達成支援員 1名

生活支援・職業指導員 6名 事務員 1名

看護師(嘱託) 1名 医師(嘱託) 1名 運転手(嘱託) 1名

## 生活介護事業

### 1 所員の内訳

出身市町村別

長野市 22名 千曲市 1名

性別 男 12名 女 11名

平均年齢 30.5歳(令和3年4月1日現在)

障がい種別 知的障がい 22名 身体障がい 6名(重複記載)

### 2 通所方法

送迎バス利用 長野駅より 4名 信濃川田駅より 2名 川中島駅より 3名

家族の送迎 12名

バイクまたは車(本人運転による) 0名

徒歩 0名

路線バス 2名

### 3 日課について

8:50	通所 着替え
9:00 ~ 9:15	朝会 ラジオ体操
9:15 ~ 10:30	作業
10:40 ~ 12:00	作業
12:00 ~ 13:00	昼食 休憩
13:00 ~ 14:30	作業
14:30 ~ 14:50	休憩
14:50 ~ 15:35	作業

15:35 ~ 15:45 掃除

15:45 ~ 16:00 着替え・帰りの会

土曜日は、活動内容によってさまざまに設定する。自由通所日（作業）の場合は10:00～16:00まで。月2回ほど土曜日に実施しているQ L活動は、今年度もコロナ感染症の影響で取り止めなかった。

毎週木曜日の午後はカルチャー活動

#### 4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
67,4%	59,8%	70,2%	59,5%	60,7%	62,4%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
62,9%	62,5%	65,1%	60,9%	56,5%	59,5%	62,4%

毎週土曜日及び祝日は自由通所日（Q L活動日以外）としているが、通所率は低い。

月2回ほど土曜日に実施しているQ L活動は、定員を設けている。

利用量が少ない所員数名は通所率が低いのと、長期欠席の所員がいるため、平均を下げてしまっている。その他の所員は概ね元気に安定的に通所しており、通所率は上記数字より高い。

#### 5 生活介護について

生産活動の他に、利用者の重度化に伴い、マンツーマン支援・食事介助、トイレ介助・外出支援など、個人個人のニーズに合わせた支援を提供している。利用者増に加え、作業スペースを2ヶ所にし、改革を図った。今後についても、利用者の変化に柔軟に対応できる支援体制を整えていきたい。

#### 6 個別支援計画について

就労継続支援B型事業と同様

#### 7 就労活動について

《 平均工賃 》

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	13,100 円	10月	12,041 円
5月	11,148 円	11月	12,159 円
6月	13,902 円	12月	16,889 円
7月	14,524 円	1月	11,470 円
8月	11,591 円	2月	10,436 円
9月	12,440 円	3月	14,226 円
平均工賃額 12,827 円			

#### 【軽作業チーム】

目標売上額...1,550,000 **売り上げ実績...3,219,150** (対目標額 207%)

ひとりひとり、みんなが輝く軽作業 ~個々(CoCo)に力を発揮しよう~

<作業内容>

自主生産      ウェス加工・販売      ロンドロール販売  
受託作業      ベーク板のテープはがし（カイシンエレクトロニクス様より）  
きのこキャップ（旬ヤナギハラ産業様より）

<評価及び課題>

自主生産

ウェス加工

- ・ウェス地に切り込みを入れる 割く 糸を取る ウェスを積み重ねるといった行程をそれぞれ所員の得意なところで分業し、効率よく作業を進めることができた。
- ・1~2件新規取引先があった。今後も継続して注文いただけるよう営業していきたい。
- ・ウェスサンプルを作り、チラシを添付して営業活動をしていく。

ロンドロールながの販売

- ・リピーターから定期的に注文を頂いて、安定した売り上げが得られた。
- ・家族面談に合わせ2月に各家庭や企業にもチラシを配り、注文をたくさんいただく事ができた。

受託作業

カイシン（ベーク板のテープ剥がし）

- ・入出荷の管理を徹底して計画的に進めることができた。
- ・テープ剥がしの作業性が早まったことで、小さいテープの取り残しが多かった。
- ・R3.1月から週2回（火・木曜日）の入出荷になり、枚数は増加している。今後も佐川チームと協力し、週3,000枚を目標に作業を進めていく。
- ・ベーク板のテープ剥がし作業について再確認し、効率良く行えている。
- ・作業班は2班に分かれたが板の作業は協力して行い、納期に間に合わせている。

きのこキャップ

- ・キャップの蓋外し機械も、1人だけでなく、複数人で交替しながらできるようになった。
- ・昨年度から実施していく中で、キャップ掃除が得意な所員、機械を使った作業が好きな所員など、それぞれに合った作業内容が行えている。売り上げも伸びた。
- ・キャップ掃除のクオリティが向上。検品もほぼ必要ない所員が増えている。

その他

- ・現在2班に分かれて活動しているが、所員、職員の体制や仕事内容を割り振って、それぞれが活躍出来るように工夫している。
- ・所員と職員の関係が良好で、何か問題が生じても皆で話し合い解決することができるチームに成長している。

ウエス 注文先別売上

1kg310 円にて販売（基本 kg/360 円）

種類	単位	注文先	数量	金額（円）
シート	kg	カイシンエレクトロニクス(株)	145	44,950
		(株)シンセイ商会	185	57,350
		愛ランドはるかぜ	60	21,600
		(株)アルカディア	30	10,800
		イーウィングオートリサイクル	5	1,800
		エア・ウォーター(株)	30	10,800
		S&S コンポーネンツ	90	32,400
		オート信州(株)	8	2,880
		オリオン機械(株)	30	10,800
		小林サイクルモーター商会	6	2,160
		(株)鈴木	436	156,960
		テクノエクセル(株)	10	3,600
		長野市衛生センター	40	14,400
		長野ジェコー(株)	380	136,800
		若穂農業機械センター	10	3,600
その他	50	18,000		
B T (カット)	枚	須坂工場	6,730	7,588
		アクアテック	0	0
		その他	13,700	98,640
B T			0	0
F T	枚	(有)アリスエック	100	1,800
		三浦工業株式会社	1,200	21,600
		その他	360	6,480
合 計 金 額				692,008

ウエス 月別売上

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
34,360	57,790	54,160	70,360	83,808	62,945	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
51,450	48,400	79,325	47,790	35,660	65,960	692,008



ベーク板売上

月	枚数	金額
4	8,460	84,600
5	9,195	91,950
6	11,095	110,950
7	13,619	136,190
8	11,420	114,200
9	12,165	121,620
10	18,551	185,510
11	13,356	133,560
12	14,560	145,600
1	10,855	108,550
2	13,247	132,470
3	22,386	223,860
合計	158,909	1,589,090

ロンドロール、ファイル売上金額

月	ロンドロール	ティッシュペーパー	合計
4	12,480	4,400	16,880
5	15,840	4,000	19,840
6	32,640	9,200	41,840
7	11,040	1,600	12,640
8	12,960	0	12,960
9	18,240	6,800	25,040
10	17,280	1,200	18,480
11	25,440	4,000	29,440
12	14,880	0	14,880
1	26,400	0	26,400
2	29,760	9,200	38,960
3	15,360	6,000	21,360
合計	232,320	46,400	278,720

きのこキャップ売上

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	0	10,350	4,600	4,600	4,600	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4,600	4,600	4,600	5,450	0	9,200	52,900

その他売上(アート作品売上)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	0	0	0	0	0	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
106,384	39,150	54,800	84,000	102,500	67,725	454,559

**8 イベント活動**

就労継続支援 B 型事業と同様

**9 QOL 活動について**

就労継続支援 B 型事業と同様

他に軽作業チームの独自のレクリエーションを月に 2 回程度実施している。

**10 カルチャー**

就労継続支援 B 型事業と同様

**11 保健衛生について**

就労継続支援 B 型事業と同様

**12 給食について**

就労継続支援 B 型事業と同様

**13 防災安全について**

就労継続支援 B 型事業と同様

**14 地域との協働について**

就労継続支援 B 型事業と同様

**15 職員研修について**

就労継続支援 B 型事業と同様

**16 家族会ながのについて**

就労継続支援 B 型事業と同様

**17 職員体制について**

所長 1名 サービス管理責任者 1名 就労支援員 1名

生活支援・職業指導員 2名 事務員 1名

看護師(嘱託) 1名 医師(嘱託) 1名 運転手(嘱託) 1名

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業  
多機能型事業所(就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業)

## キッチン CoCo

キッチン CoCo は、障害のある人の働く場を提供し、支えていくという就労系の事業所としての役割は担えていると思います。就労継続支援 A 型事業を実施していることにより、ハローワーク(公共職業安定所)を主に利用等の問い合わせが継続的にあります。

就労継続支援 A 型を利用しながら一般企業への就職を志している方、就労継続支援 A 型の継続的の利用を望んでいる方等、多様なニーズのもとでの利用実態があり、就労継続支援 A 型という事業を障害のある人が各々において自分らしく働くための手掛かりとして頼りにされていることと思います。今後の利用者の更なる増加の見込みも感じております。就労継続支援 A 型及び B 型の多機能型事業所としての運営体系の下で、障害のある人の個人個人の就労面でのニーズに丁寧に確実に応えることで、個人個人の生活が実り豊かなものとしておられるように今後も貢献していきたいと思っております。

当事業所の利用者たちは、お弁当の製造及び販売業務、配達及び回収業務、法人内の昼食提供業務、そして所外実習等においては、それぞれ自らの就労や作業面等での課題に挑み、各々の目的や目標に向かって歩んでいます。また、他法人が運営する、障害のある子どもたちが利用する事業所の昼食提供業務を受託して業務を行っており、障害のある人の就労の場として価値ある場を作ることができており、そして法人側からの業務の遂行状況等に関する評価も高くあります。そこで働く人たちにとっても嬉しく感じ自信を持って働くことができております。

令和 4 年度もこれまでと同様に事業所全員が協力し合い、個々が持てる力を存分に発揮して事業所運営にあたっていきたいと思っております。

### (利用者の推移)

・就労継続支援 A 型事業(定員 10 名)	総在籍者数	5 名
令和 3 年 4 月	1 名退職	・・・ 在籍者 6 名
令和 3 年 9 月	1 名退職	・・・ 在籍者 5 名
・就労継続支援 B 型事業(定員 10 名)	総在籍者数	6 名
令和 3 年 12 月	1 名入所	・・・ 在籍者 7 名
令和 4 年 3 月	1 名退所	・・・ 在籍者 6 名
令和 4 年 3 月 31 日現在		
登録者数 11 名(就労継続支援 A 型 5 名・就労継続支援 B 型 6 名)		

### 就労継続支援 A 型事業

#### 1 所員の内訳

- (1) 利用者総数 5 名 (令和 4 年 3 月 31 日現在 利用者数 5 名)  
(2) 出身市町村別 長野市 4 名・高山村 1 名

- (3) 性別 女性 5 名
- (4) 年齢 48.8 歳 (令和 3 年度末)
- (5) 障がい種別 知的障がい者 2 名  
精神障がい者 3 名

## 2 通所方法

- (1) 徒歩または自転車 0 名
- (2) バイクまたは車 (本人運転による) 3 名
- (3) 公共交通機関利用 2 名
- (4) 送迎 (長野電鉄村山駅発着) 0 名
- (5) 家族による送迎 0 名

## 3 日課について

(基本)

8 : 15 ~ 12 : 15 まで	着替え 作業 *途中に朝会・休憩あり
12 : 15 ~ 13 : 15 まで	お昼 休憩
13 : 15 ~ 15 : 30 まで	作業・掃除・帰りの会等
15 : 30	帰宅

利用者の体調や事情等によっては、個別に時間の調整をしています。

土または日曜日は、作業状況や活動内容によって様々に設定しました。

## 4 通所状況

通所実態 (通所率)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
87.3%	89.7%	84.8%	81.8%	74.2%	68.2%	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
79.0%	87.3%	94.5%	94.3%	97.0%	97.4%	87.9%

## 5 個別支援計画 就労継続支援 B 型事業と同様

個別支援計画では、本人や家族との面談や、関わってきた関係者等を含めた会議を開くなどして、アセスメントを行い、本人のそれまでの歩みや、得意なことや苦手なこと、行動や日常生活上等で配慮すること等々を確認し、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成しました。特に本人の願いを重視して、面談をする中で願いやニーズ把握するように努めました。さらには、面談日以外にも、適時に相談を受け、困っていることや頑張りたいことを聞き、そこからニーズを拾って作成するようにしました。もし、生活の面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとり繋げるようにし、個別支援計画の目標として取り組めるものは入れるようにしました。

そして、6 カ月ごとに 1 回の見直しを行いました。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的に面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたいと思えます。

## 6 就労活動について 就労継続支援 B 型事業と同様

### 【 お弁当製造、販売、配達作業 】

#### ( 1 ) 作業実績及び作業風景等

各所員が意欲的に作業に就いていました。目標を持って作業に取り組み、任されたことは責任を持って行き、分からないことは職員に聞きながら、働くことの楽しさや厳しさ、やり終えた達成感や喜びを感じられていると思います。また、身支度や食品に携わる際の衛生管理や、盛り付けのときの技術や目配り（おかずが決められた所に確実に適量入れられたなど）確認を取りながら進めています。配達るときは、身支度に気をつけ、お客様に挨拶をすることや走らず慌てないよう落ち着いて作業できるように声掛けしています。

平日の昼食を主に、平均 180 食のお弁当を作り配達しております。法人内の 6 箇所の事業所の昼食の提供も行っており、食数は 180 食位です。

児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」より受けていた業務委託は、業務上の都合により令和 4 年 3 月末で終了いたしました。

A 型利用者 1 名及び職員 2 名で対応していました。平均 60 食程度及びおやつ 35 食程度の数を提供し、稼働日数は年間でにじいろキッズらいふが開所する約 220 日でした。前日に食材を納品して、当日現場にて調理、配膳、食器の洗浄、おやつの提供、翌日の食器の準備などの作業をしていました。

安心・安全な食材を吟味し、野菜が豊富で手作り感のあるおいしい弁当をお届けできるよう日々努めてまいりました。

#### ( 2 ) 評価及び課題等

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、多くのイベントが中止になったため、特注弁当や日替わり弁当の注文数がかなり減ってしまいました。新規受注の増加やリピーター増加につながるようなメニュー構成や、味付け、盛り付けの工夫など課題はまだまだありますが、食中毒などの事故が無いよう細心の注意と心構えで毎日の作業に取り組んでいきたいと思えます。

今後も、安心・安全・美味しい食を追求し、所員・職員一丸となって着実に成果を上げられるようにひとつずつ丁寧に対応していきたいと思えます。

### 【 所外就労 】

令和 3 年度も、事業所の外での作業を、2 か所において委託を受けて行いました。

#### ㈱角藤 ワインボトルのラベル貼り

ワインボトルのラベル貼りの作業を委託され、週 1 回程度で半日程度行いました。所員 1 名が、職員 1 名の付き添いにて作業にあたりました。作業内容はワインラベルのカットやワインボトルにそれぞれのラベルを貼るものであり、ミリ単位での精密さを求められるものであり、失敗するとやり直しが難しい作業です。集中力を求められ、かなり緊張するものでしたが、責任感を持って取り組むことができました。また、責任ある作業を任せられ、自身にも繋がっています。

#### にじいろキッズらいふ昼食等提供業務

他法人が運営する児童発達支援センターにじいろキッズらいふにて、厨房での業務を委託され、祝日を除く月曜日から金曜日まで、職員 2 名と所員 1 名で作業にあたりました。同事業所を利

用される方の昼食やおやつを提供業務です。作業内容は、キッチン CoCo でカットや下処理をした食材を、にじいろキッズらいふ所属の管理栄養士の指導のもとで調理や盛り付け、食器の洗浄等を行いました。食事の提供時間に間に合わせるという緊張感のある作業ですが、職員及び所員ともに連携して作業に取り組むことができました。しかし、職員人数の確保に困難を生じ、令和4年3月末をもって業務委託を終了しました。

#### 【給与額について】

月	平均給与額	月	平均給与額
4月	81,027円	10月	86,094円
5月	88,605円	11月	97,661円
6月	89,070円	12月	105,621円
7月	85,386円	1月	99,039円
8月	78,541円	2月	97,920円
9月	73,174円	3月	108,335円
平均給与額 89,988円 支払い総額 6,029,186円			

#### 7 カルチャー・衛生講習 就労継続支援B型事業と同様

##### (1) 実施日、実施内容、参加者数等

日付	実施タイトル	参加者数
実施した内容		
6/17(木)	新型コロナウイルス感染予防について	7名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策について、再度、話をする。手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、3密防止等の説明をする。		
7/15(木)	熱中症予防・対策について	7名
配達担当・厨房担当、それぞれの業務中に気をつけることについて話し合う。暑さで体力・気力とも消耗しているので、仕事に支障が出ないように体調管理に気をつける。		
10/15(金)	インフルエンザ予防について(コロナ感染症対策含む)	8名
インフルエンザの予防接種のよびかけ。また、もしかかった場合の説明。外出する時にはマスクの着用。年末年始などでかけることも増えてくるので、人混みに行くときには特に注意をする。コロナ感染症対策についても改めて説明する。		
12/30(木)	防災訓練	12名
洪水時の避難確保計画の説明、および水難時の避難経路の確認を行う。		
2/17(木)	消費者被害防止見守りネット情報	7名
長野市消費者センターからメールで送られてくる消費者被害の情報を提供。身近なところで起きている特殊詐欺や、電話での勧誘等について説明する。		

(2) カルチャー・衛生指導のねらいについて

順調に働き続けていくために、また日常生活を安心して送っていくために、知っておくべき知識や取り組むべき行動等についての学びの時間として行いました。職員が所員から受ける相談ごとや仕事への取り組み方等から課題を拾い上げ、資料を参考にして伝えるようにしました。

今回は、長野市消費者センターよりメールで送られてくる、詐欺被害等の情報を提供する機会を設けました。身近なところで起きている詐欺被害等に注意するように呼びかけ、家庭でも被害にあわないように、話し合う時間を設けてほしい事をお伝えしました。また、今年も新型コロナウイルス感染予防について、再度確認し徹底するよう説明をしました。来年度も所員の日頃の様子から、大事だと思われるものを学びとして取り上げながら行っていきたいと思います。

(3) 評価及び課題等について

実施頻度について

不定期でしたが、季節や状況に応じて行ないました。所外活動や健康相談といった他の活動もあり、全員の出席は難しい状況です。カルチャーの予定日に作業が忙しかったり、職員の配置がうまくできなかつたりと実施できない時もありましたが、実施した内容を個々に伝えるようにしました。

実施内容について

熱中症予防・対策、インフルエンザやノロウイルスに対する予防・対策、新型コロナウイルス感染防止を徹底するための注意喚起に努め、それぞれ感染者が一人も出なかったことが結果につながっています。

新たに、長野市消費者センターよりメールで送られてくる、詐欺被害等の情報を提供する機会を設け、身近なところで起きている詐欺被害等について説明をし、家庭でも被害にあわないように十分注意をするように呼びかけました。

参加者について

所員全員参加をめざして行ったが、当日休みの所員や、洗浄の作業などをしていて、参加できない所員がいます。皆がそろうのは難しいですが、そのような場合には必ず後で個別に行うようにしました。

来年度について

来年度も同様の目的で実施していきたいと思います。内容については、所員の希望を聞いたり、職員側で必要と思われるものを考えたりしながら行っていきたいと思います。

8 QOL 活動 就労継続支援 B 型事業と同様

(1) QOL 実施内容

日付	企画名	参加者数
5/8(土)	臥竜公園散策、昼食	7名
7/10(土)	万葉温泉・足湯、昼食	7名
7/24(土)	高山村スパイン足湯、昼食	7名

10/16(土)	アートギャラリー見学・臥竜公園散策、昼食	7名
12/11(土)	キッチン忘年会	9名

(2) QOL 活動のねらいについて

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、QOL 活動がほとんど企画することができず、緊急事態宣言が解除された機会をみて、計画できたのは 5 回だけになってしまいました。

(3) 評価及び課題等

実施内容について

今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、イベントが中止となることが多く、希望に添える企画が少なくなっていました。緊急事態宣言が解除された一時に企画できた 5 回の活動は楽しめたのではないかと感じています。

実施頻度について

新型コロナウイルス感染防止のため自粛を余儀なくされ、出かけることが困難になってしまいました。新型コロナウイルス感染が早く収束することを願いつつ、計画を立てていきたいと思えます。

参加者数について

時間的・金銭的に厳しいという理由により参加しない所員もあり、できるだけお金がかからない企画を考えていきたいと思えます。

来年度について

QOL 活動再開を皆さん心待ちにしています。非常事態宣言が解除され、自粛しなくてもよくなったら、皆さんの意見を取り入れて計画していきたいと思えます。スポーツやカラオケ等でリフレッシュできるものや教養を深めるもの、所員同士の親睦を深めるための親睦会等、できるだけ多岐にわたって実施していきたいと思えます。

9 保健衛生について 就労継続支援 B 型事業と同様

(1) 健康診断について

- 2 回実施 -

第 1 回目

・日時：令和 3 年 7 月 1 日(木) 13:30~17:00

令和 3 年 7 月 15 日(木) 13:30~17:00

・実施(依頼)機関 (特非)メディカルチェック

・実施内容：身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査

(対象者のみ)、血液検査(対象者のみ)、心電図(対象者のみ)、医師による触診及び問診

・受信者数：13 名

第 2 回目

・日時：令和 3 年 9 月 3 日(金)及び 9 月 6 日(月)

・実施(依頼)機関：立岩内科小児科医院 立岩孝之医師

・実施内容：触診及び問診

・受診者数：8 名受診



## その他

第1回目の診断結果が出来次第、データを立岩Dr.と看護師にお渡しして、ご意見・ご指導を頂きました。頂いたご意見・ご指導は面談や健康相談を通じてご本人達に伝えました。

### (2) 健康相談について

三木看護師(嘱託)により、月に2回程度(水曜日) 1人20分程度かけて行いました。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数
4月	1回	7名	10月	2回	13名
5月	1回	5名	11月	2回	10名
6月	1回	6名	12月	1回	5名
7月	2回	13名	1月	2回	12名
8月	1回	7名	2月	1回	6名
9月	1回	4名	3月	2回	14名
実施回数 17回			延相談者数 102名		

### (3) 肥満対策について

7月の健康診断において肥満状態にある所員が2名。肥満に関しては自覚をしているようですが、自宅での食事量や間食の自己管理が難しいと思われます。キッチン CoCo にて提供している昼食はおかずやごはんの量が決まっているので食べ過ぎるということは無いのですが、家庭等での食事量が多かったり、間食もとったりするため生活全般的に多めの様です。日常的に適切な量と内容の食事をとるように意識を持っていただきたいと思います。職員側からの意識付け等の働きかけはこれからも必要であり、面談や健康相談等を通してこれからも働きかけをしていきたいと思います。

### (4) 血圧について

- ・毎月の健康相談にて、血圧測定を実施しました。数名の所員は測定日によっては血圧が高い時もありますが、常時ではないので様子を見ています。
- ・年間を通して低血圧傾向にある所員が1名いますが、三木看護師からは、日常生活に支障はないとの話があり様子を見ています。

### (5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えています。施設の衛生管理上、手の傷を露出しないよう絆創膏が使われることが多かったです。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もありました。

### (6) 服薬支援について

個別に服薬支援を行っている所員が2名います。頭痛によるかかりつけ医より痛み止め、精神安定剤等の頓服薬を処方されています。頭痛のとんぱく薬の保管は職員が行い、症状や服薬希望の訴えがあったときには様子を見て渡す等の服薬支援を行いました。

### (7) 「傷病記録」について

服薬、静養等の場合、必要な情報はケース記録に残しその都度支援を行いました。

( 8 ) 嘱託の医師と看護師との連携について

今年度も 2 回、立岩医師による健康診断を、そして、三木看護師による健康相談を基本的に月 2 回実施しました。

健康診断については第 1 回目の健康診断の結果のデータを立岩医師と三木看護師にお渡し、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただきました。また日常の情報交換や共有を通して、所員個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、所員の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげています。

( 9 ) 個別の健康情報について

精神的な疾患を持ち、メンタル面での配慮や支援を必要とする所員が増えてきています。基本的には年間を通して継続して安定している所員が多い中、時期や状況によって、感情的に不安定な状態になり、躁鬱等のそれぞれが抱えている症状が出てきて、困ったり苦しんだりする様子も伺えます。所員の状態を日常的にしっかりと把握をし、また休んでいるときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認と把握を行っています。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっています。

( 10 ) 衛生講習について

作業及び日常生活での衛生意識の向上を目的として、その都度職員による衛生講習を行いました。(インフルエンザ予防・ノロウイルス予防・熱中症予防・新型コロナウイルス感染予防等)

( 11 ) 清掃について

清掃については、所員によってそれぞれに応じた支援を受けながら、作業室や生活区域のスペースを担当場所ごとに行いました。特に作業室は、お弁当を作っている箇所であり、常に衛生面を意識して丁寧にしっかりと行いました。

( 12 ) その他

毎日の朝会において、爪・手指の傷・身だしなみとともに健康状態の確認を行いました。毎日、通所して来た際も含めて外から帰ってきた時には、インフルエンザ・風邪の予防も含めて、日常的に手洗い及びうがい液でのうがいを行いました。今年度インフルエンザに罹った方はいませんでした。

ノロウイルスやインフルエンザが流行る時期には、朝会や衛生講習等で予防及び対処法について触れ、また予防及び対処マニュアルを配布して衛生の徹底に努めました。特に 11 月にはインフルエンザの予防接種の呼びかけをし、アトリエ CoCo にて嘱託医である立岩先生に、インフルエンザの予防接種を実施していただきました。多くが予防接種を受けましたが、経済的に余裕がなかったり、以前に予防接種を受けた際体調を壊した等、個人個人の事情により接種されない方もいましたが、来年度も呼びかけはしていきたいと思えます。

10 給食について 就労継続支援 B 型事業と同様

・給食を楽しみに通所する所員が多いです。内容は、日替わり弁当とほぼ同じメニューで提

供をしています。自分たちが、仕込み・盛り付けをした弁当が商品としてお客様に届くというのは、所員たちのやりがいやモチベーションのアップにつながっている様に感じます。

- ・給食検討会にて、給食に関する情報交換及び共有を行い課題検討を行いました。嗜好調査やアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をしてきました。嗜好による配慮は行いましたが、アレルギー対応の所員はいませんでした。1名、生卵のアレルギーがある方がいますが、生玉子を提供することはありません。

## 11 旅行について 就労継続支援 B 型事業と同様

### (1) 実施内容等

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族旅行は中止となりました。

#### 《評価及び課題》

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族旅行は中止しました。

来年度は未定ですが、感染防止対策を徹底しながら、慎重に検討をしていきたいと思いをします。

## 12 防災訓練について 就労継続支援 B 型事業と同様

### (1) 防災訓練

#### 第1回目

- ・実施日：令和3年4月28日(水) 13:00～13:15
- ・参加者：所員9名 職員6名 計15名
- ・内容：避難訓練。厨房ガスコンロから火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：実際に火災が起きたときには、発生時点で誘導することとなります。次回の訓練では、火災が起きた時点で避難を誘導する、というやり方で行うようにしたいと思いをします。腰を低くし、ハンカチや裾などを口元にあてるということができていない所員もいたため、次回は事前にその大切さ等もレクチャーもしてから行うようにします。

#### 第2回目

- ・実施日：令和3年12月30日(木) 13:00～13:15
- ・参加者：所員10名 職員6名 計13名
- ・内容：洪水時の避難確保計画の説明、および水難時の避難経路確認
- ・反省点：昨年の台風被害の状況と、洪水時の避難確保計画について説明しました。水難時の避難経路の説明をハザードマップを確認しながら説明をしました。

### (2) 消防設備点検

毎月実施しました。業者による総合点検として年に2回(令和3年4月及び10月)実施しました。

### (3) その他

- ・職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置場所等を確認。

## 13 地域との協働について 就労継続支援 B 型事業と同様

- ・見学や研修を受け入れました。

(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、民生委員、社協関係者、他事業所等)

・地域の諸団体等との連携を図っていますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々なイベントが中止となりました。

(長野市障害ふくしねっと、長野県セルフセンター協議会、若穂住民自治協議会、長野市商工会若穂支部等)

#### 14 職員研修について 就労継続支援 B 型事業と同様

- ・ケア会議や職員会議を定期的実施し、日常業務の情報交換や支援や作業における知識及び技術の研鑽に努めました。
- ・サービス管理責任者更新研修はリモート研修になりました。知識や技術の向上に努めました。

#### 15 職員体制について

所長	1名
サービス管理責任者	1名
職業指導員	1名
生活支援員	2名
賃金向上達成指導員	2名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

### 就労継続支援 B 型事業

#### 1 所員の内訳

- (1) 登録者数 6名 (令和4年3月31日現在)
- (2) 市町村別 長野市 6名
- (3) 男女別 男性2名・女性4名
- (4) 年齢 平均46.3歳(令和3年度末)
- (5) 障がい種別 知的障がい者 4名  
精神障がい者 2名

#### 2 通所方法

- (1) 徒歩または自転車 3名
- (2) バイクまたは車(本人運転による) 0名
- (3) 公共交通機関利用 1名
- (4) 送迎(アトリエ CoCo・グループホーム) 2名
- (5) 家族による送迎 0名

#### 3 日課について

8:15 ~ 12:00まで	朝会 作業
12:00 ~ 13:00まで	お昼 休憩
13:00 ~ 15:00まで	作業 掃除 帰りの会等
15:00	帰宅

利用者の体調や事情等によっては、個別に時間の調整をしています。

土または日曜日は、作業状況や活動内容によって様々に設定しました。

#### 4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
94.7%	87.3%	86.4%	90.2%	73.5%	68.2%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
78.6%	71.9%	70.1%	55.8%	60.0%	67.1%	74.8%

#### 【 工賃額について 】

月	平均月額工賃額	月	平均月額工賃額
4月	23,221 円	10月	17,501 円
5月	21,035 円	11月	16,927 円
6月	21,885 円	12月	21,490 円
7月	25,430 円	1月	14,603 円
8月	19,191 円	2月	14,726 円
9月	16,817 円	3月	21,923 円
平均月額工賃額 19,489 円（時給換算 265 円） 支払い総額 1,481,230 円			

#### 5 個別支援計画 就労継続支援 A 型事業と同様

個別支援計画では、本人や家族との面談や、関わってきた関係者等を含めた会議を開くなどして、アセスメントを行い、本人のそれまでの歩みや、得意なことや苦手なこと、行動や日常生活上等で配慮すること等々を確認し、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成しました。特に本人の願いを重視して、面談をする中で願いやニーズ把握するように努めました。

さらには、面談日以外にも、適時に相談を受け、困っていることや頑張りたいことを聞き、そこからニーズを拾って作成をするようにしました。もし、生活の面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとり繋げるようにし、個別支援計画の目標として取り組めるものは入れるようにしました。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行いました。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的に面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたいと思えます。

#### 6 就労活動について 就労継続支援 A 型事業と同様

##### 【 お弁当製造、販売、配達作業 】

##### (3) 作業実績及び作業風景等

各所員が意欲的に作業に就いていました。目標を持って作業に取り組み、任されたことは責任を持って行き、分からないことは職員に聞きながら、働くことの楽しさや厳しさ、やり終えた達成感や喜びを感じられていると思います。また、身支度や食品に携わる際の衛生管理や、盛り付けのときの技術や目配り（おかずが決められた所に確実に適量入れられたなど）確認を取

りながら進めています。配達の際は、身支度に気をつけ、お客様に挨拶をすることや走らず慌てないように落ち着いて作業できるように声掛けしています。

平日の昼食を主に、平均 180 食のお弁当を作り配達しております。法人内の 6 箇所の事業所の昼食の提供も行っており、食数は 180 食位です。

児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」より受けていた業務委託は、業務上の都合により令和 4 年 3 月末で終了いたしました。

A 型利用者 1 名及び職員 2 名で対応していました。平均 60 食程度及びおやつ 35 食程度の数を提供し、稼働日数は年間でにじいろキッズらいふが開所する約 220 日でした。前日に食材を納品して、当日現場にて調理、配膳、食器の洗浄、おやつの提供、翌日の食器の準備などの作業をしていました。

安心・安全な食材を吟味し、野菜が豊富で手作り感のあるおいしい弁当をお届けできるよう日々努めてまいりました。

## (2) 評価及び課題等

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、多くのイベントが中止になったため、特注弁当や美替わり弁当の注文数がかなり減ってしまいました。新規受注の増加やリピーター増加につながるようなメニュー構成や、味付け、盛り付けの工夫など課題はまだありますが、食中毒などの事故が無いよう細心の注意と心構えで毎日の作業に取り組んでいきたいと思えます。

今後も、安心・安全・美味しい食を追求し、所員・職員一丸となって着実に成果を上げられるようにひとつずつ丁寧に対応していきたいと思えます。

## 7 カルチャー・衛生講習 就労継続支援 A 型事業と同様

### (1) 実施日、実施内容、参加者数等

日付	実施タイトル	参加者数
実施した内容		
6/17(木)	新型コロナウイルス感染予防について	7名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策について、再度、話をする。手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、3密防止等の説明をする。		
7/15(木)	熱中症予防・対策について	7名
配達担当・厨房担当、それぞれの業務中に気をつけることについて話し合う。暑さで体力・気力とも消耗しているので、仕事に支障が出ないように体調管理に気をつける。		
10/15(金)	インフルエンザ予防について(コロナ感染症対策含む)	8名
インフルエンザの予防接種のよびかけ。また、もしかかった場合の説明。外出する時にはマスクの着用。年末年始などでかけることも増えてくるので、人混みに行くときには特に注意をする。コロナ感染症対策についても改めて説明する。		
12/30(木)	防災訓練	12名
洪水時の避難確保計画の説明、および水難時の避難経路の確認を行う。		

2/17(木)	消費者被害防止見守りネット情報	7名
長野市消費者センターからメールで送られてくる消費者被害の情報を提供。 身近なところで起きている特殊詐欺や、電話での勧誘等について説明する。		

(2) カルチャー・衛生指導のねらいについて

順調に働き続けていくために、また日常生活を安心して送っていくために、知っておくべき知識や取り組むべき行動等についての学びの時間として行いました。職員が所員から受ける相談ごとや仕事への取り組み方等から課題を拾い上げ、資料を参考にして伝えるようにしました。

今回は、長野市消費者センターよりメールで送られてくる、詐欺被害等の情報を提供する機会を設けました。身近なところで起きている詐欺被害等に注意するように呼びかけ、家庭でも被害にあわないように、話し合う時間を設けてほしい事をお伝えしました。また、今年も新型コロナウイルス感染予防について、再度確認し徹底するよう説明をしました。来年度も所員の日頃の様子から、大事だと思われるものを学びとして取り上げながら行っていきたいと思います。

(3) 評価及び課題等について

実施頻度について

不定期でしたが、季節や状況に応じて行ないました。所外活動や健康相談といった他の活動もあり、全員の出席は難しい状況です。カルチャーの予定日に作業が忙しかったり、職員の配置がうまくできなかつたりと実施できない時もありましたが、実施した内容を個々に伝えるようにしました。

実施内容について

熱中症予防・対策、インフルエンザやノロウイルスに対する予防・対策、新型コロナウイルス感染防止を徹底するための注意喚起に努め、それぞれ感染者が一人も出なかったことが結果につながっています。

新たに、長野市消費者センターよりメールで送られてくる、詐欺被害等の情報を提供する機会を設け、身近なところで起きている詐欺被害等について説明をし、家庭でも被害にあわないように十分注意をするように呼びかけました。

参加者について

所員全員参加をめざして行ったが、当日休みの所員や、洗浄の作業などをしていて、参加できない所員がいます。皆がそろえるのは難しいですが、そのような場合には必ず後で個別に行うようにしました。

来年度について

来年度も同様の目的で実施していきたいと思います。内容については、所員の希望を聞いたり、職員側で必要と思われるものを考えたりしながら行っていきたいと思います。

8 QOL 活動 就労継続支援 A 型事業と同様

QOL 実施内容日付	企画名	参加者数
5/8(土)	臥竜公園散策・昼食	7名

7/10(土)	万葉温泉足湯・昼食	7名
7/24(土)	高山村スパイン足湯・昼食	7名
12/11(土)	キッチン忘年会	9名

(2) QOL 活動のねらいについて

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大により、QOL 活動がほとんど企画することができず、緊急事態宣言が解除された機会をみて、計画できたのは5回だけになってしまいました。

(3) 評価及び課題等

実施内容について

今年度も新型コロナウイルス感染拡大により、イベントが中止となることが多く、希望に添える企画が少なくなりました。緊急事態宣言が解除された一時に企画できた5回の活動は楽しめたのではないかと感じています。

実施頻度について

新型コロナウイルス感染防止のため自粛を余儀なくされ、出かけることが困難になってしまいました。新型コロナウイルス感染が早く収束することを願いつつ、計画を立てていきたいと思えます。

参加者数について

時間的・金銭的に厳しいという理由により参加しない所員もあり、できるだけお金がかからない企画を考えていきたいと思えます。

来年度について

QOL 活動再開を皆さん心待ちにしています。非常事態宣言が解除され、自粛しなくてもよくなったら、皆さんの意見を取り入れて計画していきたいと思えます。スポーツやカラオケ等でリフレッシュできるものや教養を深めるもの、所員同士の親睦を深めるための親睦会等、できるだけ多岐にわたって実施していきたいと思えます。

9 保健衛生について 就労継続支援 A 型事業と同様

(1) 健康診断について

- 2回実施 -

第1回目

- ・日時 : 令和3年7月1日(木) 13:30~17:00  
令和3年7月15日(木) 13:30~17:00
- ・実施(依頼)機関 : (特非)メディカルチェック
- ・実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査(対象者のみ)、血液検査(対象者のみ)、心電図(対象者のみ)、医師による触診及び問診
- ・受信者数 : 13名

第2回目



- ・日時 : 令和3年9月3日(金)及び9月6日(月)
- ・実施(依頼)機関 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師
- ・実施内容 : 触診及び問診
- ・受診者数 : 8名受診

その他

第1回目の診断結果が出来次第、データを立岩Dr.と看護師にお渡しして、ご意見・ご指導を頂きました。頂いたご意見・ご指導は面談や健康相談を通じてご本人達に伝えました。

(2) 健康相談について

三木看護師(嘱託)により、月に2回程度(水曜日) 1人20分程度かけて行いました。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数
4月	1回	7名	10月	2回	13名
5月	1回	5名	11月	2回	10名
6月	1回	6名	12月	1回	5名
7月	2回	13名	1月	2回	12名
8月	1回	7名	2月	1回	6名
9月	1回	4名	3月	2回	14名
実施回数 17回			延相談者数 102名		

(3) 肥満対策について

7月の健康診断において肥満状態にある所員が2名。肥満に関しては自覚をしているようですが、自宅での食事量や間食の自己管理が難しいと思われます。キッチン CoCo にて提供している昼食はおかずやごはんの量が決まっているので食べ過ぎるということは無いのですが、家庭等での食事量が多かったり、間食もとったりするため生活全般的に多めの様です。日常的に適切な量と内容の食事をとるように意識を持っていただきたいと思います。職員側からの意識付け等の働きかけはこれからも必要であり、面談や健康相談等を通してこれからも働きかけをしていきたいと思ひます。

(4) 血圧について

- ・毎月の健康相談にて、血圧測定を実施しました。数名の所員は測定日によっては血圧が高い時もありますが、常時ではないので様子を見ています。
- ・年間を通して低血圧傾向にある所員が1名いますが、三木看護師からは、日常生活に支障はないとの話があり様子を見ています。

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えています。施設の衛生管理上、手の傷を露出しないよう絆創膏が使われることが多かったです。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もありました。

(6) 服薬支援について

個別に服薬支援を行っている所員が2名います。頭痛によるかかりつけ医より痛み止め、精神安定剤等の頓服薬を処方されています。頭痛のとんぱく薬の保管は職員が行い、症状や服薬希望の訴えがあったときには様子を見て渡す等の服薬支援を行いました。

(7) 「傷病記録」について

服薬、静養等の場合、必要な情報はケース記録に残しその都度支援を行いました。

(8) 嘱託の医師と看護師との連携について

今年度も2回、立岩医師による健康診断を、そして、三木看護師による健康相談を基本的に月2回実施しました。

健康診断については第1回目の健康診断の結果のデータを立岩医師と三木看護師にお渡し、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただきました。また日常の情報交換や共有を通して、所員個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、所員の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげています。

(9) 個別の健康情報について

精神的な疾患を持ち、メンタル面での配慮や支援を必要とする所員が増えてきています。基本的には年間を通して継続して安定している所員が多い中、時期や状況によって、感情的に不安定な状態になり、躁鬱等のそれぞれが抱えている症状が出てきて、困ったり苦しんだりする様子も伺えます。所員の状態を日常的にしっかりと把握をし、また休んでいるときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認と把握を行っています。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっています。

(10) 衛生講習について

作業及び日常生活での衛生意識の向上を目的として、その都度職員による衛生講習を行いました。(インフルエンザ予防・ノロウイルス予防・熱中症予防・新型コロナウイルス感染予防等)

(11) 清掃について

清掃については、所員によってそれぞれに応じた支援を受けながら、作業室や生活区域のスペースを担当場所ごとに行いました。特に作業室は、お弁当を作っている箇所であり、常に衛生面を意識して丁寧にしっかりと行いました。

(12) その他

毎日の朝会において、爪・手指の傷・身だしなみとともに健康状態の確認を行いました。毎日、通所して来た際も含めて外から帰ってきた時には、インフルエンザ・風邪の予防も含めて、日常的に手洗い及びうがい液でのうがいを行いました。今年度インフルエンザに罹った方はいませんでした。

ノロウイルスやインフルエンザが流行る時期には、朝会や衛生講習等で予防及び対処法について触れ、また予防及び対処マニュアルを配布して衛生の徹底に努めました。特に11月にはインフルエンザの予防接種の呼びかけをし、アトリエCoCoにて嘱託医である立岩先生に、インフルエンザの予防接種を実施していただきました。多くが予防接種を受けましたが、経済的に余裕がなかったり、以前

に予防接種を受けた際体調を壊した等、個人個人の事情により接種されない方もいましたが、来年度も呼びかけはしていきたいと思います。

#### 10 給食について 就労継続支援 A 型事業と同様

- ・給食を楽しみに通所する所員が多いです。内容は、日替わり弁当とほぼ同じメニューで提供をしています。自分たちが、仕込み・盛り付けをした弁当が商品としてお客様に届くというのは、所員たちのやりがいやモチベーションのアップにつながっている様に感じます。
- ・給食検討会にて、給食に関する情報交換及び共有を行い課題検討を行いました。嗜好調査やアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をしてきました。嗜好による配慮は行いましたが、アレルギー対応の所員はいませんでした。1名、生卵のアレルギーがある方がいますが、生玉子を提供することはありません。

#### 11 旅行について 就労継続支援 A 型事業と同様

##### (1)実施内容等

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族旅行は中止となりました。

##### 《評価及び課題》

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、家族旅行は中止しました。

来年度は未定ですが、感染防止対策を徹底しながら、慎重に検討をしていきたいと思いをします。

#### 12 防災訓練について 就労継続支援 A 型事業と同様

##### (1)防災訓練

##### 第1回目

- ・実施日：令和3年4月28日(水) 13:00~13:15
- ・参加者：所員9名 職員6名 計15名
- ・内容：避難訓練。厨房ガスコンロから火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：実際に火災が起きたときには、発生時点で誘導することとなります。次回の訓練では、火災が起きた時点で避難を誘導する、というやり方で行うようにしたいと思いをします。腰を低くし、ハンカチや裾などを口元にあてるということができていない所員もいたため、次回は事前にその大切さ等もレクチャーもしてから行うようにします。

##### 第2回目

- ・実施日：令和3年12月30日(木) 13:00~13:15
- ・参加者：所員10名 職員6名 計13名
- ・内容：洪水時の避難確保計画の説明、および水難時の避難経路確認
- ・反省点：昨年台風被害の状況と、洪水時の避難確保計画について説明しました。水難時の避難経路の説明をハザードマップを確認しながら説明をしました。

##### (1)消防設備点検

毎月実施しました。業者による総合点検として年に2回(令和3年4月及び10月)実施しました。

##### (3)その他

- ・職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置場所等を確認。

### 13 地域との協働について 就労継続支援 A 型事業と同様

- ・見学や研修を受け入れました。  
(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、民生委員、社協関係者、他事業所等)
- ・地域の諸団体等との連携を図っていますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、様々なイベントが中止となりました。  
(長野市障害ふくしねっと、長野県セルフセンター協議会、若穂住民自治協議会、長野市商工会若穂支部等)

### 14 職員研修について 就労継続支援 A 型事業と同様

- ・ケア会議や職員会議を定期的に実施し、日常業務の情報交換や支援や作業における知識及び技術の研鑽に努めました。
- ・サービス管理責任者更新研修はリモート研修になりました。知識や技術の向上に努めました。

### 15 職員体制について

所長	1名
サービス管理責任者	1名
職業指導員	1名
生活支援員	2名
賃金向上達成指導員	2名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

**第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業**  
**多機能型（ 就労継続B型 就労移行 ）**

**CoCoJAVJAV（主）・BakeryCoCo（従）**

就労支援を主とする活動のなか、3密回避を念頭に、日中活動や生産活動をどのような形で進めていくのか検討しながら活動を進めてまいりました。日課のなかでリスクにあたる場所である休憩時間や昼食時間を時間差で設定し、できるだけ密にならないようにすること、また、毎朝の検温や手洗い消毒など、皆さんに協力を得ながら進めることができました。

制限のあるなかでもQOL活動として、「秋祭り」としてお祭りの雰囲気ができるように輪投げや釣りゲームなどの出店をいくつか準備し、「クリスマスゲーム大会」では、体サイズの大きなサイコロを使って迫力あるゲームにするなど、少人数ずつのチーム分けで活動できることを考えて催すことができました。大笑いしながら皆で楽しいひとときを過ごすことができ、次年度においても同様に「たのしみ」を作りながら、皆の元気をつくっていけるような活動を目指します。

**利用者の推移**

**就労移行支援**

令和 4年 1月 1名 退所	・・・在籍者数 0名
	総在籍者数 0名（令和4年3月末）
別途：就労アセスメントのための就労移行利用者数・・・	0名

**就労継続B型支援**

令和 3年 4月 1名 入所	・・・在籍者数 36名
6月 2名 退所	・・・在籍者数 34名
8月 1名 退所	・・・在籍者数 33名
令和 4年 2月 1名 入所	・・・在籍者数 34名
	総在籍者数 34名（令和4年3月末）

**就労移行支援事業**

**1 所員の内訳（令和4年3月末）**

- (1) 出身市町村： 0名
- (2) 性別： 男性 0名 / 女性 0名
- (3) 年齢層： 0名
- (4) 障がい種別： 0名

**2 通所方法**

- (1) 徒歩及び自転車等 0名
- (2) 公共交通機関（バス・電車） 0名
- (3) 家族による送迎 0名

**3 日課について**

時間	内容
9:00 ~ 10:30	朝礼・ラジオ体操・作業
10:30 ~ 10:40	午前休憩
10:40 ~ 12:00	作業
12:00 ~ 13:00	昼食休憩
13:00 ~ 14:30	作業
14:30 ~ 14:50	午後休憩
14:50 ~ 15:30	作業
15:30 ~ 15:40	着替え・帰りの会

月曜日から金曜日を開所とし、土・日曜日は休みとする。土・日曜日に行事等がある場合は開所とする。

#### 4 通所状況

通所実態（一日平均利用者数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	年平均 0.4人
1人	0人	1人	0人	1人	0人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0人	0人	0人	0人	-	-	

#### 5 個別支援計画について

就労訓練においてはどのような作業をしていきたいか、どのような活動をしたいかなど面談を踏まえ、目標設定をしている。目標についてはまとめをして評価し、その後の方向性を決めていくようにする。利用者、ご家族の意向と希望をお聞きし、また、こちらからも提案をするなかで日々の生活が充実していかれるように支援を行う。

#### 6 就労活動について

平均工賃

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	4,000円	10月	-円
5月	7,200円	11月	-円
6月	10,400円	12月	-円
7月	8,000円	1月	-円
8月	13,400円	2月	-円
9月	3,600円	3月	-円
平均工賃額 7,766円			

#### 【 クリーニング 】

《 作業内容 》

- ホテル、美容室等のタオル類の水洗いクリーニングを行う
- ・アイテム品：BT・FT・BM・サウナマットなどのタオル品、スリッパ
- ・日帰り温泉施設、ホテル等：客先数15件

・美容室：客先数 5 件

○高齢者施設利用者の私物品ネットクリーニング：客先数 9 件

《 全体として 》

・作業量としては、コロナ禍の影響を受けつつも R2 年度の 113% 増となった。

・乾燥機の不具合があり、洗濯と乾燥のバランスがとれていない。

《 就労訓練 》

・クリーニング作業においても、様々なことに携われるように支援を行った。

・昨年度に引き続きコロナ禍により作業量にばらつきがあり、その都度対応した。

#### 【 施設外就労 】

『 長野リネンサプライ（株） 』

《 作業内容 》

・電車車両の座席カバー一部の仕上げ補助

・月～金曜日の午前：所員 3 名、職員 1 名

《 全体として 》

・取り掛かりやすい作業内容なので、企業の雰囲気を感じつつ作業に取り組めた。

・一般就労を目指す方の第一歩として活動できるようにする。

#### 【 一般ドライクリーニング 】

《 作業内容 》

一般のお客様のドライクリーニングの受付、または配達

《 全体として 》

・外出控えに伴い、スーツや外出着の着用機会の減少等により客数が減っている。

### 7 QOL 活動、カルチャーについて

活動日・活動内容

月	日	曜日	内 容	人数
4	1	水	入所式	2
5	19	水	他事業所見学	5
6	2	水	他事業所見学	5
9	22	水	秋祭り	
10	29	金	ハロウィン	
12	15	水	クリスマスゲーム大会	
	29	水	仕事納めの会	
1	4	火	仕事始めの会	
	11	火	鏡開き	

・上記のとおり実施

・飲食を伴わず、ソーシャルディスタンスを保てるよう配慮して進めた。

### 8 保健衛生について

《 健康相談 》

実施日：毎月第1火曜日、第3水曜日の9時より

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	27	11	8	13	10	14	12	9	14	11	8	8
	28	26	23	28	25	22	27	24	22	26	16	23

看護師：富田看護師

内容：血圧・体重測定、日頃の健康や生活の相談

相談者数：毎回8名

「生活習慣病」予備軍が多い

○血圧測定について

・血圧測定時の再測定者が3～4割となる。内服治療者も含まれるが、日頃から気にしている利用者からは、いつもここまで高くないとの声もある。

○BMIの値から肥満傾向者が多い

25%以上 14名(約46%)

25%以下 13名(約43%)

○血糖値(HbA1c)調整者が複数人おり、相談時に自ら結果報告があることもあり、自覚しているように感じられる。

人間関係について

・相性面等で悩みの相談を受ける利用者がある。

・個別的に利用者、職員と面談し、連絡ノート等で対応やフォローを継続している方は、健康相談時には傾聴中心のこともある。

コロナ禍の対応について

・3年目となる中で、利用者への感染予防対策が徹底され、一人ひとりが努力する中であるが「早く収束してほしい」「外出もできない」「楽しみもガマンしている」等の声が聞かれる。雑談時は、同じことを繰り返し説明している。

その他

・限られた時間の中で質問も様々あり、特にメンタル面においては奥が深く対処に苦慮することもある。

《 健康診断 》

令和 3年 7月 1日(木) メディカルチェックによる健康診断

7月 15日(木) "

令和 3年 9月 3日(金) 嘱託医立岩先生による健康診断問診

《 保健総括 》

令和 4年 3月 11日(金): アトリエ CoCo 食堂

・嘱託医立岩先生、他事業所と共同

《 新型コロナウイルス感染症対策 》

・新型コロナウイルス対策(出入口での除菌、手洗い、うがい、食堂の除菌等)を講じ、施設内に持ち込まない、という意識のもと対策を継続している。

《 インフルエンザ予防対策 》



・今年度もアトリエでの予防接種の希望を伺い、予防接種を受けた。利用者においては、年々接種希望者が増えている。

・新型コロナウイルスワクチン接種後2週間経過していない利用者は、今回のインフルエンザ予防接種を受けられなかった。今後、そういったことも確認していく必要がある。

#### 《 家庭との連携 》

・健康相談や健康診断での結果等について、必要なことを家庭へ報告し連携が取れるようにしている。

・服薬されている方は、処方箋の写しを頂いている。

・頓服や頭痛薬などの薬については、必要な方はお預かりし管理している。

#### 《 熱中症予防について 》

・水分補給、休憩をこまめに促し、塩飴等を一定期間に配布しながら、暑さを乗り越えた。水分補給では、各部署にウォータージャーを置いて、すぐに冷水を飲めるようにしている。

・着替えを持参し、汗を拭う、顔を洗うなどの対処方法を声掛けしながら進めた。

#### 《 常備薬について 》

・常備薬については、急な体調不良への対応（腹痛、胃腸薬、風邪薬）個人で服薬をしている利用者へは、その薬と常備薬とを確認し、場合によっては常備薬の服薬を避けていただいている。

### 9 給食の提供

・希望者に給食を提供（キッチン CoCo より提供）

・四季折々に合わせたメニュー、カルチャーに合わせたメニューの提供。

・コロナ対策として、食事開始時間をずらすこと、対面にならないよう席の変更と各テーブルのパーティション設置、次亜塩素酸水の設置、食事以外はマスクを外さない等の対応をしている。

### 10 防災訓練・安全について

・消防計画、土砂災害時の避難確保計画、自衛消防団の編成、職員緊急連絡網の作成（変更作成）

・JAV & Bakery 緊急避難場所：長野市立芹田小学校

#### 防災訓練

・防災グッズ、救急セット、防災ヘルメットを用意し、訓練の際に使用した。

・地震発生時における避難方法について訓練する。

#### 消防設備点検

・毎月実施

・総合点検：年2回、令和3年4月5日・令和3年10月6日実施、三益消防機材(株)へ依頼

#### AEDの設置

・緊急時の対応として設置をしている。

・AED取扱いを玄関へも表示し、近隣地域への協力体制も取れるようにしている。

#### 防犯カメラの設置

・危機管理の面から、防犯カメラの設置を行い、駐車場入り口やその周辺から建物裏側までを覆う形で設置とした。

・所員、職員の安心安全を守ることはもちろんのこと、地域の安心安全へもつながっている。必

要時に警察より確認の問い合わせもある。

### 1 1 地域との協働について

#### 養護学校等の実習生受入れ

月	人数	学校名
6	3名	長野養護
10	3名	稲荷山養護
2	1名	長野養護

・養護学校の実習生受入れでは、複数名の実習生がいるときには一定期間に集中しないよう各学校へ依頼し予定を組んで頂いている。実習期間はそれぞれの生徒に合わせている。

#### 見学・体験者

月	見学者・日にち(人数)	体験者数	人数計
4		1名	1名
6	8日(2名) 24日(2名)		4名
7	28日(6名)		6名
8	5日(2名)		2名
9	29日(1名)		1名
11		1名	1名
12	6日(3名) 14日(2名)		5名
1		1名	1名
3	7日(3名)		3名

・見学は、各関係機関や養護学校等からの見学者を含み、随時行っている。

・体験は、見学後に体験希望の方、体験日数は各々によって変更がある。

#### その他

・短期大学子ども教育学科学生の保育実習受け入れ(令和4年2月28日～3月11日)

・長野市障害ふくしネット(かつどう部会執行部)

### 1 2 職員研修について

・朝の職員ミーティング時において職員間の情報の周知、職員会議による学び

・職員会議での資料として、福祉情報や実践報告などの資料の読み合わせをした。

#### 職員研修

月	日	曜日	内容	氏名
11	12	金	長野県知的障がい福祉協会第4分科会	2
12	3	金	長野市虐待防止研修	1

### 1 3 家族会について

・アトリエ CoCo、キッチン CoCo、アートカフェ CoCo と共に「CoCo 家族会ながの」として組織、事務局をアトリエ CoCo におく。

・コロナ禍により、総会、家族のつどいの中止

・役員会 : 年2回

#### 14 職員体制について

所長（サービス管理責任者）1名 就労支援員1名 職業指導員1名  
生活支援員1名 看護師（嘱託）1名 医師（嘱託）1名

#### 就労継続B型支援事業

##### 1 利用者の内訳（令和3年3月末）

- (1) 現住所 : 長野市 34名
- (2) 性別 : 男性15名 / 女性19名
- (3) 年齢層 : 19歳～67歳
- (4) 障がい種別 : 知的障がい24名 精神障がい8名 身体障がい2名

##### 2 通所方法（重複あり）

- (1) 徒歩及び自転車（自動車） 9名
- (2) 公共交通機関（バス・電車） 16名
- (3) 家族の送迎 9名

##### 3 日課について

時間	内容
9:00 ~ 10:30	朝礼・ラジオ体操・作業
10:30 ~ 10:40	午前休憩
10:40 ~ 12:00	作業
12:00 ~ 13:00	昼食休憩
13:00 ~ 14:30	作業
14:30 ~ 14:50	午後休憩
14:50 ~ 15:30	作業
15:30 ~ 15:40	着替え・帰りの会

CoCoJAVJAV：月曜日から金曜日を開所とし、土・日曜日は休みとする。土・日曜日に行事等がある場合は開所とする。祝日は自由通所日。

BakeryCoCo：火曜日から土曜日を開所とし、日・月曜日は休みとする。日・月曜日に行事等がある場合は開所とする。祝日は自由通所日。

#### 4 通所状況

通所実態（一日平均利用者数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	年平均 21.9人
24人	22人	25人	21人	20人	22人	
10月 22人	11月 23人	12月 23人	1月 19人	2月 20人	3月 22人	

#### 5 個別支援計画

就労移行支援事業と同様

#### 6 就労活動について

## 平均工賃

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	8,856円	10月	14,368円
5月	12,775円	11月	14,635円
6月	15,387円	12月	14,848円
7月	14,003円	1月	11,690円
8月	13,370円	2月	12,006円
9月	13,383円	3月	14,835円
平均工賃額 13,308円			

### 【 クリーニング 】

就労移行支援事業と同様

### 【 パンの製造・販売 】

#### 《 作業内容 》

・昨年に引き続きコロナ感染防止対策により、イトインの中止、外販の中止や最小人数で販売へ行くなどの対応を行った。

・4月より「CoCo レスト」、8月より「ゆーぱれあ」での販売先が増え、製造量は増加している。

・年間を通し、新型コロナウイルスの感染者の増加や蔓延防止措置、命と暮らしを救う集中対策期間等が発令されると来客が落ち込むことが多くみられた。

#### 就労訓練

・蔓延防止措置期間中や命と暮らしを救う集中対策期間中は、イトインの中止、レジ対面でのビニールカーテンの設置等を続け、営業を続けた。また外販活動については、感染防止対策として職員が外販へ行くようにし、短時間での販売にするなどお客様へもその都度を相談しながら進めた。

・朝の健康チェックでは、これまで行っていたことに感染防止対策もプラスして、保健衛生を保てるよう支援を継続した。

・販売活動では、新型コロナウイルスの動向を見ながら、感染防止対策をとりながら行っている。

## 7 QOL 活動・カルチャーについて

就労移行支援事業と同様

## 8 保健衛生について

就労移行支援事業と同様

## 9 給食の提供

就労移行支援事業と同様

## 10 防災訓練・安全について

就労移行支援事業と同様

## 11 地域との協働について

就労移行支援事業と同様

## 12 職員研修について

就労移行支援事業と同様

### 13 家族会について

就労移行支援事業と同様

### 14 職員体制について

所長（サービス管理責任者）1名 職業指導員2名 生活支援員3名 就労支援員1名  
目標工賃達成指導員2名 看護師（嘱託）1名 医師（嘱託）1名

## 地域活動支援センター事業 型（「BakeryCoCo」併設型） Café CoCo

### 1 登録利用者数

登録者数：162名（令和4年3月末）

### 2 開所状況

開所時間：9：30～17：30

開所日数：年間延べ 258 日

火曜日から土曜日を開所とし、日・月曜日・休みとする。祝日は不定休にし、利用者がカフェスペースで過ごせる開放日とする。

### 3 日中活動について

#### カレンダー教室

月1回開催し、四季に合わせたテーマで手作りのカレンダーを作成する。コロナにより飲食を伴うイベントは中止とし、サンドイッチ教室の代替えとして、カレンダー教室を開催。折り紙、画用紙の種類を自分で選択し、オリジナルの作品を作成するようにした。さらなる面白みを加えるため、立体的な作品やお花かみや自分の考えた言葉を入れている。

#### CoCo 健康部

季節に流行る病気のこと、タイムリーなテーマを選び健康について講義や話し合いをする。クイズ形式にしたり、自分で考える時間を設けたり進行方法も変えて実施するなど興味を持てるように工夫して開催することが出来た。コロナについての最新情報や、予防の知識や心が沈まないような心の健康を盛り込んだ。

話の終わりには、毎回ぬりえの時間を設けているが、定着することができ、また皆で話をしながら、交流を深める時間になっている。

#### 若里さんば

・外食イベントを中止し、コロナ感染が落ち着いてきたため、3密を避けることができる散歩を企画した。運動不足解消、屋外での気分転換を目的に開催。30分程度の歩行ができる。解除後の企画で、散歩、おやつ、水分補給を楽しくできた。

・コロナ感染が落ち着いた秋には、アートCaféCOCOの絵画展（善光寺近く）にお出かけ企画をした。

#### 各手作り教室

コロナのため外部講師の活動が出来なかったが、手作りのマスクケース作り、キーホルダー作

り、ハロウィンリース、スノーボール、ひな祭りの飾り、を楽しむことができた。人数が多い場合は、2グループに分けて3密回避して実施した。家庭に持ち帰って使えるものが作る事ができた。

#### CoCo 運動部

健康運動士による体操教室を開催。3ヶ月に1回のシリーズでできた。座ったまま、普段着で出来ることから、運動が苦手な方も、気軽にできた。無理な運動ではなく、静的な動きで、血行を促す運動を学ぶことが出来た。

#### 祝日開放日

3～5人の利用者が以下のようなニーズのもと来所されていた。

- ・自身で、読書、かきもの、絵画、書類、パソコンを持ち込んで、作業される方
- ・なんとなく、いる場所を求めてくる方
- ・独居、家族と不仲で来る方

また、近隣の活動センターでは祝日開所しているところなく、助かるという評判も聞かれる。一般利用客の出入りがないため、静かな環境で面談もできる。

#### 笑い文字教室

筆ペンを使い、バリエーション豊富な笑顔のイラストと一言セリフをはがきに描き、絵八ガキとして作成した。

#### ガーデニング教室

春の花と秋の花で年2回開催。自宅での栽培も続くことから、日々の生活の楽しみやご家族で楽しめると感想をいただいた。

#### ピュアカウンセリング

3密回避の2名以上の会は企画しなかったが、2名で2組の顔合わせと交流の機会を設けた。

### 4 作業体験について

作業体験は随時受け付けをしている。

### 5 相談支援について

#### 相談内容

求職や福祉事業所への通所希望の方もおり、相談内容から本人の思いや希望を整理することにより、自身で考えをまとめ一歩進めることができるよう支援している。状況に応じ関係機関と連携をし、状況確認等を行っている。

就職したいのか、就職を障がいオープンで就活するか、就職後、いかに障がい担当や上司とコミュニケーションをとるかなど相談が多かった。

家族、友人についての人間関係の相談多い。

新規にて相談に来所される方は、法人内の相談事業所、各関係機関、地活利用者からの紹介、地活通信を見て等により、来所されている。

働いている障がいのある方への相談支援として、メンタルヘルスケアを行った。

ご家族と連携することも多々あり、その都度必要に応じて対応している。

家族を含めた面談、家族のみの面談をすることで、本人、家族の課題、目標作りをする支援をすることが出来た。

## ピアカウンセリング

コロナ感染予防の観点より、今年度実施はなし。

### 6 保健衛生について

来所時の手のアルコール消毒の励行、体温チェックをし、感染症予防対策を講じている。

イベントの参加は、首都圏や感染の多い地域に行った方、ご家族に該当する方がいる場合、1週間は参加を控えていただくようお願いする。

3密を避けるよう座席配置と長時間に及ばぬような企画をした。

コロナ感染症などの対応について、今の状況の理解や予防行動ができるように支援を行っている。

### 7 家族との協働

ご家族の様々な想いに寄り添い、利用者さん自身をサポートできるように協力し合いながら支援を行っている。3者面談の実施もしている。

ご家族自身が理解することの難しい場面もあり、ご家族へのサポートも必要である。

### 8 地域との協働

見学や体験などは随時受け付けをしており、利用していただいている。

パンフレットやチラシの掲示や配布をし、地域の方への情報提供を行う。

### 9 その他

危機管理の面から、防犯カメラの設置をしており、利用者さんや職員の安心安全を守ることはもちろんのこと、ご近所の方にとっての安心へもつながっている。

### 10 職員体制について

管理者 1名      支援員 2名      看護師（嘱託） 1名      医師（嘱託） 1名

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業  
多機能型障がい福祉サービス事業所

## スタジオCoCo

スタジオ CoCo は平成 27 年 4 月に開所させていただき、7 年が経過しました。令和 3 年度も 2 年度に続き新型コロナウイルス感染拡大により大きな影響を受けた 1 年でした。3 年度の稼働状況は 2 年度ほど大きな波はありませんでしたが、4 月・5 月・6 月・1 月・2 月は閑散状態となり、稼働時間を短縮した期間もありました。夏から秋にかけては生産量も拡大して、リネンサプライ事業の売り上げは年間 2 億 9 3 5 0 万円となり、令和 2 年度に比べ + 1 3 . 7 % となりました。平成 2 8 年度の水準まで回復することが出来ました。コロナ禍で厳しい経営を強いられる企業も多いことを思うと、恵まれた仕事を与えてもらっていることに感謝しております。

新型コロナウイルス感染症対策としまして、NLS グループの出す行動指針を遵守してきました。昨年度から行っている感染対策に加え、7 月～8 月と 2 月～3 月を中心にワクチン接種を行いました。令和 3 年度も職員・利用者ともに健康な 1 年を過ごすことが出来ました。

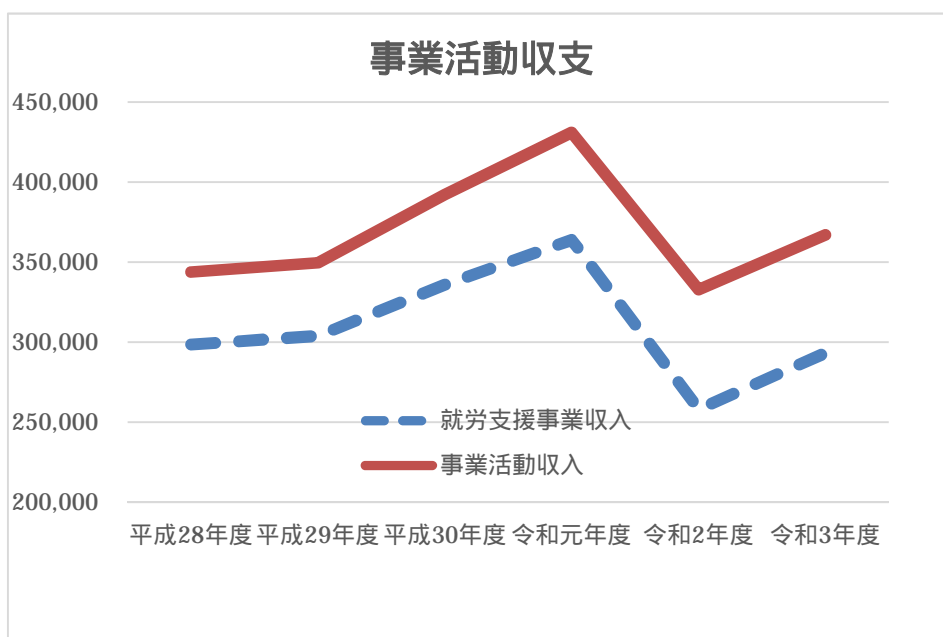
3 年度末での在籍利用者数は A 型 1 2 人・B 型 9 人・就労移行 1 人・生活介護 9 人となり合計 3 1 人で、前年度末に比べて 1 名増に終わりました。見学・実習の問い合わせ、申し込みは、スタジオ CoCo・CoCo レスト共に増えてきており、地域から関心を持たれるようになってきました。通所者の増員につなげ、令和 4 年度は定員 4 0 人の確保を目指します。

### 収入・費用の年度間比較

	就労支援事業収入	福祉サービス事業収入	事業活動収入計	事業活動費用計
28年度	298,636	34,406	343,897	339,220
増減率	+ 20.7%	+ 52.8%	+ 26.6%	- 20.2%
29年度	303,973	38,355	349,699	341,394
増減率	+ 1.8%	+ 11.1%	+ 1.7%	+ 0.6%
30年度	336,107	48,996	392,225	373,182
増減率	+ 10.6%	+ 27.7%	+ 12.1%	+ 9.3%
元年度	363,946	53,948	428,228	406,091
増減率	+ 8.3%	+ 10.1%	+ 9.2%	+ 8.8%
令和2年度	268,173	57,298	332,654	307,763
増減率	-26.3%	+6.2%	-22.3%	-24.2%
令和3年度	293,502	64,800	367,070	338,747
増減率	+ 9.4%	+ 13.1%	+ 10.3%	+ 10.1%

単位：千円 増減率は前年度比





#### 事業の開始

平成 27 年 4 月 1 日 開所

平成 27 年 6 月 1 日 リネンサプライ・工場の本格稼働開始

#### 利用者の推移

##### 就労継続支援 A 型事業

定員 12 名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和 3 年 4 月 1 日		13 名
10 月 13 日	1 名 退職	12 名
令和 4 年 3 月 31 日		12 名

##### 就労継続支援 B 型事業

定員 10 名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和 3 年 4 月 1 日	1 名 就労移行支援事業より移行	10 名
4 月 30 日	1 名 生活介護事業へ移行	9 名
令和 4 年 3 月 31 日		9 名

##### 就労移行支援事業

定員 6 名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和 3 年 4 月 1 日		1 名
令和 4 年 3 月 31 日		1 名

##### 生活介護事業

定員 12 名

年月日	移動状況等	在籍者数
令和 3 年 4 月 1 日	2 名 CoCo レスト入所	7 名
5 月 1 日	1 名 スタジオ CoCoB 型事業より移行	8 名

7月 19日	1名 CoCo レスト入所	9名
令和 4年 1月 31日	1名 CoCo レスト退所	8名
3月 1日	1名 スタジオ CoCo 入所	9名
3月 31日		9名

\* 令和 2年 12月 1日 生活介護事業 従たる事業所 CoCo レスト開所  
定員数を 6名から 12名に変更(主: 6名 従: 6名)

## 就労継続支援 A 型事業

### 1 利用者の内訳

出身市町別 長野市 2名 千曲市 7名 上田市 2名 坂城町 1名  
性別 男性 10名 女性 2名  
平均年齢 28.9歳(22~40歳/ 20代...7名 30代...4名 40代...1名)  
障がい種別 知的障がい 療育手帳 A1...1名 B1...3名 B2...7名  
精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 3級...1名

### 2 通勤方法

- (1) スタジオ CoCo の送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 5名
- (2) 徒歩及び自転車 1名(うち 1名は CoCo ホーム三本木より通勤)
- (3) 自家用車(本人運転による) 4名
- (4) 自家用車(家族の運転による) 1名
- (5) 50CC バイク 1名

### 3 勤務体制

始業時刻 8:40 終業時刻 17:10  
休憩 昼休み(50分) 15時休み(20分)  
実労働時間 7時間 20分  
年間休日 90日

- ・繁忙期及び納期の変更等のため、1年単位の変形労働時間制で運営をしている。原則として木曜日・日曜日は休みとした。希望者は残業も行っている。
- ・「就労継続支援 A 型労働者 就業規則」に準じた運営を行っている。

### 4 通所状況

通所率

R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9
99.6%	98.0%	99.3%	96.8%	94.4%	90.6%

R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	平均
90.2%	96.6%	93.8%	94.7%	95.4%	95.4%	95.4%

安定した通所状況ではあったがワクチン接種後の副反応による休み、及び指定有休の取得に

より、昨年より平均 1.5%の減少となった。

## 5 利用者の給与

給与は、労働実態に合わせ労働基準監督署の承認を得て決定している。最低賃金を確保できるよう努力しているが、最低賃金の減額特例を受けている方は、9名いる。通勤費は全額支給、有給休暇付与、社会保険・労働保険全員加入。

尚、本年度は新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金が含まれている。

年収の状況

800,000 以下	1名
800,000 円～1,000,000 円	0名
1,000,001 円～1,200,000 円	2名
1,200,001 円～1,300,000 円	3名
1,300,001 円～1,400,000 円	0名
1,400,001 円～1,500,000 円	2名
1,500,001 円～1,600,000 円	0名
1,600,001 円～1,700,000 円	1名
1,700,001 円～1,800,000 円	3名
1,800,001 円～1,900,000 円	1名

計 13 名(令和 3 年 10 月退所 1 名含む)

平均年収 1,448,607 円

月額平均 120,717 円

障害基礎年金受給状況	2 級	9 名	年間 780,900 円
	1 級	1 名	年間 976,125 円

## 6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労継続支援 A 型計画」を立てる。また 6 ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

## 7 利用者の作業内容

洗い場	2 名	ホーフロール	4 名	シーツロール	4 名
浴衣ロール	1 名	タオルたたみ	1 名		

A 型利用者は洗い場、仕上げロールでの作業を主としている。中には精神面等の支援の必要性からタオルたたみ・タオルフォルダーでの仕事を担う方もいる。

## 8 生産活動

取り扱い業務	ホテル・旅館寝具等のクリーニング
	シーツ 掛けカバー 枕カバー クロス・ナブキン類
	浴衣 ガウン タオル類 一般クリーニングの取次ぎ
	布団リース

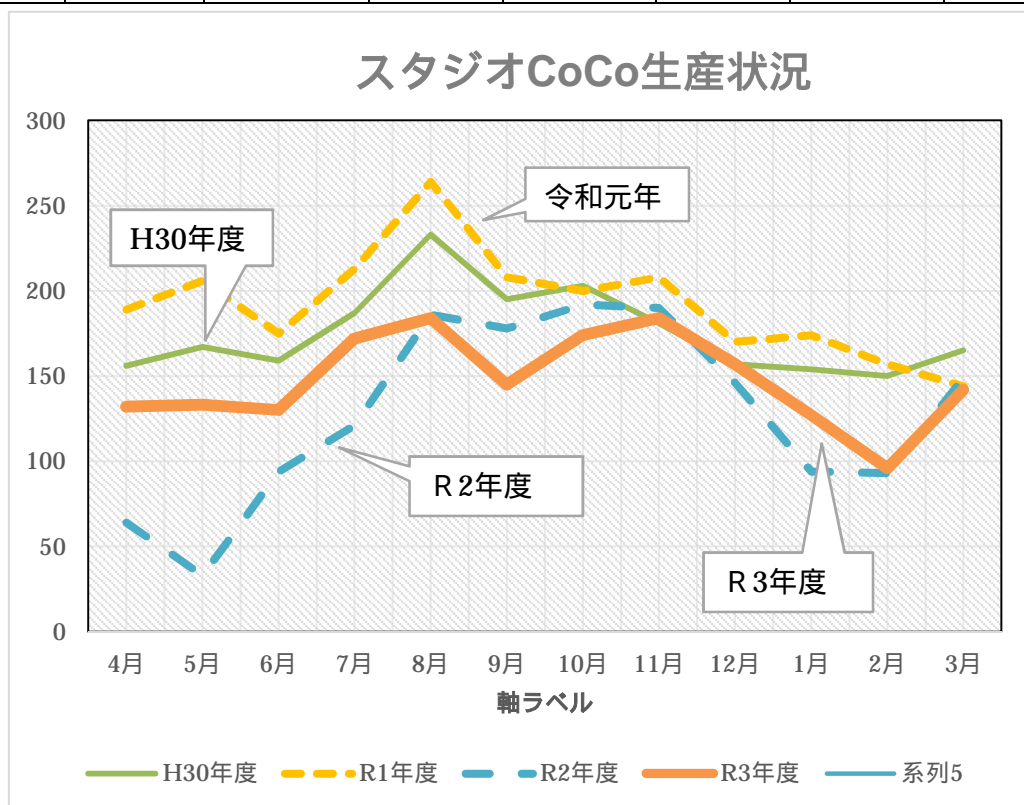
生産状況

年度初めは緊急事態宣言が出され稼働が落ち込んだが、昨年とは違い完全にクローズとな

るホテルは少なかった。グループ内で生産拠点を集約する生産調整は行われなかった。7月から稼働が上がり始め、GoTo トラベル等の政策はとられなかったが、8月から12月にかけては残業をする日も多かった。年が明けてまん延防止等重点措置がとられ1月中旬から3月中旬も稼働が下がった。年間の生産重量は令和2年度に比べ15.3%の増加となった。

増減は前年度比（単位：千円）

年 度	30 年度	令和元年	増減率	令和 2 年	増減率	令和 3 年	増減率
就労支援 事業収入	336,107	363,946	+8.3%	258,203	-29%	293,502	+13.7%



○月別生産重量

(単位：t)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30 年度	156	167	159	187	233	195	203	181	157	154	150	165	2107
R1 年度	189	206	175	213	264	208	200	208	170	174	157	144	2308
R2 年度	64	33	94	121	186	178	192	190	146	94	93	149	1,540
R3 年度	132	133	130	172	184	145	174	184	157	127	96	142	1,776

## 9 配送業務

- ・ 配送担当職員：4名 一部外注にて配送業務を行っている。  
スタジオ CoCo で仕上げをしているリネン品の納品回収を主な業務としている。

- ・事業所所有車：7台（4tトラック2台 2tトラック2台 ハイエース3台）
- ・担当エリア：  
長野市内2名 上田市内1名 千曲・篠ノ井方面1名 斑尾・上越方面1名

## 10 健康管理

### (1) 日々の配慮

- ・朝会時の健康観察と声掛け
- ・作業時の巡回指導と担当職員からの直接指導
- ・特定指導・相談
- ・健康チェック表による日々の体調管理
- ・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等感染症予防のための「手洗い・うがい・消毒・マスクの着用」の徹底。声掛けの常時実施
- ・熱中症、脱水症状の注意喚起と水分・塩分補給等の声掛け・保冷剤の支給を実施
- ・看護日誌の記入（生活介護事業）

### (2) 健康相談

日 時：月1回 基本的に第2火曜日 13:00～15:00

場 所：スタジオ：食堂・和室 CoCo レスト：ホール

内 容：体重測定・血圧測定・面談による健康相談

状 況

日	人数及び実施状況
令和3年4月	実施なし
5月14日(金)	7名 生活介護中心に実施。
6月18日(金)	7名 生活介護中心に実施。
7月13日(火)	10名 A型・生活介護中心に実施。
8月	実施なし コロナウイルスまん延のため中止。
9月3日(金)	11名 A型・生活介護中心に実施。 繁忙期のため、A型の利用者の健康状態を把握した。
10月	実施なし コロナウイルスまん延のため中止。
11月	実施なし 10日(水) インフルエンザワクチン予防接種 44名
12月17日(金)	11名 生活介護と、しばらく健康相談を受けていない利用者を中心に実施。
令和4年1月	実施なし コロナウイルスまん延のため中止。
2月8日(火)	22名 全員の体重測定・血圧測定等実施
3月8日(火)	11名

\* 令和3年度の健康相談は新型コロナウイルスの蔓延が多かった月は相談を中止した。

\* 場所は医務室ではなく広い食堂和室を使用し常時、換気と器具等の消毒をして実施した。

\* 令和2年12月に開所をしたCoCoレストに関しては、年度当初はスタジオと合同で実施をし

ていたが、実施人数や移動等の関係から特別なことがない限りは常駐の宮崎看護師（職員）による健康相談として CoCo レストにて実施をした。内容等については安里看護師に報告の形をとらせていただいた。

#### まとめ

- ・コロナ禍のせいもあってか、家から出ることが格段に減り、体重の増加が全体にみられ、休日や帰宅後の自宅での過ごし方や運動の様子なども聞きとりアドバイスをいただいた。体重の増加については、適度な運動、日頃の食生活などの見直しが必要との指導があったが、ストレスなどからなのか、なかなか改善が見られなかった。
- ・通院、服薬をしている利用者の必要な情報や健康診断の結果を医師、看護師に把握していただき必要な指導をいただいた。本人に伝えるとともにご自身での健康管理や対応だけでは不十分と思われる方には事業所からご家庭に連絡を行なった。

#### (3) 健康診断

全日本労働福祉協会による健康診断 48名（利用者29名／職員19名）

日 時：令和3年10月6日（水）14：30～16：30

実施機関：（財）全日本労働福祉協会

実施内容：身長・体重測定・血圧測定・尿検査・視力検査・聴力検査・血液検査・胸部レントゲン、心電図・医師による問診

安里院長による健康診断 24名（利用者24名）

日 時：令和4年2月19日（土）13：30～14：30

場 所：食堂・和室

#### まとめ

- ・院長、看護師に診断結果を確認いただき、健康相談につなげた。合わせて、就業制限の部分について重労働可否のご教示をいただいた。
- ・結果に「要精検」と出た方には、通知を出し医療機関への通院をすすめた。（安里院長の健康診断の際、特に「減量」「血圧の定期測定」「服薬」に関して直接利用者に指導を行った。体調管理に関して特にご家族の協力等が必要な方については直接事業所から連絡をした。）

#### (4) インフルエンザ予防接種 43名（利用者23名／職員20名）

日 時：令和3年11月10日（土）13：45～14：15

#### まとめ

- ・予防接種を行うことで、インフルエンザ、風邪に対する予防意識が高まった。当日接種できなかった方は、安里医院やかかりつけ医で接種をした。今期、インフルエンザ感染者はいなかった。
- ・事業所で予防接種を実施していただけるため、受けやすい。本人、職員もだご家族からもこのような声がある。

#### (5) 新型コロナウイルス感染症対策

スタジオ CoCo での新型コロナワクチン接種 3名（生活介護利用者3名）

日 時：1回目 令和3年8月18日（水）12：30

2回目 令和3年9月 8日(水) 14:45

3回目 令和4年3月28日(月) 13:00

#### まとめ

- ・集団接種会場や病院で接種することが難しい重度の利用者3名を対象に、安里医師に事業所まで出向いていただき、きらきら(生活介護棟)にてご家族の付添のもと接種をしていただくことができた。

- ・コロナワクチン接種の推奨

早い段階で嘱託医と相談をしあいながら、職域接種の可能性等も探り、厚生労働省に書類を上げるなどした。

最終的には、職員は高齢者施設等従事者として長野市以外は各市町村へ事業所から申し込みを行う形で実施。

利用者はグループホームの入居者は入所施設の方として最も早く安里医師に接種いただいた。他の方には長野市、千曲市、上田市、坂城町、各市町の情報をいち早くご家庭にお伝えし、基礎疾患として対応いただけることや、予約方法等についても相談に応じた。接種当日は健康状態の経過等もみていただくためご家族の同行をおすすめして実施いただいた。

ワクチン接種の状況 (在籍者数および状況は3月31日時点のもの)

	職員 (21人)	利用者(31人)	
		接種済み	希望しない
2回接種 済	21人	29人	2人
3回目 済	17人	22人	2人

- ・利用者・職員の中で発熱、だるさ、味覚・臭覚の異常等の訴えの際の対応について、安里看護師に報告・相談をして抗原検査の実施をした。事業所には「新型コロナウイルス抗原検査キット」を常備している。本人が無症状の場合であっても身近に濃厚接触になり得ると思われる方がいた場合等にも使用できるような体制にしている。
- ・「うつさない うつらない 自分の身は自分で守る」を合言葉にグループ組織・事業所全体で行動指針を遵守し感染防止に努めた。
- ・コロナワクチン接種の推奨
- 「手洗い・消毒・マスク」を基本に常に朝会にて予防を訴えた。トイレ、洗面所でのハンドソープによる手洗いと消毒の徹底。正しいうがい方法の指導。1日のうち2~3回手すり・作業台・台車等のアルコール消毒。会話をする時は距離を置くこと。朝会でのマスクの着用の徹底。乾燥防止。掲示物による呼びかけ。黙食。家庭内での感染防止等、様々な対策を行った。
- ・一昨年より家庭・事業所での検温。次亜塩素酸水のミストによる消毒、ハンドソープによる手洗い・うがい・アルコールによる手指消毒・健康チェック表を用いての体調管理を実施している。(うがいは、令和4年に入ってから、洗面所が密となるような状況避けるため人のいるタイミングでは行わないこととした)
- ・食堂での食事は交替制とし密の状態を回避した。座席はテーブルの並びを並列にして隣の

人との間隔をあける。飛沫防止パネルを隣や前との間に設置する。食事中は会話を慎む。食後は塩素を含んだ台布巾でテーブルを拭く。個人の調味料の選択を止め厨房担当者から直接提供をしている。食堂は常に窓を開け換気をしている。

- ・ NLS グループの行動指針の遵守を徹底し、休業日の過ごし方や外出等についても相談に応じた。県外への外出等において必要な場合は注意喚起を行うとともにご家庭とも相談をさせていただいた。
- ・ 日頃から三密を避けること、不要不急の外出を避けること。等 NLS グループの行動指針に沿いながら、日々全体および個人に訴え実践している。
- ・ 本人あるいはご家族の県外への往来に関しては個別に申請・相談を受けるなかで自宅での待機期間などを設けるなどして対応させていただいている。

#### (6) 健康講話

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため実施なし。

#### (7) その他

利用者の状況

通所状況等

- ・ 昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延はあったが休業などはなく通常どおりの運営ができた。
- ・ 感染対策として手洗い、消毒をはじめ体調管理に重点をおいていた為か年間を通じて「風邪」症状での欠席がほとんどなかった。
- ・ グループホームの入居者の体調不良等場合は生活支援員と連携をとり早い段階で通院等の対応をした。

#### 【スタジオ】

骨折での手術・入院、うっ血性心不全での入院といった利用者の中長期的な病状があった。

#### 【レスト】

- ・ 入所するまで障がい福祉サービスの利用がない方、医療に繋がっていなかった方に関して課題行動や糖尿病の疑い等から精神科、内科通院へつなげたケースあり。通院についても同行受診をした。
- ・ 肥満でごはんの摂取量が決まっている利用者に対してはご家族とも協力をして食生活の改善につとめている。事業所でもご飯の量を量って提供している。また、運動量を増やす目的で日課の中で毎日ウォーキングを実施している。
- ・ 多飲水でトイレが頻繁な方は水分コントロールが難しく支援員の声掛けや見守りを要する。
- ・ 性に関して、利用中に自慰行為がある方への配慮、対応に苦慮することがある。

#### 熱中症対策

作年度から工場内に設置したクールミスト発生装置ユニットから細かい霧を気化することにより表面温度を下げ暑さ対策を行なった。熱中症対策に大きな効果があった。

常時マスク着用の中、呼吸がしにくい等の方に対しては、適宜マスクをはずして屋外での休息をうながした。



### 安全衛生委員会の開催

定期的に委員会を行うとともに、従業員全体に安全衛生意識の向上を図っている。

## 11 安全・衛生管理

### スタジオ CoCo 安全衛生方針

当事業所は、従業員の安全を第一に考え運営をしています。また、従業員も安全衛生意識を向上させるため朝会・会議などで情報交換を行い OJT で危険個所周知・不安全作業防止について確認をしています。労災事故が起こらないように安全衛生上の提案を積極的に行う風土を作り上げていきます。

### スタジオ CoCo 令和 3 年度安全衛生目標

労働災害 0

決まった作業手順を必ず守る。

②相互の安全確保のため、大きな声での掛け声と合図を徹底する。

#### (1) 安全衛生委員会の開催

令和 3 年度は 9 回の開催となった。労働災害に関する知識を深めるとともに、危険予知トレーニング「KYT」をしながら工場のパトロールをしている。新型コロナウイルス感染症対策に関しても対策を確認した。また、洪水に備える土嚢づくりを行った。

日時	内容
4月14日(水)	令和2年長野県における労働災害発生状況 ・社会福祉施設での労災が増加 ・60歳以上の労働者が27%を占める 等
5月25日(火)	土嚢づくり
6月2日(水)	土嚢作成と設置方法
7月6日(火)	新型コロナウイルスワクチン接種について
9月7日(火)	安全パトロール。整理整頓：洗い場・乾燥機下・タオル置き場
11月10日(水)	安全パトロール。頭上注意：シャッター・投入機・フィードベルト
12月22日(水)	ヒヤリハットまとめ
1月18日(火)	ロール操作の基本と注意点。巻き込まれ・清掃箇所等。
3月16日(水)	新型コロナウイルス感染時の対応 BCP:障がい福祉サービス事業所等における新型コロナウイルス感染症発生時の業務継続ガイドライン について

#### (2) 安全管理

##### 《事業所・工場》

- ・労働安全衛生手帳(日本リネンサプライ協会発行、全49ページ)の読み合せを平成27年12月11日以降毎日朝礼の中で行っている。気を付けなければならない事を説明し、注意を喚起し、安全意識の向上に努めている。
- ・停止スイッチの作動確認を現場作業者が毎朝行っている。(平成27年12月より)異常があった場合には工場長または洗い場担当者に報告し安全確認を実施している。その他の異常(異

- 音・異臭・蒸気漏れ・エア－漏れ)も部署ごとで確認をしている。
- ・朝礼にてヒヤリハットの情報を発表してもらい、対策につなげている。
- ・毎月スタジオ CoCo における安全衛生の重点項目を決めて「今月の安全作業宣言」を掲示している。朝礼で趣旨を理解してもらい事故防止を呼び掛けている。
- ・毎日 12:00～12:10 の時間で部署ごとに清掃を行っている。当番でトイレ・玄関・廊下・食堂、職場の清掃また事業所周辺のごみ拾いや草取りなども行っている。
- ・玄関・トイレ・事務所・食堂・工場の出入り口ドア等の取っ手、ノブ、電気のスイッチ等をエタノール系消毒液で拭いて感染症の対策をしている。工場内の洗濯後の清潔物を扱う台車、作業台等も消毒液を用いて拭いている。
- ・令和元年 10 月 12 日の水害以来、衛生向上の為にスチールラックを増す等により物品の床への直置きをなくした。また、食堂の机・椅子・床を毎日消毒するようにした。
- ・令和元年 11 月より手指の消毒のため、エタノールスプレー容器を食堂入り口に 2 ヶ、工場入り口 2 ヶ、玄関 1 ヶ、洗い場 2 ヶ設置した。
- ・令和元年 12 月より、手洗い場の固形石鹼が細菌の繁殖の危険があるため、泡ハンドソープに切り替えた。手洗いの大切さを朝会等で啓蒙し続けている。
- ・令和 2 年 1 月よりマスクを必ずつけることにした。不織布マスクの着用を推奨している。
- ・令和 2 年 2 月より新型コロナウイルス感染拡大防止のため、朝出所時や訪問者の入所時に検温を行う 健康チェック表を毎日記入する 入所前に次亜塩素酸水を噴霧した状態のクリーンルームで 3 分間待機した後、入所をしてもらい 密な状態を避ける 等の対策をとっている。噴霧装置は工場を含め事業所内に 5 台設置して対応している。

#### 《交通・車両》

- ・過去にトラックの後方に関するヒヤリ・ハットが多かったため、バックモニターを全車両に取り付けている。
- ・危険運転があった場合ドライブレコーダーで確認。注意を促している。

### (3) 防災訓練

#### スタジオ CoCo

令和 3 年度は防災訓練を 2 回実施した。

令和 3 年 10 月 5 日(火)

- ・火災避難誘導訓練
- ・通報訓練

第一ロール後ろからの出火を想定して訓練を行った。避難・誘導、火災通報専用電話通報を行った。

令和 4 年 3 月 11 日(金)

- ・第一ロールより出火を想定して訓練を行った。初期消火 消火係の連絡 放送により支援員の指示通り避難を行うことができた。
- ・火災通報専用電話通報訓練を行った。
- ・水消火器による消火の訓練。消火器で的に向かって消火の訓練を行った。誘導灯の交換時期灯が点滅の為 交換を行った。

## 12 委託給食

常時利用者 8名

昼食数 令和3年4月～令和3年4月 268日

利用数 2,218食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集（都度確認）

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施（キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当）

## 13 QOL活動の実施状況

諸行事の実施及び参加

- ・千曲・坂城自立支援協議会さんさんネットの行事実施及び参加  
「さんきゅーあーと展」～さん・さんスマイルコレクション～  
令和4年1月17日（月）～28日（金）に個人作品および 希望の丘 の共同作品に出品参加
- ・長野県知的障がい福祉協会主催「福祉大会」第4分科会にスタジオ CoCoとしてオンラインで参加 わたしのこと・わたしのとこ みて！みて！きいて！」で信濃の国のダンスをした。
- ・サンスポートながの・CoCo レストとの協力でWEBで運動教室を開催。ストレッチや歌にあわせて体を動かす。等楽しく行った。
- ・季節に応じた行事「ハロウィン」「クリスマス」「鏡開き」「節分」等
- ・千曲川の堤防沿いや近隣地域のウォーキング、CoCo レストでの交流会を実施。
- ・スタ レクではコロナウイルスの感染防止対策のもと調理実習の実施、マレットゴルフ図書館などの公共施設なども利用した。

月	日	曜日	内容	備考	利用者	他
4	1	木	入所式	アトリエ・レスト	3名	8名
4	7	水	千曲川沿いの自然を見に行こう	スタジオ・レスト合同	14名	7名
5	26	水	はじける気分で フルーツポンチ	スタジオ・レスト合同	12名	5名
7	7	水	戸倉図書館を利用しよう		11名	4名
9	29	水	マレットゴルフ	萬葉グランド	13名	5名
10	27	水	ハロウィンミニゲーム	スタジオ食堂	10名	5名
11	17	水	三本木公園でスポーツ	三本木公園	12名	5名
12	21	火	クリスマススライドショー	食堂	9名	5名
2	22	火	Webで運動教室	サンスポート長野と。	12名	4名
3	23	水	Webで運動教室	サンスポート長野と。	11名	4名

今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため「旅行」をはじめ通年実施している諸行事（クリスマス会など）を中止、あるいは縮小する形で行った。

## 14 CoCo 家族会ちくま

令和3年度の諸行事・活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会合形式での開催はな

かった。総会は文書をもって行なった。

## 15 地域への開放状況

千曲市及び周辺市町

- ・地域の常会への会費納入、清掃活動等へ参加をした。
- ・千曲・坂城地域自立支援協議会

全体会 事業所連絡部会 就労部会 さんさんネット部会 に参加

(Zoomでの開催に参加した。コロナ禍での事業所運営、対応に関する情報共有、地域活動支援センターについての話題等が多かった)

現場実習の受入れ

- ・稲荷山養護学校(本校) 更科分教室、通信制高等学校、基幹相談支援センター等の関係支援機関からの体験実習や、A型での就職をめざしての実習の受け入れを行った。
- ・令和3年度は見学及び実習も感染症対策をしながら行なった。感染症拡大が著しい時期には外部の方の来所を遠慮いただいた。もしくは屋外での対応とさせていただいた。
- ・実習、見学に際しては隣接する地域生活支援センターCoCo ちくま/CoCo ホーム三本木の紹介もさせていただき希望に応じて見学を合わせて行っている。

## 16 職員研修について

- ・毎朝の打ち合わせ会、職員会議(全体で月1回)生産会議(月1回)支援会議(おおよそ月1回)を行い、ヒヤリハットをはじめ日常の気づきを共有し、より良い生産活動、事業運営が行えるよう努めた。
- ・毎朝全員で「安全衛生手帳」の読み合わせを行い工場内における危機管理・安全管理と工場運営について学び、確認を行った。
- ・安全衛生委員会においてリネンサプライのみではなく、感染症、防災等多岐にわたる話題や課題について学び合い、毎月の安全衛生宣言に反映させ事業所内で労働および活動をする全ての人に周知を行った。
- ・障がい者虐待防止・権利擁護について学んだ。

主催・実施主体	内容	出席者
長野県知的障がい福祉協会関係	県代表者会	1名
	北信支部代表者会	1名
	強度行動障がい支援者養成研修(基礎研修)	2名
	長野県知的障がい福祉研究大会 講演会 「義務化でどう変わる?虐待防止・身体拘束」	2名
	長野県知的障がい福祉研究大会 第1分科会 「困難事例と向き合う自閉症支援の実態」	1名
	長野県知的障がい福祉研究大会 第4分科会 当事者部会	2名
	行動障がい支援 Start up セミナー	2名

千曲・坂城自立支援協議会関係	事業所連絡部会	2名
その他	食品衛生責任者実務講習会	1名

主催・実施主体	内容	出席者
スタジオ・レスト 内部研修	障がいのある人の視覚支援について学ぶ 稲荷山養護学校 大澤教諭	4名
	虐待防止研修	13名
	障がい福祉サービス事業について 障がい者支援・記録の取り方等	9名
	災害時に備えての対策学習と実践 土嚢作り	14名
	クリーニング工場の安全衛生について 5S 整理・整頓・清掃等について・実践	9名

## 17 職員体制について

管理者 1名（工場長兼務） サービス管理責任者 1名  
 職業指導員 1名 生活支援員 1名 賃金向上達成指導員 1名  
 事務員 医師（嘱託） 看護師（非常勤）

## 就労移行支援

### 1 利用者の内訳

出身市町別 千曲市 1名  
 性別 女性 1名  
 平均年齢 20歳(20歳/ 20代...1名)  
 障がい種別 知的障がい 療育手帳 B1...1名

### 2 作業訓練内容

事業運営日数 270日（基本的には木・日の週休2日制 他開所日は希望通所）  
 日 課 8:40～17:10 昼休み 50分 15時休み 20分  
 （基本的には本人希望と体調・体力等状況を見ながら、ご本人にとって無理のない状況で行っている。）

作業訓練内容 タオルのたたみ作業 タオル・ガウンの袋詰め作業  
 就職に向けて職場実習・求職活動を行う

状 況

・工場内で就職に向けて作業をした。作業はゆっくりで集中力に欠ける部分がある。体力・精神力を高めはきたが一般就労を目指すというところに気持ちも追いついてこないのが現状である。

### 3 利用者の通所方法

(1) スタジオ CoCo の送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 1 名  
マイクロバスを利用している。

・事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている。

### 4 通所状況

通所率

R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9
95.5%	86.4%	56.8%	100%	90.9%	86.4%

R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	平均
56.8%	100%	95.5%	81.8%	90.9	90.9%	86.0%

\* 体調不良等の休みはほとんどない。祝日や夏季等に、開所日ではあっても家事や私用での休み希望があるため平均の通所率は9割に満たない状況となった。

### 5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R3.4	17,425円	R3.10	18,445円
R3.5	15,725円	R3.11	18,488円
R3.6	17,850円	R3.12	29,680円
R3.7	30,530円	R4.1	15,300円
R3.8	17,000円	R4.2	16,788円
R3.9	16,150円	R4.3	30,890円
月額平均 20,356円			

### 6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労移行支援計画」を立てる。また3ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

### 7 健康管理

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

### 8 安全衛生管理

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

### 9 委託給食

希望者には給食を提供（1食 260円）

常時利用者 1名

昼食数 令和3年4月～令和4年4月 268日

合計 252食

他 就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

### 10 QOL活動・スタレクの実施状況

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

## 11 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

## 12 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

令和 3 年度は養護学校からの就労アセスメントの要望が複数件あり応じた。地域の就労移行支援事業所が減となっている状況もあり要望は今後も増える見込みである。

## 13 職員研修について

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

## 14 職員体制について

管理者 1 名（工場長兼務） サービス管理責任者 1 名

職業指導員 1 名 生活支援員 1 名 就労支援員 1 名

事務員 医師（嘱託）看護師（非常勤）

支援員は一緒に作業を進め、一人ひとりにあった作業の見極めを行うことや、面談等利用者に寄り添う支援を行った。

## 就労継続支援 B 型

### 1 利用者の内訳

出身市町別 長野市 1 名 千曲市 6 名 上田市 1 名 坂城町 1 名

性別 男性 4 名 女性 5 名

平均年齢 39.5 歳（21～57 歳/20 代...3 名 30 代...0 名 40 代...4 名 50 代...2 名）

障がい種別 知的障がい 療育手帳 B1...5 名 B2...2 名

精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 2 級...2 名

### 2 通所方法

（1）スタジオ CoCo の送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 6 名

（うち 2 名は路線バスと併用）マイクロバスを利用している。

（2）自転車 1 名

（3）徒歩 2 名（うち 1 名は CoCo ホーム三本木より通所）

事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている。

### 3 作業訓練内容

事業運営日数 270 日（基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所）

日 課 8:40～17:10 昼休み 50 分 15 時休み 20 分

（精神面・体力面で継続しての作業が困難な方、既往症のある方等、体調管理や個別対応が必要な方が多い。相談をできるだけ本人の体力等に沿った日課を決めてご自分のペースで作業を行っている）

作業訓練内容 タオルたたみ ガウンたたみ作業 袋詰め作業 洗い場補助 他

状況

- ・令和3年度は5月以降、年度末まで定員に満たない9名のままの状態となった。
- ・ご自宅の引越しに伴い通所方法を送迎バスから路線バスにかえ、就労時間を短時間にする  
ことで継続ができて利用している利用者もいる。路線バス乗降等は支援員と練習をして習得し現  
在も突発的なことがなければ自力で通所ができています。
- ・作業能力には差がある。タオルたたみを中心に得意なこと、不得意なことを見極めながら  
個別に応じた作業内容で行っている。数名は習熟度が上がり周囲にも気を配ることができ  
るようになった。また、個人の仕事の進め方もよくなりチームでもスムーズに作業を行う  
ことができています。反面、集中が持続せずよそ見をしたり、仕事に関わりのない話を頻繁  
にする方もいる。注意指導を繰り返し行っている。
- ・個々の体調に合わせて、ご家族やご本人と話し合いながら、全体の休憩時間のほかにも休憩  
を設定する等して日課を作り作業を進めている。
- ・生活介護と就労移行支援の仲間と一緒に1回に1回のスタレクを楽しみにして作業の  
モチベーションにしている利用者もいる。今年は屋外でのレクリエーションや体を動かす  
内容のものも多く取り入れ参加する人数も増えた。

#### 4 通所状況

##### 通所率

R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9
90.5%	84.1%	92.9%	87.0%	75.6%	80.7%

R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	平均
91.9%	94.4%	89.4%	85.4%	73.9%	74.2%	85.0%

- ・精神障がいのある方で以前は不調の訴えが多かったが3年目で全日数通所できる月が  
あり、本人の自信につながっている。
- ・個々の体力・精神面等から通所状況は大きく異なる。週に4日のみの通所の方もいる。  
自由通所日に一部積極的に通所をされる方もいるが欠席する方がほとんどである。し  
たがって自由通所日となる祝日が多い月は通所率が低くなる。
- ・令和4年1月に足の骨折のため手術・入院、退院後リハビリと自宅療養となった利用  
者が1名。2月にうっ血性心不全で入院治療をした利用者が1名いたため通所率は下  
がっている。
- ・本人・家族の県外への外出等がありコロナウイルス感染防止のため2週間程度自宅待  
機をされた方もいる。

#### 5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R3.4	18,545円	R3.10	19,757円
R3.5	18,722円	R3.11	20,484円
R3.6	20,333円	R3.12	35,391円
R3.7	34,809円	R4.1	18,750円



R3.8	19,519円	R4.2	15,186円
R3.9	18,166円	R4.3	27,236円
		月額平均	22,208円

## 6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労継続支援B型計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

## 7 健康管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

## 8 安全衛生管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

## 9 給食の提供

希望者には給食を提供（1食260円）

常時利用者 7名

昼食数 令和3年4月～令和4年3月 268日

合計1,484食

他 就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

## 10 QOL活動・スタレクの実施状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

## 11 CoCo家族会ちくま

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

## 12 地域への開放状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

## 13 職員研修について

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

## 14 職員体制について

管理者 1名（工場長兼務） サービス管理責任者 1名 職業指導員 1名

生活支援員 1名 目標工賃達成指導員 1名 事務員 医師（嘱託）

看護師（非常勤）

## 生活介護事業

（主たる事業所スタジオ CoCo 従たる事業所 CoCo レスト）

## 1 利用者の内訳

出身市町別 千曲市 8名 坂城町 1名

性別 男性 5名 女性 4名

平均年齢 27.8歳（19～45歳 / 10代 2名 20代 4名 30代...2名 40代 1名）

障がい種別 知的障がい 療育手帳 A1...5名 B1...3名

身体障がい 身体障がい者手帳 2級...1名(知的障がいと重複)  
 精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 1級

## 2 通所方法

家族の送迎 7名

公共交通機関 バス 2名(グループホームからの通所 1名)

## 3 日課

スタジオ CoCo/CoCo レスト 9:00~15:00

通所・朝会・ラジオ体操・気分調べ・生産活動(タオルたたみ・ウエス作り・カフェ清掃)

QOL 活動(ウォーキング・創作活動等)

## 4 通所状況

スタジオ CoCo 通所率

R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9
97.4%	93.9%	96.3%	99.2%	82.8%	93.9%

R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	平均
96.6%	95.8%	95.5%	94.4%	91.9%	86.2%	93.7%

- ・週に5日通所する利用者が4名、週に4日通所する利用者1名(令和4年3月入所)となっている。体調不良が原因での欠席の方はほとんどなく皆元気に安定して通所をしている。
- ・祝日など自由通所日として開所をした際も半数のかたは通所をされる。

CoCo レスト通所率

R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9
81.8%	79.8%	86.4%	75.2%	64.0%	69.1%

R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3	平均
81.0%	70.9%	61.0%	76.3%	78.8%	80.4%	75.4%

- ・週5日すべての日数を通所される方は1名だが、体調不良や感染予防のため自宅待機等での休みも多くみられた。
- ・精神的に不調を訴える方には寄り添い気持ちをうかがうことで通所の継続をはかった。必要に応じて通院に同行をすることもあった。
- ・開所間もないこともあり年度途中での入所、退所がある。おひとりおひとりの体調、持病生活状況等に配慮しながら通所、活動をすすめている。

## 5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
R3.4	7,554円	R3.10	10,261円
R3.5	10,400円	R3.11	9,700円
R3.6	11,131円	R3.12	13,511円
R3.7	14,594円	R4.1	9,242円

R3.8	7,767円	R4.2	10,100円
R3.9	9,561円	R4.3	15,426円
		月額平均	10,808円

## 6 個別支援計画

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「生活介護計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

## 7 生産活動

スタジオ CoCo

クリーニング作業

- ・タオル・ダスターのたたみ作業
- ・ガウン類・作務衣ズボン・ホテル館内着（ジャージ）のたたみ作業
- ・ウエス作り
- ・商品の納品回収・配達業務補助

その他

- ・食堂清掃（全体の清掃時間のほかに行う）
- ・昼食前のテーブル拭き、床の消毒
- ・事業所内のドアノブ等の消毒

活動状況

- ・生活介護事業利用者の作業は作業室と通称きらきら棟で行っている。  
作業室ではタオル・ダスターたたみとガウンのたたみ作業を主としている。丁寧できれいな製品作りをすることができる。また、仕上がり枚数も以前より多くできるようになっている
- ・障がい特性や個性に応じタイマーや枚数を表示するカード、ボード、写真や支援カード等を活用している。  
声掛けだけでは難しい場合には、やることを紙に書いたものを見える場所に貼ったりするなどして支援をしている。また、パーテーション等を使用しての構造化や、作業の効率化を図るため、集中できるように環境を整備している。
- ・コロナウイルスの感染対策としてマスクの着用や手洗い・消毒の徹底を図るが、単独では難しい方もいる。マンツーマンによる支援にて都度消毒等をしている。「1ケア1手洗い」を意識するが日常の支援の中で曖昧になりやすい。密着する場面もあるため緊張感を持ち徹底していく必要があると考える。
- ・ウエスの販売については継続して受注のある企業に販売を行なった。

ウエス売上 1kg 360円

令和3年度売上 合計80kg 28,800円（昨年比+20kg 7,200円増）

CoCo レスト

カフェ運営補助

- ・開店準備として店内の清掃、消毒

- ・環境整備として、周囲のごみ拾い、プランターの花の手入れ、水くれ、花壇の草取り
- ・掃除用にウエス作り
- ・カフェで使用する野菜（トマト、ピーマン）の栽培、収穫
- ・開店1周年キャンペーンの記念品手作り（キャンドル、コサージュ）

#### <活動内容>

- ・カフェ営業日：毎週木・金曜日。

開店準備は掃除マニュアルを作成し導入したことにより、作業能率や時間短縮に繋がった。また、経験を重ねることで掃除スキルが向上してきている。

- ・令和4年3月、カフェ開店1周年のキャンペーンを開催。

創作活動の時間に記念品を作成。利用者が手作りした記念品が好評で喜ばれた。今後、利用者が作れるもので自主製品としてのカフェで販売していくことを検討していきたい。

## 8 その他の活動状況

### スタジオ CoCo

- ・スタジオではタオルたたみやウエス作りの通常の作業に加え、包丁やピーラーを使って野菜の皮を剥いて干したり、農作業（草取り、畑整備、石拾い、種まき、水やり、ゴーヤの収穫など）、干し柿づくり、ドライフルーツ、ドライ野菜作り、行事に使用する飾り作りや袋詰め、ウォーキング、室内体操、ダンス、ビデオ鑑賞、カードゲーム等を行った。また ZOOM によるオンラインでの福祉大会にもレストと共に参加し、地域で行われたどんど焼きにも、感染対策をして参加した。コロナウイルスにより、感染対策等で実行が難しいものもあるが、今後は日常では体験できないような、楽しさと学びのあるレクリエーションを考えていきたい。

### CoCo レスト

- ・レストは、作業以外に個々に生活の中でできることや、身につけることを大切に少しでも自立した生活が送れるように意識して取り組んでいる。  
レストでは個々に自分でできることの役割が1つある。その他に、昼食時は自分自身の配膳、食器洗い、片付けなどを行ってもらっている。毎日継続して行うことで習慣づき、できないことができるようになっていく。レストでは、社会性、自主性を養うお手伝いをしている。
- ・一人ひとりに合わせたウォーキング、ゲーム、脳トレ、手工芸など支援を行い、個々に達成感や満足度が味わえ、心地よい1日を過ごせることを目指し取り組んでいる。
- ・新型コロナウイルス感染症予防の視点から、感染予防対策しながら季節行事やレクリエーション、スポーツなど色々な活動を行う。

#### <主な内容>

毎月レス♡レク（レクリエーション及びゲーム、YouTube 鑑賞、散歩など）

スタジオ CoCo とのレクリエーション交流

墨遊び教室を開催

千曲・坂城地域自立支援協議会 さんさんネット合同作品展に習字を出品

サンスポーツながの開催の「web で運動教室」に参加

カフェ利用体験など。

## 9 健康管理

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

## 10 安全衛生管理

防災訓練

スタジオ CoCo

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

CoCo レスト

令和 3 年度は消火訓練と通報、避難訓練の計 2 回実施

令和 3 年 10 月 18 日 ( 月 ) 消火訓練

- ・新型コロナウイルス感染症感染予防の為、消防職員の立ち合いなく実施。
- ・カフェのトースターから出火したことを想定して行う。
- ・訓練前に動画で消火器の使い方を学習した後、訓練用消火器等一式を用いて、職員、利用者一人ずつ、消火器で的に当てる訓練を行った。

令和 4 年 3 月 1 5 日 ( 火 ) 通報連絡及び避難誘導訓練

- ・新型コロナウイルス感染症感染予防の為、消防職員の立ち合いなく実施。
- ・拡声機によるサイレンを鳴らすため、事前に近隣に訓練のお知らせを配布し協力をお願いする。
- ・職員の事前学習及び役割分担等の確認。
- ・通報連絡訓練：通報の内容を確認する。
- ・避難誘導訓練：避難経路の確認や避難時に障害となる物品がないか確認。

また、動かなくなった利用者がでたことを想定し、職員間で避難方法を確認した。

他就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

## 11 委託給食

希望者には給食を提供 ( 1 食 260 円 )

常時利用者 9 名

昼食数 令和 3 年 4 月 ~ 令和 4 年 3 月 252 日

合計 1,739 食

他 就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

## 12 Q O L 活動・スタ レクの実施状況

就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

## 13 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

## 14 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

## 15 職員研修について

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

## 16 職員体制について

管理者 1 名（工場長兼務） サービス管理責任者 1 名 生活支援員 6 名  
 医師（嘱託） 看護師 3 名（2 名常勤・1 名非常勤） 事務員

### 心身障害児（者）タイムケア事業

心身障害児（者）が家庭において介護を受けることができず、一時的に介護を必要とする場合、  
 依頼に応じて介護を行う。

利用者の心身機能、生活、人生を尊重した上で、利用者と家族の意向に基づき、そのおかれている  
 環境に十分に配慮しながら、安心して自立した地域生活が営むことが出来るように支援している。

<登録者数>

33 名 （うち実際タイムケアを利用した利用者は 16 名）

<利用実績>

	利用者数（人）/ 月	延利用者数 （人）	総利用者時間数（時間）
令和 3 年 4 月	9	44	98.5
5 月	11	32	59
6 月	6	30	44.5
7 月	4	24	37
8 月	4	21	24.5
9 月	3	22	26
10 月	6	21	30.5
11 月	6	29	39.5
12 月	3	30	37
令和 4 年 1 月	4	41	54.5
2 月	5	50	68
3 月	7	59	90.5
合 計	68	403	609.5

## 障害者等日中一時支援サービス事業

地域で生活する障がい者の自立した日常生活、社会生活をこの地域において営むことを目指し社会生活を実現するための相談や支援を行う。そして、その方の居場所として、自由な憩いの場として、創作活動及び余暇活動支援等の実施を通じ、社会との交流の機会を促し、利用者の要望に添った活動、自主性が確保されるサービスを提供する。また、利用者個人の尊厳の保持に努めこの地域における地域福祉の増進を図っていく。

<登録者数>

17名

<利用実績>

	利用者数(人)	延利用者数(人)	総利用者時間数(時間)
令和3年4月	7	25	62.5
5月	11	30	84
6月	12	49	137
7月	10	36	100
8月	6	23	67
9月	7	33	84
10月	9	35	82.5
11月	9	38	101
12月	10	37	93
令和4年1月	10	39	113.5
2月	12	62	161.5
3月	12	57	144
合計	115	464	1,230

実施状況

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の広がりにより、活動の自粛、三密対策などで、障がい者にとって、生活リズムを崩し、家から外出する場所がなく人とのつながりの機会が減るなど、

障がい者の暮らしに大きく影響を及ぼした。

そこで、カフェ(Café CoCo Rest)やCoCoレストのフリースペースは地域の拠り所、居場所と位置づけられた。他機関や支援関係者からの紹介もあり、今年度は登録者が増加した。

その反面、独居の方はタイムケア、日中一時支援の利用条件の該当外となり、利用できない当事者は、カフェのお客様としてカフェ利用してもらい、柔軟に対応している。(7件)

また、当事者や家族が直接、もしくはカフェに来店した際、相談を受けるケースがあった。相談内容によって関係機関に支援をつなぐ役割を果たす。(5件)

- ・カフェやフリースペースでご自身のペースで、自由にゆっくりと過ごせる空間を提供している。また、利用者の気持ちに寄り添い、何を求めているのか理解し個人のニーズに合わせて様々な活動を提供するとともに、健康相談、就労支援、家族支援など柔軟な対応をしている。思いやりの態度で接し、障がいのある方のひとりの人間として尊重し、利用者との信頼関係を構築することを大切にしている。
- ・交流の場の機会と趣味の拡大を目的に、障がいに理解があるボランティア講師を募り、男の会(雑談、卓球、ゲームなど)ビーズ教室、トールペイント教室、クラフト教室を開催。参加者は少人数であるが、教室を楽しみにしている利用者がある。コロナの感染状況も関係するが、利用者が地域と関わる機会を増やし、社会との接点を持てるように地域ボランティアや福祉を学んでいると学生ボランティアと交流していくことを検討していきたい。



## アートカフェ CoCo

障がいのある人たちの表現活動を行う場として、5年を終えることができました。当法人がこれまで実践してきた障がいのある人が地域の中で望むスタイルで自分らしく生活をおくことを支えてきた活動を、新たに須坂市(須高地域)において行っております。障がいのある人の多様な生き方に貢献するために、求められている必要となる資源を整えて、質の高いサービスを提供することで障がいのある人及び家族の望みをかなえることができるように更に一層と応えていくための所存を冷ますことなく持ち続けています。

アートカフェ CoCoに通ってくる障がいのある利用者たちは、自分の考えや想いを上手く言葉にして表すことが苦手だったり、言葉を扱うことが全くできなかつたりとする方が多いです。最近では、自閉症スペクトラムによる独特の特性をもつ人たちの利用が増え始めています。いわゆる行動障害という自傷・他傷・他害等の行為があり、生きづらさを抱えている人たちもいます。こちら側の支援者側もその生きづらさに向き合い、適切な支援の提供により、解消及び改善を目指しています。自らの存在や価値を肯定して、自分を労り、自らの望む生活をおくってほしいと心より願って、日々の関わりを行っております。彼ら彼女たちの意思や想いは社会の中では見逃されやすいですが、私たちは日々彼ら彼女たちに真摯に向き合って、声なき声や思いを丁寧に探り、感じ取ることに努めています。

利用者たちは、自らが好きである表現活動を通して日自分らしく表現しています。個性的な色気をたっぷりと感じられる素敵な作品もたくさん生まれています。

令和3年度においては、2階を改修して、ギャラリーをオープンさせました。こちらは、利用者たちが日々取り組む表現活動で制作した作品を社会とつなげる拠点といたします。NLSグループコーポレーションに協力をいただいて、作品のレンタル及び販売事業を始めました。NLSグループコーポレーションのお力添えいただいたおかげで、レンタル及び購入していただける顧客も現れまして、まずまずのスタートを切れているかと思えます。そして、作品展として、前年度に引き続き、作品展「感覚をノックする展」を3回開催しました。1回目は、2階のギャラリーにて3週間程度。2回目は、前年度と同様に武井工芸店様にて1週間程度。3回目は、須坂蔵のまち観光交流センターにて1ヶ月程度。1回目は、ギャラリーオープンを祈念して、2回目は、定番で恒例となりつつあり、そうしていきいたいと考えておりますが、善光寺近くの民芸屋さんで、秋の観光客が多く訪れる時季に。3回目は、須坂市より声をかけていただいて、須坂市が実施した「相田みつを展」と同時開催で。条件等によって、来場者数の多い少ないはありましたが、それぞれにおいて、とりあえず完遂することはでき、来場した方々にとっても楽しんでいただけた機会になったと思えますし、書や絵画の作品も気に入って下さる方も多く、実際に購入してくださった方もいらっしゃいました。ただし、今後も継続を目指していく中で、課題もありましたので、対処していきたいと思えます。そして更には、カレンダー・クリアファイル・缶バッジ・はがきなど、利用者の作品をデザインとして使用して製作を行い、この作品展にて販売を行

いました。販売方法等などの課題が残り、今後この課題の解決にあたっていきたいです。以上のような取り組みを通して、利用者の方たちに工賃を提供することができました。

また、このような機会は利用者にとって自信や意欲を一層と持てることにつながりましたし、スタッフにとっても、より多くの人たちに当事業所の運営や活動をより広く知ってもらい、より理解を深めてもらえることになったので、自らの普段の取り組みを振り返るよい機会になったと思います。利用者及びスタッフ共に、今後の運営や活動に、更なる望みをより一層と抱けることができましたので、素晴らしい場であり取り組みであったと思います。今後もこのような取り組みを続けたいです。

カフェの運営は、スタッフ体制の確保やカフェのスペースが利用者の活動等の場として利用しており、休止しております。

また、障がいのある人たちの表現活動を行う場と併設する形で同時にフリースペース事業を行っており、不登校や引きこもりの状態にいる人たちの居場所づくりを行っています。自らのことを肯定できなかつたり自信を持てなかつたりする人たちが当事業所にて行っている活動（表現活動や社会体験活動等）に個々で自らに合った形で参加して取り組むことで、安心して活動できる居場所として過ごすことができる、社会や地域の中で自分らしく活躍していくことを成し遂げることができる、そのようなフリースペースの運営を目指しています。

今後の展開を目指して、隣接地の購入を行いました。

令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の対策等に追われた1年間でありました。感染症対策は、事業所運営を行ううえでは、重要課題であり、マニュアルに沿って対応して、まずは予防することに徹底的に努めてきまして、状況に応じて休業することもありましたが、1年間を通して安定的に開所して運営を行えたと思います。心身共に負担を多く感じる1年間ではありましたが、利用者の居場所を確実に安全に確保し続けました。利用者によっては、事業所を一か所に絞ったり、通所を控えたりとした方もありましたが、安定的に事業所を開所し続けて、そして活動を提供し続けてきたことは、ひとえに全スタッフの尽力によるものだと思います。

今後の事業所運営において、まだまだ向き合わなければならない課題が多くありますが、誠実に謙虚に対応していきたいと思います。

## 生活介護事業

(利用者の推移)

定員 20 名	令和3年度末在籍者数 18 名	(令和2年度末 在籍者数 18 名)
令和3年4月	1名入所 (特別支援学校高等部卒業者1名)	・・・ 在籍者数 18名
令和3年5月	1名入所(タイムケア事業利用者)	・・・ 在籍者数 19名
令和3年6月	1名退所(他事業所へ)	・・・ 在籍者数 18名
令和3年7月	2名退所(他事業所へ)	・・・ 在籍者数 16名
令和4年1月	1名入所(他事業所より/併用)	・・・ 在籍者数 17名
令和4年2月	1名入所(他事業所より)	・・・ 在籍者数 18名

1 利用者の内訳

- (6) 利用者総数 22名
- (7) 出身(支給決定)市町村別 長野市 11名 須坂市9名 小布施町1名 千曲市1名
- (8) 性別 男 13名 女 6名(総数)
- (9) 年齢 31歳(令和3年度末)
- (10) 障がい種別 知的障がい者 22名  
 身体障がい者 2名  
 発達障がい者 8名 重複者数名あり
- (6) 障害支援程度区分 <3>2名 <4>7名 <5>9名 <6>4名

2 通所方法

- (6) 徒歩または自転車 0名
- (7) バイクまたは車(本人運転による) 0名
- (8) 公共交通機関利用 3名
- (9) 事業所送迎 13名
- (10) 家族または他事業所等による送迎 10名  
 (ア) 重複者あり

3 日課について

9:30 ~ 10:00まで	着替え 朝会 ラジオ体操等
10:00 ~ 12:00まで	午前の活動
12:00 ~ 13:00まで	昼食 休憩
13:00 ~ 15:00まで	午後の活動
15:00 ~ 15:30まで	掃除 おやつ 着替え 帰りの会等

- ・利用者の事情または活動内容等によっては、このとおりの日課ではない。
- ・8時30分~9時30分及び15時30分~17時の間もタイムケア事業で利用して方もいる。
- ・土または日曜日は活動内容によって様々に設定した。

4 通所状況

通所実態(通所率)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
54%	47%	52%	49%	48%	52%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
45%	53%	53%	47%	54%	50%	50%

上記の通所率の数字は、週に5~6日を開所としているところで、個人個人の事情により週に1~4日で通所している方も半数程度おり、その状況を条件にした通所率の数字で

ある。

## 5 個別支援計画

本人や家族との面談や、関わりのある関係者等を含めた会議を開くなどして、本人のそれまでの歩みや、好きなことや得意なこと、苦手なこと、行動面や日常生活上の行為等で配慮すること等々に関して、情報収集や確認を行い、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成した。

何よりもまずは、本人中心というスタンスを重視して、願いやニーズ等を把握するように努めた。言葉にして相手に自分の意見や考えを伝えることが難しい利用者が多いので、日常の行動等を観察して分析したり、家族等の周りの関係者等からのアドバイス等をもらったりして、本人の意思や思いを探り、個別支援計画に反映した。当事業所外での、生活の場面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとって情報を共有して、そのうえで当事業所として担うべき課題に関しては、個別支援計画の目標として取り入れ対応にあたった。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行った。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的また必要に応じて面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたい。

## 6 活動について

### 【表現活動(絵画、造形、書道等の創作的活動他)等】

#### (1) 表現活動(絵画、造形、書道等の創作的活動他)

日々の日課の中で、活動内容に関しては、基本的に利用者個々が気に入っている活動に個別に取り組んだ。絵を描いたり、書道を行ったり、ウォーキングをしたり、音楽を聴いたり歌ったり、ペーパーで工作をしたり、話をしたり等々。毎週月・木曜日にはプロの講師の方である関孝之氏および佐々木良太氏に来ていただいてアートワークショップを行った。プロの講師の方によるワークショップはより深みのある活動を行うことができ、より興味を持ち楽しんで活動に参加することができた。

#### (2) 作品展の開催及びグッズの製作販売

冒頭で述べたとおり、利用者の人たちが製作している作品の展示会の開催を、そして作品を使用してグッズの製作販売を行った。令和3年度においては、アートギャラリーをオープンしたことを祈念して、3回の作品展を実施した。

#### (3) その他

県内外で開催されたアート展に参加して、美術館等での作品の展示や作者紹介の機会をいただくこともできた。令和3年度においては、「ザワメキアート展」の過去の入賞者たちの作品展が開催されて、そこに参加したり、「日本財団 DIVERSITY IN ARTS 公募展」に応募して、賞を受賞したりとした方もいた。

## 7 QOL 活動について

QOL 活動については日々の活動の中で取り入れ、実施した。季節ごとの行事を企画して行い楽しんだ。新型コロナウイルスの感染症への対策もあり、例年通りの内容を実施することはできなかった。

## 8 保健衛生について

### (1) 健康相談について

・日時 : 毎月 第四金曜日午後 13:30 ~ 15:30

- ・実施者 : 斎藤恵子看護師
- ・実施内容 : 体重測定、血圧測定、検温、健康相談
- ・相談者数 : 毎回 8 名程度

#### 血圧測定

- ・エラーが出てしまう利用者さんが毎回数名出る
- ・血圧が高めの方が 2 名いる。いずれも定期通院し、かかりつけ医に相談しながら生活している。他にも突発的に高い血圧の出る利用者さんがいるが、前後の出来事を踏まえつつ家庭と連絡を取って様子を見ている。

#### 相談内容

- ・生活の中で困っていること、心配なこと
- ・体重や血圧数値について

#### その他

- ・相談中に別の利用者さんが入ってしまい、なかなか出られないことがあった。

### (2) 健康診断について

- ・日時及び実施者 : 7月1日(木) 利用者4名、スタッフ2名  
: 7月15日(木) 利用者2名、スタッフ2名

#### 実施にあたっての配慮

- ・聴覚過敏や場所見知りなど、個別対応が必要な利用者さんのため、事前に情報を伝え、当日はスタンプラリー形式で個別対応をしながら各検査を受けた。
- ・絵カード、写真等を使いながら、どこでどんな順番で検査を受ける等の事前説明を丁寧に行った。
- ・当日、健康診断は受けずにアートカフェ CoCo に残る利用者さんもいたため、スタッフや利用者さんの動きがわかるタイムスケジュールを用意した。
- ・両日とも同じ木曜日だったため、木曜日しか利用しない利用者さんには当日の活動や昼食の時間変更にご協力をいただいた。

#### 結果について

- ・視力検査を事前に練習していったメンバーさんもいたが、当日の検査内容が難しかったため判定不能になってしまうメンバーさんが多かった。一度に全ての画面が見えてしまうものより、一文字ずつ測定できるものだとよいか。
- ・BMI が 25 を超えている利用者さんが 5 人いるため、ご家族と情報共有をしながら様子を見ている
- ・高血圧の利用者さんが 3 人いる。2 人は診察前に興奮していたためか、普段よりも高い数値が出ていた。1 人は通院先やご家庭と情報共有しつつ、生活している。
- ・血糖値高めの利用者さんが 1 人いる。通院先やご家庭と情報共有しながら生活している。
- ・要精検となった 2 人は、9月6日にアトリエ CoCo で行われた立岩先生の診察を受けた。

#### その他

- ・ご家庭からの要望(項目、実施場所)

### (3) インフルエンザワクチン

11月2日：利用者4名、スタッフ4名

11月9日：利用者0名、スタッフ3名

- ・法人で実施した予防接種の機会以外においても、ほとんどの利用者が実施している。スタッフはかかりつけ医等含め全員が予防接種を実施した。

#### (4)新型コロナウイルス対策

- ・手洗いうがい、マスク着用、距離の確保のお願い
- ・体調チェック
- ・館内、床、車両の消毒
- ・加湿器の設置
- ・対面にならない食事の席の配置
- ・アクリル板の設置

#### (5)救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えている。自傷行為があったり、肌が荒れやすい体質等のため、手指等に傷がしやすい利用者が数名いて、絆創膏が使われることが多かった。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もあった。

#### (6)服薬支援について

服薬支援を行っている利用者は4名である。管理を行っており、行為は自身でできる。

#### (7)個別の健康情報について

自身の体調不良等の訴えを行えない利用者が多いので、日常的に利用者の様子をしっかりと観察することで体調を把握している。また休むときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認等を行っている。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも利用者個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっている。

#### (8)清掃、整理整頓等について

清掃については、利用者によってそれぞれができる箇所を行っている。清掃を行っていない利用者もいる。従って、利用者が来所する前の朝に、週一回職員が一斉に清掃を行う日を設けている。整理整頓にも心掛け、5Sが保たれた事業所を維持できるように努めている。

### 9 給食について

- ・給食を楽しみに通所する利用者が多い。楽しい時間でもあった。
- ・キッチン CoCo より弁当を提供してもらっており、栄養士に作成したメニューで提供されており、適切であったと思われる。
- ・日頃よりキッチン CoCo とは給食に関する情報交換及び共有を行い、課題検討を行った。また、嗜好調査も行い好き嫌いやアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をした。アレルギーによる配慮は行い、弁当の変更をお願いすることもあった。また11月より、米・小麦・豆類を含むかなりの食材でアレルギーが検出された所員がいて、この所員に対しては家族と連携・相談をして弁当から該当食材を排除したり、家から持参した弁当を配膳したり等の対応を行った。

- ・体重等など考慮して、職員が調節してごはんを盛ったり、また、調味料もかけすぎないようにと職員が行うなどして、健康面での配慮を行った。

## 10 旅行について

令和3年度は実施しなかった。

## 11 防災訓練について

### (1) 防災訓練

#### 第1回目

- ・実施日：令和3年 9月15日(水) 13時15分～13時45分
- ・参加者：利用者6名 職員8名 計14名
- ・内容：避難訓練。事業所内の食堂キッチンのIHの不具合により、火災が発生したと想定して避難訓練を行った。
- ・課題及び反省点：

前回までの経験を参考に、職員と利用者双方を対象として、「通報・消火・避難訓練実施マニュアル」にのっとり一連の動きを確認した。今回は建物内部北側に位置する食堂キッチンのIHの不具合による出火という事態を想定して、発見、通報、初期消火、避難（誘導）における、それぞれの対処方法等を順番どおりに1つ1つ確認した。火災感知警報機による感知（サイレンが鳴った）から避難完了までの時間は、6分35秒であった。前回よりも3分程遅くなったが参加者全員の協力により大きな混乱もなく、無事に訓練を終了することができた。

課題点として、火災発見後の事務所への連絡が不十分になってしまった。状況を理解できず、その場を動こうとしなかった利用者が2名おり、避難に時間が掛かった。

以上の2点が挙げられるが、実際の避難時でも考えられることなので、今後対応を検討し次回訓練に反映させたい。

今回の経験をもとにそれぞれの状況に合わせた相応な判断と行動及び誘導ができることを目指して、状況に合わせた訓練を次回以降も続けていきたい。

#### 第2回目

- ・実施日：令和4年 3月9日(水) 13時15分～13時45分
- ・参加者：利用者7名 職員8名 計15名
- ・内容：避難訓練。事業所内の食堂キッチン内のIHの不具合により、火災が発生したと想定して避難訓練を行った。
- ・課題及び反省点：

まず事前に、参加するスタッフ全員で、「通報・消火・避難訓練実施マニュアル」を見て、一連の動きを確認してから訓練に臨んだ。今回の訓練では、建物内部北側に位置する食堂キッチンのIHの不具合による出火という事態を想定して実施した。発見、通報、初期消火、避難（誘導）における、それぞれの過程での対処方法等を順番どおりに1つ1つの動き方を確認できた。火災感知警報機による感知（サイレンが鳴った）から避難完了までの時間は、3分6秒であった。前回とは同様の場所よりの出火の想定であるが、参加者全員の協力により大きな混乱もなく、無事に訓練を終了することができた。

避難時間は前回より3分程短縮できた。口頭での説明で理解が難しい利用者さんには、イ

ラストを使用して状況を説明する事で理解が得られ、避難時間の短縮に一定の効果があったと思われる。実際の避難時でも考えられる事でもあるので、今後も職員会議等で対応を検討したい。

以上、今回の経験をもとにそれぞれの状況に合わせた相応な判断と行動及び誘導ができることを目指して、状況に合わせた訓練を次回以降も続けていきたい。

#### (2) 消防設備点検

総合点検として年に2回(令和3年5月及び11月)に業者に委託して実施した。

#### (3) その他

- ・自衛消防団の編成及び調整。職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置。

#### 12 地域との協働について

- ・見学や研修を受け入れた。  
(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、他事業所利用者等)
- ・ボランティアの受け入れを行った。
- ・地域の諸団体等との連携を行い、様々な地域ネットワーク等に積極的に参加した(須高地域自立支援協議会等)

#### 13 職員研修について

- ・個別支援に関するサービス担当者会議等の支援会議、利用者支援に関する知識及び技術の獲得及び向上等の研修、職員会議、表現活動等に関する研修等を定期的実施して、支援や活動等に関する知識及び技術の向上や研鑽等に努めた。
- ・虐待防止研修、強度行動障害研修等の外部の機関が行う研修に積極的に参加し、知識や技術の向上に努めた。

#### 14 職員体制について

所長兼サービス管理責任者	1名
看護師	1名
生活支援員	6名
ギャラリースタッフ及び 生活支援員	1名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

### フリースペース事業

#### [事業及び活動等の内容・課題・評価等について]

普段より、障害福祉サービス事業生活事業を運営しており、障害のある人のエンパワーメントを最大限引き出し活かした活動(表現活動(アート活動等))を行っております。その自由であたたかな空間として、不登校やひきこもりの子どもや大人たちが自分らしく過ごすことのできる癒



しの場合として利用していただくことを目指しております。令和2年度においてはスタッフ体制や予算、活動等の場所の確保等に課題があり、運営を思うようにできませんでした。

個別にゆったりとのんびりと自分の思うように時間を過ごしたり、スタッフや利用する仲間たちとの会話を楽しんだり、相談をしたり、そしてアート関係の表現活動や調理実習等の社会体験活動等の、自らが楽しめて取り組むことのできる活動に参加したりして、居心地のよい安心できる居場所として、そして他者及び地域や社会とつながりを得ることで、自分らしく生きていくことのできるきっかけやパワーの源を得ることのできる場として、今後において運営を目指していきたいと思っております。

## 1 活動内容等について

### (1)アート関係の表現活動について

年間をとおして、毎週月・木曜日に外部講師である関孝之氏及び佐々木良太氏に来ていただいて、生活介護事業の障がいのある利用者を対象としてアートワークショップを行っている。絵を描いたり、書を書いたりして、好きな表現活動を行うことで楽しく時間を過ごし、自らのことを表現していくことの面白さを味わうことのできる場面であるが、フリースペースの利用者も気軽に参加してもらいたいと思っている。

## 令和3年度事業報告

### 第2種障害福祉サービス事業

(共同生活援助事業・居宅介護事業・短期入所(ショートステイ)事業・相談支援事業)

## 地域生活支援センターCoCo ながの・ちくま

今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に努めた1年となった。グループホームにおけるスタッフについては、どんなに地域に新型コロナが広まったとしても、ホームを閉所することはできないという、エッセンシャルワーカーとしての、社会を支えるための責任ある仕事だと実感するとともに、もしホーム利用使用者に陽性者が発生しても、ホーム内で広めない、という思いで日々の対策を進めてきた。

そして、グループホームに限らず、ショートステイ、行動援護、居宅介護と地域生活支援センターCoCoの担っている福祉サービスは、地域で生活していくには欠かすことのできないサービスだと実感することができた。

長い間続いている自粛生活ではあるが、生活様式を変えながら、今できることを実践し、地域での暮らしを支え、その方にとっての幸せ、夢の現実に向け、日々支えていきたい。

### 【共同生活援助事業】グループホーム

#### 1. 事業の開始

平成16年	1月15日	CoCoホーム千曲	(女性4名)	
				平成21年4月～(女性5名男性2名)
				平成28年3月～(女性6名男性4名)
平成17年	7月1日	CoCoホーム白塚102	(女性4名)	
		CoCoホーム白塚103	(男性4名)	
平成18年	8月7日	CoCoホーム表参道	(男性6名・女性1名)	
				平成22年6月～(男性7名)
平成20年	12月1日	CoCoホーム蔵町	(男性7名)	
				平成21年11月～(男性9名)
平成22年	6月1日	CoCoホームぼたんの里	(女性4名)	
平成25年	2月10日	CoCoホーム山王	(男性5名)	
平成29年	6月1日	地域生活支援センターCoCoちくま	開所	
				長野・須坂市内のホームを地域生活支援センターCoCoながのの事業とし、 千曲市内のホームを地域生活支援センターCoCoちくまの事業とする
平成29年	6月1日	CoCoホーム三本木	(男性8名)	

入居者定員総数 51名

#### ・令和3年度の入居者数の変動

令和3年	4月	CoCoホーム山王	男性1名入居	(ご自宅より)
令和3年	8月	CoCoホームぼたんの里	女性1名退去	ご自宅へ
令和3年	11月	CoCoホーム表参道	男性1名退去	他法人グループホームへ

令和 3 年 12 月	CoCo ホーム表参道	男性 1 名退去	ご自宅へ
令和 4 年 2 月	CoCo ホーム千曲	女性 1 名退去	他法人のグループホームへ
令和 4 年 3 月	CoCo ホーム三本木	男性 1 名退去	アパート(一人暮らし)へ
令和 4 年 3 月	CoCo ホーム三本木	男性 1 名入居	(他法人のグループホームより)

令和 4 年 3 月時 入居者実数 44 名(男性 33 名・女性 11 名)

## 2. 入居者の状況

### <CoCo ホーム白塚102> 女性 3 名・男性 1 名

- ・出身市町村 (長野市 2 名)(千曲市 1 名)(高山村 1 名)
- ・年齢 41 歳～61 歳
- ・日中の場 キッチン CoCo2 名(就労継続 B 型)/アトリエ CoCo2 名(就労継続 B 型)
- ・ホームの様子

ホーム内での人間関係によるトラブルが日ごろからの課題となっている。世話人、生活支援員が情報共有を密にとると共に、日中事業所との統一された支援を心がけ支援を組み立てている。支援者は日々の発信に適切に対応することを心掛け、入居者の話を丁寧に聞き取り、気持ちよく過ごせるアドバイスを心がけている。また、医療との連携、環境の調整、今できることを実践している。

### <CoCo ホーム白塚103> 男性 4 名

- ・出身市町村 (長野市 1 名)(飯山市 1 名)(小川村 1 名)(筑北村 1 名)
- ・年齢 62 歳～76 歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo3 名(就労継続 B 型)/企業就労 1 名(株式会社ミヤマ)
- ・ホームの様子

高齢期の男性のメンバーが暮らすホーム。加齢による様々な体調の変化に対応して、通院や服薬を含めた健康管理の支援を続けている。4 名とも人間ドックを受診し、必要な治療に結びつけてきている。定期的な通院が増え、付き添っての受診ができるように支援している。現在は 4 名とも元気に日中の就労・活動の場に通うことができている。

居室の整理整頓や衣服の管理が難しくなっており、個別に居室の整理を行なっている。また、ご本人の希望に合わせた外出・買い物や余暇の充実等の支援を広げている。

### <CoCo ホーム表参道> 男性 5 名

- ・出身市町村 (長野市 5 名)
- ・年齢 34 歳～60 歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo 1 名(就労継続 B 型 1 名)  
アートカフェ CoCo 1 名(生活介護 1 名)  
CoCo JAVJAV 1 名(就労継続 B 型 1 名)  
ななせ仲まち園 1 名(就労継続 B 型)  
企業就労 1 名(長野リネン本社工場)
- ・ホームの様子

365 日ホームを利用する方、週末には実家へ帰省をする方、一般就労している方、生活介護に通所している方等々、様々な生活スタイルを持つ方たちが同居している。時にはホーム内でトラブルも起きるが、支援者が間に入り調整している。

健康管理や金銭管理、余暇の過ごし方など、個々の課題に目を向け取り組んでいる。

#### <CoCo ホーム蔵町> 男性 9 名

- ・出身市町村 (須坂市 7 名)(長野市 1 名)(木島平村 1 名)
- ・年齢 46 歳 ~ 61 歳
- ・日中の場 企業就労 9 名(長野リネン須坂工場 8 名・本社工場 1 名)
- ・ホームの様子

60 歳となり働く場でも定年として一区切りついた方がいる。一区切りとして、それぞれの望む形の夢プランを実施する予定であるが、新型コロナウイルス感染症が収まらず、実施することなく過ぎてきている。来年度には実施して行きたい。楽しみを考えると共に、高齢になってきた今後の過ごし方についてご本人の意向を大切にしていって進めていきたい。

また、加齢に伴う体力の低下や、疾病も現れるようになってきた。働き続けるための健康管理とともに、日常生活や余暇の経験の幅を広げる支援を心がけている。ご家族の高齢化や他界による、親から兄弟への代替わりで、身内との関係性に変化があり、ご本人を取り巻くご家族との関係調整の支援を始めていきたい。

#### <CoCo ホームぼたんの里> 女性 2 名

- ・出身市町村 (長野市 2 名)
- ・年齢 28 歳 ~ 32 歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo 2 名(生活介護 2 名)
- ・ホームの様子

自然に恵まれた環境の中で住み込み世話人の支援を受けながら暮らしている。また、ショートステイの利用者さんも受け入れながらの生活環境となっている。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止により、ホーム等お楽しみ企画が実施できずすぎてしまっている。週末は帰省する人・余暇支援を受けて楽しむなど、思い思いの過ごし方をしている。

#### <CoCo ホーム山王> 男性 5 名

- ・出身市町村 (長野市 4 名)
- ・年齢 26 歳 ~ 57 歳
- ・日中の場 企業就労 2 名(株式会社ミヤマ 1 名・轟電化工業 1 名)  
アトリエ CoCo 2 名(生活介護 1 名・就労継続 B 型 1 名)  
CoCo JAVJAV 1 名(就労継続 B 型)
- ・ホームの様子

長野駅前のホームということもあり、企業就労されている 2 名は、自分の時間を有効に活用している。新型コロナウイルスの感染防止により、希望するようには余暇を楽しむことができず、残念な 1 年となっている。ホーム内はそれぞれの個性を尊重し合いながら、また、助け合いながら暮らしている。その中で、若い入居者さんたちも生活の中でできることを増やしながらか生活している。

< CoCo ホーム千曲 > 女性 6 名 男性 2 名

・出身市町村 (長野市 4 名)(坂城町 2 名)(上田市 1 名)(中野市 1 名)

・年齢 22 歳 ~ 55 歳

・日中の場 クリーニング工房 CoCo 5 名

(就労継続 A 型 3 名・就労継続 B 型 2 名)

日中活動先 模索中 1 名

企業就労 2 名 (長野リネンサプライ 1 名・(株)ロビニア 1 名)

・ホームの様子

CoCo ホームの中で 1 番歴史のあるホーム。このホームを地域生活のスタートとして、一人暮らしから結婚まで実現させた先輩がいる。元気に挨拶を交わしたり、体調の悪い仲間に気遣いの言葉をかけたりと人間関係は良好。新型コロナの感染防止のため、全員揃っての食事はできないものの、声を掛け合いホームの雰囲気は良い。仕事に余暇に思い思いの毎日を過ごしている。

< CoCo ホーム三本木 > 男性 8 名

・出身市町村 (長野市 4 名)(千曲市 3 名)(坂城町 1 名)

・年齢 19 歳 ~ 56 歳

・日中の場 クリーニング工房 CoCo 3 名 (就労継続 A 型 3 名)

スタジオ CoCo 3 名 (就労継続 A 型 1 名・就労継続 B 型 1 名・

就労移行 1 名)

チューリップの家 1 名 (就労継続 B 型)

企業就労 1 名 (西友 1 名)

・ホームの様子

平成 29 年度 6 月に新しく開所した CoCo ホーム。地域のニーズに応えるために、ショートステイ付ホームとして 8 名の入居者がホームでの暮らしをスタートしている。

日中はそれぞれの場所で就労され疲れて帰る方が多く、ホームに戻られてからは、心身共にリラックスできる環境を目指したい。

入居されている方の多くが、社会の中でトラブルを抱えやすい障がい特性を持っているため、トラブルを未然に防ぐ、または初期の段階で対応できる環境にしておく必要がある。

### 3. 生活状況 / QOL 等

各ホームとも、地域の中で行事や清掃活動に声をかけていただき、世話人と共に地域の実情に合わせて積極的に参加させて頂いているが、今年度も新型コロナ感染症防止のため、地域の行事が自粛され活動することがなかった。

地域で暮らしながら、思い思いの余暇を過ごして頂きたい気持ちは強いが、新型コロナ感染症の感染防止を一番に考え、グループの行動指針に従った行動制限をお願いしてきた。入居者さんたちにとっては厳しい状況だったと思われる。感染防止については、今後も基本的な感染対策方法をわかりやすくお伝えをしていきたい。

また、自粛を頑張るだけではなく、ホームにいても楽しい、嬉しいを実感することができるよう、テイクアウトの食事を準備するなどの工夫をしてきた。そして、自粛緩和を世の中の流れを見ながら進めていきたい。

#### 4. 職員体制

##### 地域生活支援センターCoCo ながの

管理者 1名(ちくまと兼務) サービス管理責任者 2名 生活支援員 7名  
世話人 16名 白塚102・103:5名 / 表参道:4名(宿直1名)  
蔵町:4名 / ぼたんの里:1名(宿直1名:住み込み)  
山王:4名

##### 地域生活支援センターCoCo ちくま

管理者 1名(ながのと兼務) サービス管理責任者 1名 生活支援員 2名  
世話人 14名 千曲:5名 / 三本木:8名

#### 5. 食事

各ホームとも手作りで栄養バランスのとれた食事の提供をこころがけると共に、世話人の負担を軽減するために、ヨシケイの食材配達業者を適時活用している。季節の行事メニューや誕生日メニュー、外食の企画等、入居者にアンケートをとりながら嗜好を取り入れた献立も作っている。入居者や体験で利用された利用者からは「食事が美味しい」と良い評価を頂いている。今年度は、外出の自粛を呼びかけたこともあり、楽しみを提供するために、テイクアウトの食事を各ホーム実施することができた。

#### 6. 健康管理

日常の健康チェックに加えて、通院・服薬の支援を行ってきた。加齢とともに体調の変化が現れてきている入居者が多く通院の種類や回数が増えてきている。必要な人にはホームで血圧や体重測定を続けている。通院先は、地域の内科をはじめとして、歯科・眼科・耳鼻科・精神科・皮膚科・胃腸科・婦人科・整形外科・総合病院と多岐にわたり、定期通院の付き添いが必要なところを複数持っている入居者もいる。医療機関と連携しながら情報を共有して支援してきた。

ホームの入居者の通院については、通院等介助のサービスを利用できる方は、そのサービスを利用し通院するが、対象とならない通院についてはホーム対応となり、年々ホーム生活支援員の負担が増えてきている。通院に対しての加算等、制度の見直しを呼びかけていくことも必要。

また、40歳以上で人間ドックの受診を希望する方には、申込み手続から当日の付添いまでを支援しており、今年度は2ホーム、6名の入居者が受診した。疾患の早期発見に努めている。

新型コロナウイルスの感染防止にも取り組んできた。マスク・消毒・手洗い等の予防に係る準備品をそろえると共に、発生時のマニュアルを作成し、職員スタッフの意識も高めてきている。また、厚生労働省をはじめ県、市から出される文章を、入居されている方たちにもわかりやすいよう、工夫しながらお伝えしてきている。

帰宅時の手洗い、手の消毒、ホーム内の換気、毎日の検温、食事時間の変更、部屋から出る時にはマスクを使用、外出の自粛、外出先のメモ等ホーム内でできることを呼びかけ、入居者、職員ともに感染予防に取り組んでいる。

(新型コロナ感染症の発生について)

今年度内にホームの入居者については2名(ホーム表参道1名/ホーム千曲1名)の方の陽性が確認されている。1名は発熱等症状が強く入院をして治療。1名は無症状のため療養施設にて療養してい

る。発生時には NLSグループの感染対策委員とも連携をし情報を共有。各市町村の保健所とも密に連携をして、他の入居者、関係職員の検査をスムーズに実施することができた。また、日ごろの世話人等による消毒等の感染防止の取り組みが適切にできていたこともあり、ホーム内での感染の広がりはなく集束することができた。そして何よりも、感染者が発生した際にも快く、支援や通院といった直接支援にあたって頂いた現場スタッフには感謝をしている。

今回の陽性者発生を受け、感染症における BCP の作成を進め、完了している。

## 7. 防災体制

各ホームとも、前期後期 2 回の避難訓練を実施。新たに水害時の災害想定にて訓練を実施している。新型コロナウイルス感染防止のため、1 回しか実施できなかったホームもある。

避難訓練の際には防災用品の期限切れや不足の物の点検、補充を行っている。

また、感染症の BCP を作成したため、災害時における BCP の作成に取り掛かっている。実際に活用できることを心がけながら作成したい。

## 8. 研修等

- ・月 1 回を目標にホーム毎の支援会議を行い、世話人と生活支援員で支援の振り返りと情報の共有及び支援の方向性の確認に努めた。
- ・長野市・千曲市・須坂市の自立支援協議会の各部会に参加して情報共有を行った。
- ・世話人研修は集合研修ができなかったため、それぞれのホーム毎の支援会議において『人権侵害“小さな芽”に気づくにはどうすべきか』を活用し、ディスカッションする研修を行った。
- ・その他、各関係機関で開催される新型コロナ感染症についての研修会に参加。学んだことを現場で活かすことができるよう、スタッフ会議等で報告伝達している。また、研修会自体が Web 環境での開催となったため、スタッフ間で Web 会議アプリ Zoom の使用方法を確認し、積極的に研修会へ参加している。

## 9. 地域への開放

新型コロナ感染症の感染防止のため、自由に施設を開放することはなかったが、長野清泉女学院の心理学科の実習生を受け入れ、地域で暮らす障がい者の生活について学ぶ機会を提供してきた。今後も続けていく予定。

## 10. 評価及び課題（実践を通して）

今年度も新型コロナに関わる対応に追われた一年だったと言える。感染予防の対策はもちろんのこと、陽性者の発生時には、迅速かつ適切な判断と対応に迫られ、保健所のアドバイスを受けながら、現場のスタッフの頑張りで、ホーム内でのクラスター発生をさけることができた。今後も緊張感が続く中で、緊張と緩和を適切に調整しながら、ホームで暮らす皆さんの生活を支えていきたい。

Sさんは、週末には必ず路線バスに乗って日帰り温泉に行き、そこで食事を食べ、ビールを飲んでくる。それが生活する中で一番の楽しみとなっている。そんな Sさんにとって新型コロナ感染対策のための外出自粛は苦痛でしかなかったであろう。1ヶ月程度は我慢をして週末にも出かけずにホームで過ごしていた。しかし、段々と Sさんの言動が変わり「姉はクマに食べられた」「〇〇が殺しに来る」「殴りに来る」といった、妄想的な言動が増えてきた。自粛が続くとこの妄

想的な言動はよりひどくなることがわかってきた。ご本人にとっては相当なストレスとなっていたことが想像できる。

そのストレスを緩和させるために、他の皆さんに合わせるのではなく、Sさんに合わせた外出自粛をお願いすることとなった。「週末土日の2日は難しいけど、1日だけなら外出してもいいよ」「長野市の繁華街への外出はダメだけど、近場の温泉だったらいいよ」等々、ご本人と相談しながら、折り合いをつけてもらいながら、Sさんの週末の楽しみを確保していくこととなった。もちろん、折り合いのついた外出ができるようになると、ご本人の妄想的言動はぴたりと止まり、全く聞かれなくなった。

感染症の防止対策とは言え、頭ごなしにルールを決めて、こちら側のお願いだけを伝えていくのではなく、ご本人と相談をしながら、お互いに折り合いをつけ、物事を決めていく。そして何よりもそういった「個別的な支援」が大切なんだということを改めて実感させられる実践だった。

生活全体が新型コロナの影響を受ける中、そんな中でも自分の幸せを広げようと奮闘する彼がいた。Aさん25歳。彼は7年前児童養護施設からグループホームへ入居してきた。その時から「いつかは一人暮らしをしてみたい」と希望していた。

社会的なトラブルを抱えやすいAさん、グループホームで暮らす中でも何度か課題となる出来事があった。その都度、支援スタッフがサポートしながらトラブルを乗り越えてきている。精神的にも成長をし、落ち着いた生活を送るようになっていく。そしてまじめな彼は、仕事は休まず、職場での評価は常に良いという状態だった。

そんな彼が、一人暮らしに向け具体的な行動を始めた。マンスリー物件で一人暮らしの体験を始めた。体験にあたっては、ホームでご飯の炊き方を学び、野菜炒めの練習をした。お金の管理は社会福祉協議会（社協）をお願いをした。支援者の心配をよそに、休まず仕事に通い、買い物も決まったお金の中で適切にできていた。雨が降ったときには自分で路線バスを調べてバスで出勤したり、欲しい物があれば自転車で遠くまで買い物に行き、自分の時間を楽しんでいた。そんな体験を通して、彼の「一人暮らしをしたい」という気持ちは加速していき、R4.3月にアパートを借りての一人暮らしへと移行をしていった。

支援者は、料理が作れて食事が食べられるのか？お金を使いすぎないか？そんな心配をしていたが、Aさんが最後に心配していたことは、「何かあったときの相談場所」だったように感じる。一人暮らしに向け、普段の様子が直接わかるように、居宅支援を入れた。お金の相談のために社協とつないだ。地域の相談場所として基幹相談の相談員とつないだ。職場でも相談にのる環境を伝え、ホームの支援者も今後も相談にのることができることを伝えた。そしてAさんはひとり暮らしをスタートさせた。

自立は、「自分のことは自分でできるようになること」と思っている方がいる。しかし、そんなことを言い出したら誰も自立することができない。たくさんの方とつながって、「自分が困ったときに、人に頼ることができること」の方が自立していくには必要なことだろう。そういう意味では、Aさんがひとり暮らしをする時に、相談できる場所、相談できる人を気にかけてのは、自立への大きな一歩だったと言える。



「答えは現場が教えてくれる」、常に現場の支援を通して学び、地域で暮らす方々の生活、夢の実現を支えていきたい。

### 【短期入所事業】ショートステイ

「自立生活をしたい!」「グループホームで生活してみたい!」「将来的には自立した生活をしてほしい」「親元を離れての暮らしがイメージできる体験をさせたい」「緊急時に対応してもらえ  
る場があると安心」という本人・保護者の願いに沿うべく、当法人の共同生活援助住宅の一室を  
活用して短期入所（ショートステイ）の事業を開始した。

利用のきっかけや目的は様々で、グループホームで生活リズムを作りたい人、家を離れる体験  
をしてみたい人、グループホーム入居に向けて練習したい人のほかに、家庭の都合や事情で緊急  
に利用したい人などであった。

#### 1. 事業の開始

平成 22 年 7 月 1 日 CoCo ホーム表参道 / CoCo ホームぼたんの里

平成 29 年 6 月 1 日 地域生活支援センターCoCo ちくま (CoCo ホーム三本木)

#### 2. 事業提供の場所と定員

CoCo ホーム表参道 定員 1 名

CoCo ホームぼたんの里 定員 1 名

CoCo ホーム三本木 定員 2 名

#### 3. 利用状況（月別のべ利用人数）

	R3 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R4 1月	2月	3月
表参道	8	16	23	21	25	20	25	17	10	4	1	9
ぼたんの里	9	9	8	12	6	8	20	12	9	8	6	8
三本木	43	38	55	30	32	30	33	34	32	5	0	19

#### 4. 評価及び課題

事業開始 11 年目、定期利用者（月 1 回・隔週 1 回）が定着している。

新型コロナの感染防止対策によりショートステイのご利用を控えて頂いた時期がある。個別に  
連絡をしてご利用について確認しながらサービス提供を行ってきた。新型コロナ感染症の感染防  
止対策を行いながらショートステイの利用を続けてきている。

ホーム表参道においては、地域で暮らす方のショートステイ利用希望も増えてきていたが、新型コロナ

のため利用を控える方が増え、利用者は減っている状況にある。

ホームわたんの里においては、定期的に利用されている方が定着して利用している。また、ご家族の入院によって長期的にショートを利用される方もいる。

ホーム三本木は、利用できる居室が2床あることが大きなメリットであると共に、2床が利用されていても、緊急的に3人目を受け入れる体制ができています。R4年度からは、地域生活支援拠点として緊急時の受け入れを担っていく。

定期的な利用の理由としては、ご家族の介護軽減もあるが、よりご本人の自立を視野に入れた利用を希望されていることが多いと感じる。障がいの重い方であっても、地域で自立した生活を送るための地域社会資源として有意義に活用されることにつながり、今後も利用頻度は高くなっていくと思われる。

### 【居宅介護等事業】 - 地域生活支援センターCoCo ながの -

事業開始年月日 平成 18 年 7 月 1 日

平成 22 年 5 月より、長野市基準該当事業所として登録

事業内容

- ・居宅介護事業（身体介護中心・家事援助中心・通院等介助）
- ・行動援護事業
- ・移動支援事業
- ・長野市障害児自立サポート事業
- ・市町村障害児（者）タイムケア事業

職員体制

管理者 1 名 / サービス提供責任者 1 名 / 居宅介護等従事者 6 名  
行動援護従事者 5 名 / 移動支援従事者 7 名 / タイムケア等従事者 8 名

利用者

日中の通所事業利用者 / グループホーム入居者

在宅単身生活者 / 在宅の障がい者・児（日中を他法人事業所利用）

長野養護学校児童・生徒 / 稲荷山養護学校児童・生徒

特別支援学級及び情緒学級在籍児童・生徒

評価及び課題

<居宅介護事業>

新型コロナの感染拡大を受け、移動支援については今年度は支援を控えてのサービスとなっている。

居宅介護事業全体を通して、毎年課題となっているのがヘルパーの不足だ。利用の希望があっても当事業所だけでは担うことができない。他事業所との協力体制の上、支援提供を続けている。情報の共有、ケア会議への参加等を行うことで、関係者間との連携を円滑にとることができた。

通院等介助の利用を希望が年々増え続けている。障がいのある方にとって、通院に関する支援はとても重要な部分であり、地域で暮らす方達にとっては、なくてはならないものとなっている。必要な方に対しては、適切な支援が提供されるべきである。また、グループホーム入居者の高齢

化も進み始め、現状のスタッフで何とかやりくりしている。これからも通院の支援は増えることが想定されるため、通院を担うことのできるヘルパーが必要となる。

< 移動支援事業・行動援護事業 >

移動支援については、今年度は新型コロナウイルス感染症の広がり治まらず、利用者の安全、支援者の安全を考え、長野県から出される感染警戒レベルを判断基準として、サービスの提供を行ってきた。警戒レベルが高い状況が続いているため、必要最低限のサービス提供となっている。

行動援護についても移動支援と同様に対応してきたが、移動支援に比べサービスの必要性は高いため、感染防止の工夫をしながらサービス提供を続けてきている。地域で暮らす重い障がいのある方の社会参加を支え、余暇支援、外出支援を積極的に提供することが出来ている。しかし、対応が困難な場合もあり、今後も行動援護従事者の育成、確保が必要となっている。行動援護に従事することのできるヘルパーの確保が急務であり、ヘルパーやスタッフの専門的スキルの獲得も必要となっていく。

< 障害児自立サポート事業・タイムケア事業 >

障害児支援においては、利用されている児童が学童期を過ぎたため、年々利用時間は減っている。今年度は主に1名の児童の受け入れを続けてきた。また、その1名についても個別での対応の必要性が低くなったため、タイムケアと共に集団での支援を提供している。

新型コロナウイルスの感染防止を第一に考えながら、外出先を決め、集団での活動、様々な社会体験を積む時間を提供することを心がけてきた。また、ケア会議を通して各事業所間の情報共有を計ると共に、統一した支援につなげることができている。

特別支援学校在学中の児童さんについては、サービス利用に関すること、また生活上の困りについてケア会議に参加する等相談にのることができた。タイムケア事業としてお預かりするだけでなく、相談にのる、今後について一緒に考えるといった地域の社会資源としての役割を果たすことにつながっている。また、個別の相談を受ける中で、当法人に計画相談を依頼される方が増えており、児童期からの信頼関係の築きが大切だと言える。

今後も活動の充実及び、個々に合わせた療育的支援の充実を図っていきたい。

## 利用実績

	居宅介護 (身体介護・家事援助・通院等介助)			行動援護			移動支援			タイムケア			長野市障害児 自立サポート		
	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用P
令和3年 4月	7	8	8.5	9	27	114.5	5	5	20.5	10	38	119.25	1	4	23.50
5月	6	8	9.0	8	30	119.5	4	4	17.5	12	53	205	1	5	28.50
6月	7	10	11.0	9	27	83.5	7	7	30.5	11	45	145	1	3	16.75
7月	4	6	6.0	10	28	112.5	8	9	44.5	11	53	190.5	1	5	29.00
8月	6	8	9.5	7	24	68.0	4	4	18.5	11	36	117.75	1	2	11.00
9月	3	5	5.0	7	29	80.5	5	5	24.0	12	41	143.25	1	2	10.75
10月	5	7	6.5	8	34	121.5	7	8	41.0	12	50	198.50	1	4	23.00
11月	7	10	11.0	8	32	107.5	14	15	84.5	13	43	145.25	1	4	21.75
12月	9	12	12.5	8	35	122.0	11	13	74.0	11	31	102.00	1	3	16.50
令和4年 1月	5	7	6.0	5	22	73.0	2	2	10.5	9	28	97.5	1	3	17.50
2月	5	6	6.5	9	28	114.0	2	2	9.5	6	37	150.00	1	3	16.50
3月	6	8	7.5	8	28	121.5	4	4	20.5	5	20	53.00	1	4	21.75
合計	70	95	99.0	96	344	1238.0	73	78	395.5	123	475	1667	12	42	236.50

### 【相談支援事業】

#### (指定特定相談・指定障害児相談・指定一般相談・長野市区分認定調査)

専任3名、兼務1名の相談支援専門員が、障害福祉サービス等利用計画の作成に取り組むことができた。そのため、機能強化型サービス利用支援費( )の加算基準を満たした状態で運営することができた。そして、昨年と同様、長野市からの依頼や高校・高等部卒業に当たり障害福祉サービスを利用したい新規の利用者の障害福祉サービス等利用計画の作成を行った。

長野市、千曲市の委託相談員とは連携を密にし、相談員から依頼が上がってくる新規の相談ケースについても積極的にお受けしてきた。

また、サービス更新、ご本人・ご家族・事業所からの相談（サービス追加・変更等）などに合わせて支援会議を実施してきた。ご本人・ご家族と市町村ケースワーカー、各事業所の担当者、サービス管理責任者、相談支援専門員が顔を合わせて生活の様子を参加者で共有すると同時に障害福祉サービス利用の状況把握や意向確認を行う事が出来る良い機会となった。各種サービスの利用方法の相談等、ご本人やご家族に寄り添い身近な存在として相談支援専門員がいたことは、安心につながったように感じる。

相談支援専門員や障害福祉サービス等利用計画の質を向上させるために、指定相談支援事業所連絡会に出席し情報収集、情報共有や各種研修への参加を重ねてきた。各研修会に参加することで、行動障害支援体制・精神障害者支援体制・要医療児者体制の加算基準を満たすことができている。また、今年度には主任相談支援専門員研修を1名が修了することができたため、R4年度より、主任を配置し、事業所内の相談支援の質を高めるとともに、地域の社会資源として活躍できるようにしていきたい。

令和1年12月に、法人内の相談支援事業をながのに統一したことで、法人全体の相談支援事業の体制が強化されている。情報の共有、支え合いながらの実践をすることで、相談支援専門員が今まで以上に連携をし、チームとして相談支援が進められる環境となっている。

受給者証の管理においては、障害福祉サービス支給決定期間終了後、一定期間を過ぎた時点で、受給者証の把握ができていない方の一表を毎月作成した。その一表を事業所へ配布し、家庭や市町村ケースワーカーへの確認を促した。また、内部の報告書についても、請求担当と相談しながら情報把握がしやすい書式を適宜改訂しながら活用している。

市町村によって、提出書類や提出方法が異なる点や、受給者証の発行時期遅滞や更新内容と支給決定された内容に相違がある点等、戸惑う部分があったが連絡調整をしながら、順調に進めることができた。事務手続きについても、各相談支援専門員と請求担当者間で適切に連携を図って進めたい。

令和3年度相談支援事業実績					
		ながの			
		サービス等 利用計画	モニタリング	地域移行	認定調査
R3	4月	13	29		1
	5月	21	29	1	
	6月	20	49	1	
	7月	26	30		1
	8月	14	27		
	9月	16	34		1
	10月	13	27		
	11月	16	22		
	12月	26	40		1
R4	1月	18	39		1
	2月	19	24		1
	3月	33	30		
合計		235	380	2	6

#### 【長野市障害児（者）ケアプラン作成事業】

長野市ケアプラン作成事業については、指定計画相談支援事業の補助的な役割となっている。当法人の持つ長野市障害児ケアプランは、すべて指定障害児相談支援事業に移行することができるため、令和3年度には長野市ケアプランは作成されなかった。

#### 【千曲市障害者等基幹相談支援センター事業】

障害者等相談支援事業

- ・千曲・坂城障がい者（児）基幹相談支援センター 7名  
（センター長1名・相談員1名・事務員1名 計3名が地域センターCoCoながの所属）

<1年間を振り返って>

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各種会議や研修は対面形式からズームでの開催へと変化し、画面越しでのやりとりにも、随分慣れてまいりました。さらには、訪問や会議等の開催は状況に合わせ制限がありましたが、基幹の活動の一環として、面談、訪問、同行支援の実施や支援会議や関係者会議等への参加につきましては、できるだけ普段通りに対応することを意識

してまいりました。支援を待っている方や関係者の方々から、必要としていただけたのではないかと、基幹の役割を再確認したところです。

また、その他に影響を受けた事例として、生活困窮者の方が増えてきたことが挙げられます。コロナ禍の中で解雇を余儀なくされた方、働き口がみつからない方等々。置き去りにしない支援体制が求められています。生活様式が変わり、マスクの着用も当たり前となるなか、何を思い何を訴えたいのか、見えている目や表情、声のトーンから、また見えない部分から読み取るスキルを、前にも増して求められたこと。そして、ズームでの面談も少しずつ取り入れられたことは、コロナ禍の副産物であったのかもしれませんが。

今後 Web をうまく取り入れながら臨機応変に業務を進めていかれたらと思います。さて、自立支援協議会の再編案（運営委員会の構成メンバー・事業所連絡会のあり方等）が承認され、次年度に向け具体的に動くこととなりました。「運営委員会」の構成メンバーには、事業所が増えるにあたり社会福祉法人格の事業所を中心に、さらには地域密着の要として、新たに民生児童委員が加わります。

事業所連絡会は「地域連絡会」の名称に変わりますが、各専門部会長を中心に、地域の課題解決に取り組むため、協議の場がさらに機能するよう創意工夫が求められます。事業所連絡会に参加されていた事業所の代表の方々には、引き続き専門部会等への参加をお願いし、各専門部会のさらなる底上げに協力をお願いしたいと思います。

今後は、各専門部会のあり方や、家族の立場と同じように、当事者の立場で協議会への参加を確立していくか検討が望まれます。なお、「精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの検討委員会」も発足し、医療・福祉・地域・当事者のそれぞれの立場で第1回の協議の場を開催いたしました。誰もがこの地域で安心して暮らせるよう、協議会の重層的な取り組みに発展することを目指したいと思います。

このように協議会の運営は、安心した暮らしを実現するためにも、さまざまな取り組みや改革が求められてきます。事務局の役割も大きくなる一方、基幹として相談支援体制等の充実に向けての取り組みが求められる中で、それぞれの業務量を考えながら、今後バランスをどうとるかが課題となってきます。

2021年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、5月1回目の全体会は書面での承認となりました。2回目は、さん・さんネット部会が企画した「さんきゅーアート展」を中心に、子ども部会が関係者に向けた講演の企画、事業所連絡会主催の権利擁護の普及啓発のための講演、就労部会の事業所販売会開催を、全体会の位置づけとして取り組んでまいりましたが、一部を除き企画を断念差ざるを得ませんでした。

2022年度は、新しい人との出会いや再会を大事にしながら、当事者の皆さまが輝ける場所と一緒に作っていかれたらと思っています。

< 年間相談件数 >

年間相談件数 4251件								
年間件数	電話	2479	来所	544	同行	201	訪問	231
合計 4251 件	メール	327	支援会議	284	関係機関	24	その他	161
対象者(実人員)	身体	29	知的	101	精神	156	発達	44
433 人	高次脳	1	重症心身	0	その他	104		
支援内容	福祉サービス利用	1317	不安の解消	1030	人間関係	821	健康・医療	781
(相談件数の多いものから抜粋)	就労	863	家計・経済	686	保育・教育	90	生活技術	377
	障害の理解	310	社会参加	196	地域移行・定着	50	権利擁護	37
家計・経済に関する相談のうち、年金に関する相談は 215件								
福祉サービスに関する相談のうち、児童に関する相談は 286件								

【長野市障害者相談支援センター事業】

長野市内は7か所の相談支援事業所が各地域で総合相談を受ける仕組み(サテライト)であるが、令和3年度より長野市南部については、正式に「長野市南部障害者相談支援センター」が開所され、長野市南部を対象地域とした3法人が一か所に集まり、新たな相談支援体制が始まっている。

センター化されたことで、複数の専門員同士で相談、情報共有ができる環境となった。センター内で情報の共有ができることで専門員同士の協力体制が強くなり、それまで以上に相談への対応がスムーズになった。困難ケースへのアプローチの仕方や、より専門的な支援が必要な方への支援の方法等、チームとして係ることが出来る様になっている。

また、主任相談支援専門員の研修を受講し、委託の専門員として今まで以上に相談支援専門員の相談にのる、スーパーバイズを行うといった立場になってきている。

長野市障害者相談支援センター事業としては、相談支援センターの基幹化に向け、人員配置・環境を整備していく予定。



障がい者総合支援センターの利用者及び相談支援の状況（R3）

センター名： 長野市南部障害者相談支援センター

1 障がい種別登録者数（実人数）

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
59	88	207	54	45	453
視覚障がい者				高次脳障がい	
3				2	
聴覚障がい者					
2					

2 障がい種別相談延べ件数

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計
476	1,268	3,381	564	86	5,775

3 支援方法別相談延べ件数

訪問	来所	電話	電子メール	個別支援会議（ケア会）	その他	合計
260	401	3,639	61	202	1,212	5,775

チェック欄

4 相談の内容(複数回答あり)

相談内容	延べ件数	割合
福祉サービスの利用（社会資源の活用）	3,289	47.97%
社会資源の活用	上記に含む	
障害や病状の理解	616	8.98%
健康・医療	567	8.27%
不安解消・情緒安定	276	4.03%
保育・教育	109	1.59%
家族関係・人間関係	351	5.12%
家計・経済	238	3.47%
生活技術	645	9.41%
就労	277	4.04%
社会参加（余暇活動）	216	3.15%
余暇活動	上記に含む	
権利擁護	12	0.18%
その他	261	3.81%
合計	6,857	100.00%

把握している範囲で結構です。